

官報

號外 昭和十四年三月七日

○第七十四回衆議院議事速記録第二十一號

昭和十四年三月六日(月曜日)

午後一時二十分開議

議事日程 第二十號

昭和十四年三月六日

午後一時開議

第一 米穀配給統制法案(政府提出)

第一讀會

第二 輕金屬製造事業法案(政府提出)

第一讀會

第三 花柳病豫防法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第四 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第五 鑛業法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

○議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

(第一號)昭和十四年度歳入歳出總豫算追加案

(特第一號)昭和十四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(追第二號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
映畫法案
(以上三月六日提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)
一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
輕金屬製造事業法案
(以上三月四日提出)

一 去四日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ
人事調停法案
一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
上越西線敷設ニ關スル建議案

提出者

増田 義一君

加藤 知正君

神職待遇改善ニ關スル建議案

提出者

視學制度改善ニ關スル建議案

提出者

泉 國三郎君

坪山 德彌君

治山治水國策ノ確立及南九州ニ於ケル水害救済ニ關スル建議案
提出者 伊東 岩男君

東北農民藝品維持振興ニ關スル建議案
提出者 松岡 俊三君

治療師法制定ニ關スル建議案
提出者 守屋 榮夫君

宮崎小林間鐵道速成ニ關スル建議案
提出者 青木 精一君

(以上三月四日提出)
一 去四日平沼內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ
司法書記官 森山武市郎
第七十四回帝國議會司法省所管事務政府委員被仰付
一 去四日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
國際電氣通信株式會社法中改正法律案(政府提出)委員

岡野 龍一君

多田 滿長君

南雲 正朔君

高橋 義次君

大本貞太郎君

西方 利馬君

小林 絹治君

伊豆 富人君

富吉 榮二君

川副 隆君

最上 政三君

高木衆太郎君

植原悦二郎君

永田 良吉君

犬養 健君

清瀨規矩雄君

青木 精一君

田川大吉郎君

職員健康保險法案(政府提出)委員

紫安新九郎君

成島 勇君

喜多壯一郎君

豐田 豐吉君

泉 國三郎君

田子 一民君

星島 二郎君

永山 忠則君

米窪 滿亮君

郵便年金法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員

木原 七郎君

仲井開宗一君

庄 晋太郎君

山川頼三郎君

鈴木 正吾君

本田彌市郎君

仲西 三良君

木村作次郎君

小平 重吉君

一 去四日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
國境取締法案(政府提出)委員

辭任長谷 長次君

補關石坂 繁君

昭和十二年法律第五十七號中改正法律案(鐵ノ輸入税免除ニ關スル件)(政府提出)外一件委員

辭任名川 侃市君

補關野口 喜一君

辭任武知 勇記君

補關原 玉重君

人事調停法案(政府提出)委員

辭任田川大吉郎君

補關椎尾 辨匡君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第一、米穀配給統制法案ノ第一讀會ヲ開キマス——農林大臣櫻內幸雄君

第一 米穀配給統制法案(政府提出)

第一讀會

米穀配給統制法案

米穀配給統制法

第一條 米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理者ハ媒介ノ業務ヲ行ハントスル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ勅令ヲ以テ定ムル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者命令ノ定ムル所ニ依リ正當ノ事由ナクシテ業務ヲ開始セザルトキ又ハ其ノ業務ヲ休止シタルトキハ政府ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三條 政府第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行為ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ制限シ若ハ停止スルコトヲ得

第四條 政府ハ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理者ハ媒介ヲ爲ス者ニ對シ米穀ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

政府必要ト認ムルトキハ何時ニテモ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ命ジ又ハ其ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第五條 米穀市場ハ日本米穀株式會社ニ限リ之ヲ開設スルコトヲ得

日本米穀株式會社米穀市場ヲ開設セン

トスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市場毎ニ政府ノ認可ヲ受クベシ
何人ト雖モ米穀市場ニ類似ノ施設ヲ爲シ又ハ其ノ施設ニ依リ取引ヲ爲スコトヲ得ズ

第六條 米穀市場ノ賣買取引ハ差金ノ授受ニ依リ其ノ決済ヲ爲スコトヲ得ズ但シ履行期ニ於ケル決済ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

日本米穀株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀市場ノ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシメ又ハ手数料ヲ徴收スルコトヲ得

米穀市場ノ賣買取引ノ方法其ノ他賣買取引ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 米穀市場ノ賣買取引ノ價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制法第二條ノ最低價格及最高價格ニ準據シテ定ムル價格ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第八條 米穀市場ノ賣買取引ハ其ノ市場ノ市場員ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

市場員タラントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ免許ヲ受クベシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第二項ノ免許ヲ受クルコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル者ハ此ノ限ニ在ラズ

シタル法人ニ非ザル

二 破産者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後三年ヲ經過スルニ至ル迄ノ者

四 米穀市場ノ市場員ニシテ除名セラレ除名ノ日ヨリ三年ヲ經過セザルモノ

五 第二十條ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレ取消ノ日ヨリ三年ヲ經過セザル者

六 營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者又ハ禁治產者ニシテ其ノ法定代理人ガ前各號ノ一ニ該當スルモノ

七 法人ニシテ其ノ業務ヲ執行スル役員中第一號乃至第五號ノ一ニ該當スル者アルモノ

第十條 米穀市場ノ市場員前條第一號乃至第四號、第六號若ハ第七號ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ日本米穀株式會社ノ役員ト爲リタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

政府ハ不正ノ手段ニ依リ第八條第二項ノ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十一條 本法ニ規定スルモノノ外市場員ノ資格其ノ他市場員ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 市場員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ日本米穀株式會社ニ身元保證金ヲ納付スベシ

第十三條 日本米穀株式會社ハ米穀市場ノ秩序ヲ保持スル爲メ定款ノ定ムル所ニ依リ市場員ノ業務ヲ停止シ、千圓以内ノ過怠金ヲ課シ又ハ政府ノ認可ヲ受ケ市場員ヲ除名スルコトヲ得

第十四條 市場員ハ業務ヲ廢止シタル後ト雖モ米穀市場ノ賣買取引ノ了了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引了了後二週間ヲ經過スル迄仍業務ヲ廢止セザルモノト看做ス

市場員死亡シ若ハ解散シ又ハ其ノ免許ガ取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ米穀市場ノ賣買取引ノ了了ニ至ル迄亦前項ニ同じ

第十五條 前二項ノ場合ニ於テ市場員ノ行為ヲ爲ス者ナキトキハ日本米穀株式會社ハ定款ノ定ムル所ニ依リ他人ヲシテ其ノ行為ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 市場員ハ其ノ米穀市場ニ依ラズシテ米穀ノ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於ケル米穀ノ賣買取引ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 市場員ハ委託ヲ受ケタル米穀市場ノ賣買取引ニ付米穀市場ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サズシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以

テ委託者ニ對シ其ノ決濟ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シタル市場員ハ日本米穀株式會社定款ノ定ムル所ニ依リ之ニ二週間以上業務停止ヲ命ジ又ハ之ヲ除名スベシ

第十七條 日本米穀株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ米穀市場ノ賣買取引ノ違約ヨリ生ズル損害ニ付賠償ノ責ニ任ズルコトヲ得

日本米穀株式會社前項ノ規定ニ依リ損害ヲ賠償シタルトキハ違約者ニ對シ其ノ賠償シタル金額及之ニ要シタル費用ニ付求償權ヲ有ス

第十八條 日本米穀株式會社ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有ス

市場員ニ對シ米穀市場ノ賣買取引ノ委託ヲ爲シタル者ハ委託契約ニ基キ生ズル債權ニ關シ其ノ市場員ノ身元保證金ニ付他ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有ス

第一項ノ優先權ハ前項ノ優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス

第十九條 政府ハ市場員ニ對シ米穀市場ノ賣買取引ニ關シ米穀ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

政府必要ト認ムルトキハ何時ニテモ市場員ニ對シ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ命ジ又ハ市場員ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第二十條 政府市場員ノ行爲ガ本法若ハ

本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ制限シ若ハ停止スルコトヲ得

第二十一條 日本米穀株式會社ハ米穀ノ配給ノ統制ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第二十二條 日本米穀株式會社ノ資本ハ三千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第二十三條 日本米穀株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第二十四條 政府ハ千五百萬圓ヲ限リ日本米穀株式會社ニ出資スベシ

前項ノ規定ニ依ル出資拂込金ハ米穀需給調節特別會計ノ歳出トシ該出資ニ因リ政府ノ取得シタル株式ハ同特別會計ノ所屬物件トス

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第二十五條 日本米穀株式會社ニ非ザルモノハ日本米穀株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二十六條 日本米穀株式會社ニ役員トシテ理事長、副理事長各一人、理事五人以上及監事三人以上ヲ置ク

理事長ハ日本米穀株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ日本米穀株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ日本米穀株式會社ノ業務ヲ監査ス

第二十七條 理事長及副理事長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第二十八條 理事長、副理事長及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 日本米穀株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 米穀市場ノ開設

二 政府ノ委託ニ依ル米穀ノ買入又ハ賣渡

三 前二號ノ事業ニ附帶スル事業

四 其ノ他本會社ノ目的達成上必要ナル事業

日本米穀株式會社ハ前項ノ事業ノ外命令ノ定ムル所ニ依リ米穀市場ノ開設ニ附帶シ麥、大豆其ノ他ノ雜穀又ハ肥料ヲ賣買取引スル市場ヲ開設スルコトヲ得

前項ノ麥、大豆其ノ他ノ雜穀又ハ肥料ヲ賣買取引スル市場ニ於テハ其ノ賣買取引ニ付差金ノ授受ニ依リ決濟ヲ爲スコトヲ得ズ

日本米穀株式會社第一項第三號若ハ第四號又ハ第二項ノ事業ヲ營マントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

日本米穀株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ休止スルコトヲ得ズ

第三十條 日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ米穀市場ノ賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ

日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人ハ市場員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他市場員ノ業務ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ズ

第三十一條 政府ハ日本米穀株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三十二條 定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ

生ゼズ

第三十三條 政府ハ日本米穀株式會社監理官ヲ置キ日本米穀株式會社ノ業務ヲ監視セシム

日本米穀株式會社監理官ハ何時ニテモ日本米穀株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本米穀株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日本米穀株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本米穀株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十四條 日本米穀株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

日本米穀株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式

ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト四トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十五條 政府ハ日本米穀株式會社ニ對シ米穀ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

政府ハ日本米穀株式會社ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 政府ハ日本米穀株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ノ取消シ、役員ノ解任又ハ事業ノ停止若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 米穀市場ニ類似ノ施設ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 米穀市場ニ類似ノ施設ニ依リ取引ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シ市場員トノ間ニ特別ノ利害關係ヲ生ズルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第一條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行ヒタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者

ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ依ル制限又ハ停止ノ處分ニ違反シタル者

二 第四條第一項又ハ第十九條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第四十二條 第四條第二項又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人米穀市場ノ賣買取引又ハ政府ノ委託ニ依ル米穀ノ買入若ハ賣渡ニ關スル職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

第四十四條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第四十五條 米穀市場ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虚偽ノ風説ヲ流布

シ、偽計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 米穀市場ニ於ケル相場ヲ偽リテ公示シタル者

二 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虚偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作成シ又ハ之ヲ頒布シタル者

第四十七條 米穀市場ニ依ラズシテ米穀市場ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第四十八條 米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第四十條又ハ第四十一條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ズ

第四十九條 第四十條及第四十一條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 日本米穀株式會社左ノ各號ノ

一ニ該當スルトキハ理事長又ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副理事長ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副理事長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副理事長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ
一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ
二 第二十九條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ
三 第三十五條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ
日本米穀株式會社ノ理事長、副理事長又ハ理事第二十八條ノ規定ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス
第五十一條 第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス
第五十二條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス
附則
第五十三條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第五十四條 政府ハ設立委員ヲ命ジ日本米穀株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受ケタル後株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ株主ヲ募集スベシ

株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ
設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ
設立委員ハ前項ノ檢査ヲ受ケタル後遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ
創立總會ニ於テハ第二十七條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ
創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本米穀株式會社理事長ニ引渡スベシ
第五十五條 取引所法ハ米穀ニ關シテハ之ヲ適用セズ
前項ノ規定ノ施行前米穀ノ賣買取引ヲ爲ス取引所ニ於テ爲シタル米穀ノ賣買取引ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ其ノ取引ヲ結了スルコトヲ得
第一項ノ規定施行前米穀ニ關スル行爲ニシテ取引所法ノ罰則ヲ適用スベカリシモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
第五十六條 日本米穀株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ米穀ヲ賣買取引スル取引所又ハ正米市場開設者ガ本法公布ノ際現ニ所有スル土地、建物其ノ他ノ設備ヲ其ノ申込ニ應ジ買

取ルモノトス
日本米穀株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ本法公布ノ際現ニ存スル米穀ヲ賣買取引スル取引所ノ使用人及取引員ニシテ前條ノ規定施行ノ日迄引續キ其ノ業務ニ從事スルモノニ關シ必要ナル措置ヲ爲スモノトス
政府前二項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ米穀取引事業審議委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス
米穀取引事業審議委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第五十七條 日本米穀株式會社前條第一項ニ規定スル買取ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録稅ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登録稅法ニ依リ算出シタル登録稅ノ額ガ本法ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル
北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ日本米穀株式會社ニ對シ前條第一項ニ規定スル買取ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ
第五十八條 第二十五條ノ規定施行ノ際現ニ日本米穀株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ同條ノ規定施行後六月以内ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス
第五十一條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ

前項ニ掲グル者ニ適用セズ
第五十九條 第一條ノ規定施行ノ際現ニ同條ノ許可ヲ受クベキ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ同條ノ規定施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス
第六十條 取引所稅法中第二十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第二十一條ノ二 日本米穀株式會社ノ米穀市場ニ於ケル賣買取引ニシテ差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シ得ルモノニ付テハ命令ヲ以テ定ムル賣買取引ヲ除クノ外日本米穀株式會社及其ノ米穀市場ヲ取引所、其ノ市場員ヲ取引員ト看做シ本法中取引稅ニ關スル規定ヲ適用スル場合ニ於テハ第五條第一項ノ規定ニ拘ラス賣買取引各約定金高ニ對シ萬分ノ一・二五ノ稅率ニ依ル米穀配給統制法第十六條ノ規定ニ違反シタル行爲アリタルトキハ第十七條ノ例ニ依ル
日本米穀株式會社ノ米穀市場ニ於ケル賣買取引ニシテ第一項ニ規定スル賣買取引ニ該當セサルモノニ付差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シタルトキハ第十七條ノ二ノ例ニ依ル
〔國務大臣櫻內幸雄君登壇〕
○國務大臣(櫻內幸雄君) 只今議題トナリマシタ米穀配給統制法案ニ付テ提出理由ヲ御説明致シマス、申上ゲルマデモナク、米

ハ我が國民ノ主要食糧デアリマシテ、此ノ米穀ノ生産及ビ供給ヲ確保シ、且ツ其ノ價格ノ適正ヲ期シマスコトハ、最も必要ナルコトデアリマスガ、特ニ現下ノ時局ニ鑑ミ、長期持久ノ事變下ニ於テ、國民ヲシテ主要食糧ニ毫モ不安ナカラシメマスコトハ、即チ各般ニ互ル國家活動ノ基礎ヲ固ウスル所以デアリマスト共ニ、出征將士ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメ、且ツ銃後國民ノ生活安定上絕對ニ必要ナル事柄デアリマス

固ヨリ政府ト致シマシテハ、米穀ノ生産維持、需給ノ均衡ニ付キマシテハ最善ノ努力ヲ拂ヒ、又米價ノ適正ニ付キマシテモ、米穀統制法ノ運用等ニ依リ、萬遺憾ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス、幸ヒ事變勃發以來一年有半ヲ經タル今日、國民ハ食糧ニ聊カノ不安モナク、一途長期建設ニ邁進スルコトヲ得マスルノハ、一ニ國土ノ恩恵デアリマスト共ニ、我が農山漁村ノ大ナル努力ニ依ルモノデアリマシテ、誠ニ感謝ニ堪ヘヌ所デアリマス、併シナガラ若シ萬一天候其ノ他ノ關係ヨリ、現在ノ米穀事情ニ急激ナル變動ヲ來スガ如キ事情ノ起リマシタ場合ヲ想像致シマスナラバ、今日ニ於テ豫メ之ニ對應スル爲適切ナル方策ヲ講ジテ置キマスコトハ、極メテ肝要ノコトト確信スルノデアリマス、隨ヒマシテ政府ニ於テハ、此ノ問題ノ重要性ニ鑑ミマシテ、本年以降ニ於ケル米穀ノ生産ニ關シテ、一面ニ於テ必要ナル増産計畫ヲ考慮致シテ居ルノデアリマスガ、殊ニ配給ノ問題ニ關シマシテハ、

米穀需給ノ圓滑、價格ノ適正ヲ圖ル上ニ於テ、米穀配給統制ノ必要アリト認ムルノデアリマス、即チ平時戰時ヲ通ジ、特ニ戰時經濟下ニ於テ、米穀ノ需給ノ調整及ビ價格政策ノ萬全ヲ期シ、一朝米穀事情ノ急激ナル變動ニ際會致シマシタ場合ニ於テモ、國民生活ニ脅威ヲ與フルガ如キコトノ絕對ニナキヤウ、豫メ十分ナル整備ヲ致シテ置クコトノ必要ヲ痛感スルノデアリマス

然ルニ現在ノ米穀取引事情ヲ見マスルニ、配給機構ニ遺憾ノ點ガ尠クナイノデアリマシテ、殊ニ現在ノ米穀取引所ニ於キマシテハ、極メテ自由ナル投機取引ヲ行ヒツアリマス關係上、米穀事情其ノ他經濟事情ノ變化ニ依リマシテハ、假需要ノ誘發、價格ノ激動等、米穀ノ圓滑ナル配給、適正ナル價格ノ維持ニ重大ナル支障ヲ來シ、米穀政策ノ徹底ヲ期シ難キ事態ノ生ズル虞ナシトシナイノデアリマス、隨テ以上ノ事情ヲ綜合シテ考ヘマスル時、此ノ際速ニ取引機構ノ改革ヲ致シマシテ、投機取引ヲ抑制シ、實需ニ基ク正米取引ヲ原則トスル機構ニ改メルト共ニ、是ト並行シテ米穀ノ取扱ヲ爲ス者ノ許可制度ヲ實施スル等、米穀配給機構ニ必要ナル體制ヲ整ヘルコトガ焦眉ノ急務ト存ズルノデアリマス

即チ右ノ趣旨ニ基キマシテ、此ノ度本法案ヲ制定致シマシタ次第デアリマスガ、今本案ノ主ナル内容ニ付テ申上ゲマスレバ、第一ハ、米穀ノ需給ヲ統合シ、是ガ適正ナル價格ヲ構成スル爲ニ、從來ノ米穀取引所

ヲ廢止シ、新ニ日本米穀株式會社ヲ設立シ、全國必要ナル場所ニ正米取引ヲ主トスル市場ヲ開設セシメ、一定ノ規準ノ下ニ取引ヲ爲サシムルコトデアリマス

第二ハ米穀ノ取扱業者ノ安定ヲ圖リ、且ツ必要アル場合政府ノ配給統制ニ協力セシムル爲、新ニ是等ノ者ニ對シ許可制ヲ設クルコトデアリマス

第三ハ、政府ハ必要アル場合ニ於テ米穀ノ取扱業者等ニ對シ、賣買、讓渡使用等ニ關得ルコトト致シタノデアリマス

以上ハ本法案提出理由ノ概略デアリマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——眞鍋儀十君

(眞鍋儀十君登壇)

○眞鍋儀十君 只今議題トナリマシタ米穀配給統制法案ニ付テ質疑ヲ致シタイト存ジマス

事件勃發ト同時ニ國家活動ノ有ユル部分ニ、之ニ對應スル體制ヲ整備致シテ居リマスルコトハ當然デゴザイマシテ、特ニ武漢攻略ヲ契機ト致シマシテ、事變ハ新段階ニ入り、茲ニ長期建設ニ對應スル食糧確保ノ問題ガ採上ゲラレマシタコトハ、興亞議會ニ於テ最も冷靜慎重ニ私共ガ審查シナケレバナラヌ問題ト存ジマス、斯ウシタ見解カラ、私ハ本案ニ依ツテ果シテ今政府ノ述べラレマシタヤウナ、所期ノ目的ヲ達成シ得

ラレルモノカドウカニ付テ、政府ノ所信ヲ質シテ見タイト存ジマス

米穀ノ圓滿ナル配給ト、米價ノ適正ナル規整トハ、必ズシモ今日ノ戰時體制ナラズトモ、平時ニ於テモ必要缺クベカラザルモノデゴザイマスルガ爲ニ、屢、本議場ヲ通ジ、政府ハ統制諸案ヲ提出シ吾々ニ協賛ヲ求メラレテ居リマス、私共ハ其ノ都度巨額ノ國帑ヲ計上シ、又種々ノ政府ノ言明ヲモ信ジ、協賛ヲ與ヘタモノデアリマスガ、是等統制諸案ノ現在ノ情勢ハドウナウテ居ルカト云フコトヲ、本論ニ入ルニ先ダチ政府ニ質シテ見タイト思ヒマス

米穀問題ニ對スル一番最初ノモノハ統制法デアリマス、申スマデモナク、統制法ハ米價ノ低落時ニ政府ガ買上ゲテ、米價ノ昂騰時ニ之ヲ賣却シ、茲ニ調節ヲ圖ラウト試ミタモノデアリマス、政府ハ本案ニ依ツテ國庫ニ損失ヲ及ボスヤウナコトハナイト言明セラレタノデアリマスガ、之ヲ實施シタ後ノ事實ニ顧ミマスレバ、古米ノ格下、金利、保管料等ヲ加ヘ、色々ノ失費ガ嵩ミ、其ノ他ノ事情ハ政府ノ言明ヲ裏切り、本法ノ爲ニ國庫ノ損失ハ實ニ二億三千万圓ヲ超エタノデゴザイマス、昭和八年本法ノ不備ニ依リ、政府ハ重ネテ米穀統制法ヲ提出セラレマシタ、言フマデモナク最高最低ノ米價ヲ公定シ、之ニ依ツテ米穀ノ數量ト價格トヲ調節シヨウトシタモノデアリマス、然ルニ此ノ米穀統制法ノ實施後ハ非常ナ増産デアツタ爲ニ、遂ニ買上米ヲ抱ヘテ苦境ニ陥リ、

數百万石ノ始末ニ困惑サレタ結果ハ、滑稽ニモ雨ヨ降レ、風ヨ吹ケ、茲ニ凶作ガ來ナイ限リハ、始末ノ付カナイト云フ状態ニ陥ツテシマヒマシタ(ノーノ)ノノ(ノーノ)デハナイ、是ガ爲ニ上半期ニ於テ下廻リ、下半期ニ於テ反騰シタガ爲ニ、上半期ニ賣捌キタル貧農ハ、下半期ニ於テ飯米ヲ買入レナケレバナラスト云フコトカラ、有名ナ飯米飢饉ガ生ジテ來タ、斯ノ如クシテ此ノ二案トモ完全ナル目的ヲ遂行スルコトガ出來ナカツタ

次ニ生レタモノガ米穀自治管理法デアリマス、是ハ實施以來何等ノ效果モナク、缺點ダケガ暴露サレテ居リマス、遂ニ舊臘物價抑制目的ノ達成ノ爲、最高米價據置ト云フ問題ニ達著シテシマヒマシタ、是ニ於テ米穀統制諸法ハ完全ニ破綻シ、米價調整機能ハ時局ノ激流ニ浸ヒ去ラレタト云フ現實ガ見セ付ケラレルニ至ツタノデアリマス、最早政府ハ此ノ際舊穀ヲ脱シ、革新的の見地ヨリ根本的改革ヲ斷行スルニアラザレバ、店曝案ヤ彌縫策デハ到底今日ノ時局ハ救ヒ切れナイモノデアルト、吾々ハ過去ノ實績ニ照シ結論ヲ見付ケ出シテ居ルガ、政府ノ所感如何(拍手)

前車ハ屢覆ツタ、其ノ重ナル苦キ經驗ハ政府自體ガ持ツテ居ル筈、本案ノヤウナ不徹底ナモノデ政府ノ所期セラレル目的ガ貫徹サレルナラバ、既ニ此ノ前制定セラレテ居ル統制諸法ニ依ツテ、政府ハ強權ヲ以テ其ノ目的ヲ達成サレテ居ラナケレバナラ

ス(今更半官會社ヲ組織シテ、吾々ニ革新政策ト銘打ツテ協賛ヲ求メラレマシテモ、之ニ安心シテ吾々ハ協賛ヲ與ヘルコトガ出來ヌノデアリマス、固ヨリ現在ノ配給機構ガ米穀取引所、正米市場、米穀取扱業者ノ團體、米穀生産者ノ團體ト、其ノ有機的統一ヲ缺イテ居ル點ニ付テハ私モ認メマス、是ハ他ニ自ラ別箇ノ方途ガゴザイマス、後ニ參考マデニ農林大臣ニ御知ラセスル、唯漫然トソレ等ノモノヲ擧集メテ、茲ニ巨額ノ國帑ヲ費シテ半官會社ヲ組織シ、之ニ依存シテ戰時體制下ノ米穀對策ヲ解決サレヨウトスルコトハ、誤レルノ甚ダシイモノダト私ハ考ヘル(拍手)

斯ウ論ジテ參リマス、政府自體モ本案デハ中々困難ダト肚ノ中デハ知ツテ居ラレル筈、之ヲナゼ豫見シナガラモ提出サレナケレバナナイノデゴザイマス、世間往々批評スル者ガアル、總理大臣自ラ總親和、總努力ヲ「モットー」トシ、只管此ノ時局切抜ケニ邁進サレヨウトシテ居ルニ拘リマセズ、國民ノ間ニ異常ノ相剋摩擦ヲ惹起スベキ、而モ内閣自體ニ於テスラ、今日ニ至ルマデ提案スルコト能ハザリシ程紛糾ヲ重ネラレタト聞イテ居ルガ、ソレヲシモ押切ツテ提出シナケレバナラナカツタ理由ノ中ニハ、取引所救済ノ必然性ト、產組進出ノ推進力ニ依ルト世間唱ヘル者ガアルガ、ソレハ如何デゴザイマセウカ(拍手)本案ヲ立案セラレタ最初ハ、固ヨリ二ツノ問題ガ中心デアツタ、ナゼ政府ハ率直ニソレヲ言ハヌカ、

之ヲ言ハバ取引所ヲ國家自ラ賠償シナケレバナラス責任ト、商工、農林兩省所管ノ相剋摩擦ノ激成ト、此ノ二ツノ問題ニ達著スルガ故ニ、幸ヒ時局ニ便乗シテ見エザル力ノ或ルモノヲ得タ上、非常取扱ヲ目論マレタモノノヤウニ吾々ハ見ラレルノデアアルガ、此ノ點ハ吾々ノ誤解ヲ明確ニ解カレルヤウニ希望シマス

ナゼ私共ガサウ云フ疑問ヲ持ツノカ、是ハドウシテモ政府ガ複雑ナル内部關係カラ現存機關ヲ吸收シ、市場中心主義ヲ採用スルト云フナラバ、言換ヘレバ現存機關ヲ政府ガ取上ゲテ半官會社ニ使用サセルト云フコトナラバ政府自ラ法律ヲ以テ廢止ヲ規定スル時、即チ此ノ問題ハ賠償清算サレナケレバナラス、此處デナゼ綺麗サツパリ賠償清算シテ、時代色豊カナル新機軸ヲ出サウトハサレナイカ、此ノ問題ニ拘ハラナケレバナラス所ニ、總テノ明朗化セザル原因ガ潜在シテハ居ラスカ、大藏大臣モ御列席デアルガ、恐ラク此ノ問題ハ他ノ犠牲産業トノ振合上補償スルコトハ出來ナイ、斯ウ答ヘラレルカモ知レヌ、ソレナラバ御答ヲ俟ツマデモナイ、他ノ場合デハ其ノ犠牲トナリタル産業ノ代リニ、其ノ同一産業ヲ國家若クハ第三者ガ其ノ儘引繼イデ營業スルモノデハナイガ、此ノ場合ニ限リ、其ノ犠牲トナリタル同一産業ヲ他ノ會社ガ引繼イデ營業ヲ爲スコトニ依ツテ、六分カラ八分ノ配當ニアリ付ケルノダ、サウシテ廢止セラレル現存機關ハ、現ニ政府ノ特許ヲ受ケ、

一定ノ場所ヲ指定シ、殘サレタル尙ホ四五年ノ營業期間ヲ持ツテ居ルモノデアリマスルガ、之ヲ他ノ會社ニ取消禁止シテ讓渡シヨウト云フノナラバ、他ノ犠牲産業トハ全然其ノ意味ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、尙ホ私ハ此處デ一言附加ヘテ置カナケレバナラスコトハ、他ノ犠牲産業ナラバ、平和産業ガ軍需産業ノ爲ニ吸收サレテ犠牲ニナツタ、ケレドモ是ハ何レノ日ニカ平和來ルノ時、復興スベキ期待ヲモ掛ケ得ルモノデアルガ、此ノ問題ニ限リ、例ヘバ平和來ノ日ト雖モ、最早復興ハ許サレナイト云フ所ニ、非常ニ異ツタ點ヲ持ツテ居ルモノデゴザイマス、政府ハ之ヲ救済デモスルヤウナ積リデ居ラレルカラ間違フ、有形無形ノ權利——商權ヲ買收スルノデアリマス、吾々ハ決シテ今日之ヲ一取引所ノ爲ニ代辯ヲシヨウトスル者デハナイ、時局ノ名ニ隠レ、故ナク一切ノ私權ヲ抹消セントスルガ如キ虞ヲ國民ニ抱カシムルガ如キコトガアツテハナラスト云フ所ニ、私ノ話ノ重點ガ置イテアル(拍手)或ハ言フカモ知レヌ、成程國民ニハ犠牲ヲ強要スルケレドモ、其ノ國民ノ犠牲以上ニ國家ニ必要ガアルノダ、斯ウ力説サレルナラバソレデ宜シイ、ソレナラバ國家總動員法ニ據ルベキモノダ、私ハ寧ロ何故國家總動員法ニ據ラスカト申上ゲル、寧ロ國家總動員法ニ據ツテ戴ケバ、其ノ第十條ハ「政府ハ戰時ニ際シ國家總動員員上必要アルキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得」ト書イテ

アツテ、所謂徵發デアリマス、此ノ國家總動員法デスラ、強制的處分ニ依リタル損害ニハ、勅令ノ定ムル所ニ依ツテ補償スルト書イテアル、何故ハツキリソレデハ是デ行カレナイカ、曖昧含糊ノ中ニ事ヲ解決サレヨウトスルカラ、明朗ヲ缺ク結果トナツテ参リマス、私ハ此ノ間ノ事情ハ誰ヨリモ前ノ商工大臣、現在ノ農林大臣ガ一番能ク心得テ居ラレト思ヒマス（拍手）諄クハ申上ゲマセヌ、此ノ問題ガ嘗テ四度帝國議會ニ登場致シマシタ際、我等ノ先輩櫻内先生ハ人情ノ機微ニ通ジ、此ノ問題解決ノ爲ニハ何クレトナク御指導、御誘掖ヲシテ戴キマシタ、サウシテ今日御列席ノ松村政務次官ガ自ラ執筆シテ、茲ニ作上ゲラレタモノガ米穀自治管理法ニ對スル附帶決議デゴザイマス（拍手）即チ「本法ノ實施ニ際シテハ米穀取引所並ニ米穀業者ニ重大ナル影響ヲ與ヘザルヤウ特ニ注意シ損害アリタル場合ニハ適當ナル對策ヲ講ズベシ」ト明記致シテ居リマス、私ハ人間櫻内ト云フモノヲ能ク存ジテ居リマスルガ爲ニ、是ハ本人ノ眞意デハナイノデハナカラウカ（ヒヤ／＼）マサカ聰明叡智ノ櫻内サンガ江北ノ枳穀トナラレルヤウナコトハ斷ジテナイト思フ、冀クハ本員ノ質問ヲ通ジ、本議會ニ於テアナタノ所信ヲ天下ニ公明セラレルヤウニ、アナタノ爲ニ要求シテ置キマス（拍手）

今日ノ國民ヲ犧牲ニナサルト云フナラバ、ドウカ犧牲甲斐ノアル犧牲ニシテ戴キタイノデアリマス、若シ是デ何處マデモ政府ガ

押通サウト云フナラバ、政府ノ所信ガ分リマス、然ルニ國家ハ補償ノ義務ナシト言フ口ノ下カラ、茲ニ新會社ハ利用價值ヲ認メナケレバナラナイノデゴザイマス、米穀取引所、正米市場ノ土地建物其ノ他ノ設備ヲ、建築ノ價格ト時價トヲ基準ニ評價シタモノノ外ニ、マダ利用價值ト云フモノガ認めラレトスレバ、ソレハ一體何ナノデアルカ、私ハ利益率デアルノカ、權利デアルノカ、此ノ利用價值ト云フモノヲ金額ニ見積レバ、凡ソ何程ニ該當スルモノデアルカ、政府ノ御意見ヲ伺ツテ置キマス、私ノ見ル所ヲ以テスレバ、此ノ米穀取引所其ノ他ノ建物ハ、先程申シマシタヤウニ、別ニ取上ゲテ此ノ問題ト關係ナシニヤラナケレバナラスモノデアルノニ、ソレヲヤラナカツタ結果ハドウ云フ風ニナツタノカ、此處ヘ此ノ缺陷ガ暴露シテ参リマス、即チ自由經濟時代ナラバイザ知ラズ、統制經濟時代カラ既ニ時代ハ計畫經濟時代ニ入ツテ居リマス、サウシテ統制法、管理法ニ依ツテ既ニ取引所ハ拘束ヲ受ケ、膠著ヲ致シテ居リマス、ソレヲ今日自由主義經濟時代ノ遺物デアルモノヲ、何ガ故ニ政府ガ之ヲ吸收シテ、此ノ機能ヲ喪失シタルモノヲ加ヘタル新會社ヲ拵ヘナケレバナラスノデアルカ、其ノ常識ガ私共ニハ分リマセヌ（ヒヤ／＼）ソレガ爲ニ米穀業者ニアラザル清算取引ノ市場員ニモ、米穀取扱業者ニ一通入レテ、之ヲ會社ノ市場員ニシナケレバナラスト云フヤウナ缺陷ヤ、之ヲヤラウトスルカラ麥、大豆其ノ他ノ雜

穀肥料マデ、其ノ會社ノ仕事ノ範圍ニ持込マナケレバナラスト云フヤウナ矛盾ガ生ジテ來ルノデゴザイマス
言フマデモナク米穀取引ノ歴史ト申シマスルノハ、倉庫中心ノ指シ時代カラ、今日ハ鐵道ヲ利用シ、電話ヲ利用シ、銘柄ガ指定サレマスナラバ、鐵道ノ輸送途中デモ取引ガ出來ルヤウニナツテ居リマスカラ、所謂取引ノ簡易化ニ因ル「コスト」ノ低下ヲ來シテ居ルノデアリマシテ、寧ロ取引市場ハ今日デハ相場ヲ建テルト云フ所ニ、中心ノ仕事ガ置カレテ居ルヤウニモ見エテ居リマス、ケレドモ斯ウ云フ施設ニ依ツテ賣買ヲ行ヒ相場ヲ建テナクテモ「ラデオ」ノ普及シタ今日、生産地ト消費地ノ氣配ニ依リテ爲替相場ヲ建テルト同様ナ適正ナ方法ニ依ツテ、他ニ名案ハゴザイマセヌカ、私ハ此ノ新會社ノ市場デ相場ヲ建テサセヨウト云フコトハ表面デ、實ハ政府ガ將來強權ヲ以テ相場ノ公定ニ指圖ヲサレル時期ガ來ルダラウト思ツテ居リマスルガ、サウ云フ進ミ方ヲスルノデハゴザイマセヌカ、何故ナラバ、只今提出セラレテ居リマス豫算關係モ手傳ヒマシテ、物價ハ再騰ノ時期ニ入リマシタ、即チ下ツタモノガジリ高ニナツテ参リマシタ、サウシテ政府自體ガ強行指示價格ヲ御定メニナツテ、之ニ從ハナケレバナラスト云フヤウニ規定サレテ居リマス以上ハ、私ノ先程申シマシタコトニ落著カナケレバナラス等ダ、大體サウ云フ外ノ物ハ公定價格ヲ持ツテ居ツテ、其ノ物價ノ中カラ米穀ダ

ケヲ切離シテヤラウト仰シヤルコトニハ私ハ不賛成デアリマス、現下ノ情勢ニ於キマシテハ、全物價ヲ一本トシタ中央公定價格ノ規整所カ何カヲ設ケテ、是ト聯關シテ米價ヲ規整スルデナケレバ、米穀ノミニ依ツテ米價ガ決定サレルモノデハゴザイマセヌノデ、此ノ點ハ御再考ヲ願ツテ置カナケレバナラスト思ヒマス、況ヤ此ノ問題ノ起リマシタ當時ニ、清算取引ガ授機ニ利用サレルコトヲ慮リ、實物取引ヲ主トシテヤラウトナサイマシタコトハ洵ニ賢明ナ策デアリマス、然ルニ清算ヲ三月トシ延ベバ二月トシタノヲ、實物主義デ行カウト云フノヲ、清算取引ハ認メナイガ、延取引ハ認めル、サウシテ差金ノ決済モ場合ニ依ツテハ出來ル、是ナラバ米穀ノ取引ヲシテ實需ニ應ジ、實米ノ流れニ從ツテ圓滑適正ヲ期セントスル政府ノ趣旨ニハ、延取引ヲ許スコトハ合致致シマセヌガ、斷然此ノ機會ニ於テ現物ノミニ限定セラフル御意思ハナイカ
一體農林大臣ハ屢、米價調節ノ爲ニハ配給機構ノ強力ナル統制ガ必要ダト仰セラレ、當局モ亦生産ヨリ消費ニ至ル部面ノ一貫セル統制ガ必要ダト強調サレテ居リマスガ、一貫統制トハ具體的ニ何ヲ御指シニナルノデゴザイマスカ、本案ニ依ツテ一貫統制ヲ求メヨウトナサルノデゴザイマスカ、私ハ本案ノヤウナ自由主義經濟機構内ノ市場取引デハ、米價ノ抑制モ出來ナケレバ、價格ノ統制モ出來ヌト考ヘテ居リマス、此ノ點ハ如何ニ御考ニナリマスカ、米價ヲ左右ス

ルモノハ生産配給ノ兩面カラ一貫シタ根本
國策ガナケレバ是ハ出來マセヌ、此處デ御
伺申上ゲタイノハ、政府ハ本案ニ依ツテ國
家管理ノ豫備段階ニ入ラレルモノデハナイ
カト見ユルデアリマスガ、是ガ國家管理
ノ豫備段階デハゴザイマセヌカドウカ、又
全國ノ配給業者ヲ全部完全ナル手數料商人
ニシテシマフト云フ御意思ハナイカ、是ガ
モウ一步進ンデ米穀ハ專賣ニシナケレバナ
ラスト云フ御意見ハ御持チデナイカ、其處
マデ突進ンデ將來ニ對スル農林大臣ノ御意
見ヲ此ノ際承ツテ置キマス

次ニ私ノ申上ゲヨウトスルコトハ産業組
合ノ市場員問題デアリマス、世間往々本案
ハ戰時米穀對策上必要ダト云フヤウニ唱ヘ
ラレテ居リマスケレドモ、其ノ實際ハ米穀
市場ニ産業組合ノ進出ヲ許シ、此ノ新會社
ノ米穀市場ヲ産業組合ノ米穀販賣所ノ形ニ
マデ進メルモノダト云フヤウニ見テ居ル者
ガゴザイマス、言換ヘレバ前垂レト洋服ト
ヲ取替ヘルダケノ結果ニシカナラスト見テ
居ル者ガゴザイマス、之ニ對シテ私ハ立法
上ノ疑義ト、機構破壊ノ危險ノ疑義トヲ持
ツテ居リマス、新機構ハ市場取引ヲ根幹ト
シテ居ル、而モ營利追求ノ尖端ヲ行クモノ
ハ何デアアルカト云フト市場員デアリマス、
其ノ市場員ニハ産業組合ヲ公然參加サセル
ノデアリマス、所謂産業組合ハ公然營利的
事業ニ入り込ンデ來ルノデアリマス、生産
者團體タル産業組合ガ市場員タルノ資格ヲ
持ツテ投機ノ延取引ニマデ入り込ンデ來ル

コトヲ許スト云フコトハ、立法者ノ再検討
ヲシテ見ナケレバナラス點ダト思ヒマス、
産業組合ノ營利行為ヲ法律デ公認スルト云
フコトハ、産業組合自體カラ考ヘテモ其ノ
本旨ト相容レナイモノガナイカ、殊ニ商法
ニ依レバ取引所ニ於ケル取引ハ商行為デア
リマス、此ノ商行為ヲ許シテ投機ノ延取引
ニ參加シタル産業組合ノ危險ハ、是ノ背後
タル生産者ガ此ノ危險ノ分擔者ニナツテ來
ルノデアリマスガ、ソレデ宜シウゴザイマ
スカ、殊ニ産業組合ニハ賣行為ダケヲヤラ
セルト仰セラレマスガ、市場員ト云フ者ハ、
賣行為ダケヲ許シテモ適格者デゴザイマス、
是ハ今日マデノ習慣ト餘程違ツテ參リマス
ルノデ、此ノ點モハツキリシテ置キタイト
思ヒマス、私ハ心配致シマス、此ノ事變下ニ
於テ産業組合ガ投機取引ニ乘出シ、是デ銃後
農民ノ生活ガ安定致シマスカ、是デ銃後農
村ノ福祉主義ニ合致致シマスカ、寧ロ現在ノ
情勢ニ於テハ、行過ギタ産業組合ヲ矯正スベ
キ事態ニハ入ツテ居リマセヌカ(拍手)何ト考
ヘテモ刻下ノ總力戰ニ對スル米穀對策ノ根幹
ハ、農村ガ眞面目ニ生産力ノ維持増進ヲスル
コトデアツテ(ヒヤ／＼)商業界ニ進出スル、
投機ニハ手ヲ出ス、ソレガ現時戰時體制下ニ
於テ爲サナケレバナラスコトダトハ私共ハ
考ヘマセヌ(拍手)斯ウ云フコトヲ提ゲテ、
是ガ戰時體制下ノ米穀對策ト仰セラレルナ
ラバ、僭上ノ沙汰ダト申サナケレバナラス
(ヒヤ／＼)

元來産業組合ノ配給組織ハ、一見中間費
用ガ輕減サレルヤウニ見ユルガ、事實ハ決
シテサウデナイ、何故カナラバ、検査料ノ
優遇、農業倉庫ノ政府補助、共同販賣ノ政
府獎勵金、縣販聯職員ノ補助、税金ノ免除、
其ノ他ヲ合算致シマスレバ、社會的原價ハ
寧ロ之ニ依ツテ昂騰サレテ居ルモノダト申
サナケレバナラス、本案ノ如キハ徒ニ弱小
商人ヲ壓迫シ、生産者ニ媚ビルガ如ク見セ
掛ケテ、實ハ産業組合ニ利潤ヲ移轉スルモ
ノノヤウニ吾々ハ見テ居ル(拍手)今實際的
ノ問題ニ入ツテ行ケバ、生産者ガアル、全
組合ノ農業倉庫ガアル、縣販聯ガアル、全
販聯ガアル、今度ノ新會社デ市場ガ市場員
ヲ使フ、ソレカラ白米商人、サウシテ消費
者ニ渡ル、此ノ七ツノ段階ヲ經ナケレバ吾
吾ノ口ニハ入ラス、現在ハドウナツテ居ル
カ、米屋ガヤツテ居ル所ヲ見ルト、生産地
ノ所ヘ持ツテ來テ賣出人ヤ移出商ガ居ル、
サウシテ仲買、問屋、サウシテ白米商カラ
一般ニ入ツテ來ル、此ノ間色々ノ手數料ヲ
合算シテ見ルト、本會社ニ依リテ中間手數
料ノ支拂ハルモノハ、概算シテ石ニ付キ
一圓五十錢ト思ヒマス、今マデノ機構ヲ改
革シテ統一シテヤルトスレバ、凡ソ七十錢
デ済ンデ居リマス、政府ハ中間機構ヲ簡略
シテ、一般消費大衆ニ安イ米ヲ食ハセ得ル
ト云フ確信ヲ持ツテ居ルカ、私ハ此ノ點ニ
付テハ、日本國民ガ全部米ヲ食ハナケレバ
ナラス者バカリデアアル所ニ、アナタノ本當
ノ氣持ヲ聽イデ置カナケレバナラス、本案
ガ通過シテ實施サルレバ——米價ノ根本ニ

於テハ別ダ、中間機關ノ省略サルルコトニ
依ツテ出テ來タ金額ダケハ、米ノ値カラ引
イテ戴ケルカドウカ、私ハ逆ニコソナレ、
引ケルモノハナイト思フ、殊ニ是デ米穀市
場ヲ通ジテ米穀ヲ統制ナサラウト云フ所ニ
ハ、私ハ幾多ノ又難關ガアルト思ヒマス、
新會社ガ出來テ、市場員ノ市場内ヤ市場地
區内ノ取引ハ、アナタノ手デ統制ガ出來ル
ガラウ、今度ハ市場地區外ヤ非市場員ノ大
多數ノ取引ヲ、ドウシテアナタハ御統制ニ
ナル積リデアアルカ、統制ノ出來ル範圍ノモ
ノハ、結局本案ニ依ツテハ統制カラ免レ
得ル機構デハゴザイマセヌカ、事ニ依ル
ト、國家トシテハ此ノ市場ヲ通ジテ大キナ
米ノ流ヲ抑ヘテ行ケバ間違ヒガナイト仰シ
ヤルカモ知レヌガ、サウシタ觀念のナ机上
論デハ、活キタ今日ノ取引ハ中々出來ルモ
ノデハゴザイマセヌ、寧ロ私ハ反對ニ此ノ
市場外ノ取引ガ、面倒ナ市場内ノ取引ヨリ
ハ却テ助長サレテ、ソコニ大キナ一ツノ流
ガ出テ來ルト思フ、經費ハ嵩ミ、複雑ナ手
數ハ要ルト云フナラ、モウ一ツ途ガアレバ
其處ヲ通ラウトスルノガ人情デゴザイマス、
結局市場ノ内ト外ト兩方ヲ統制スル法案デ
ナケレバ、今日ノ米穀ノ對策トハ申サレナ
イト云フ信念ノ下ニ、私ハ之ニ對スル兩方
ノ統制ニ付テ、政府ガドウ云フ御意見ヲ持
ツテ居ラレルカヲ承リマス、市場ノ外ガ何
等ノ制限ヲ受ケナイト云フコトハ、其處ニ
一ツ產組ノ目ヲ著ケラレル所モアル、睨ミ合

セテ、内ト外トノ有利ナ操作モ出来マス、何故政府ハ此ノ際思切ツテ絕對市場主義ニナサイマセヌカ、市場ヲ通ズルニアラザレバ事實上ノ取引ガ出来ナイヤウニシテ、市場員ノ資格ヲ持ツテ居ル者デナケレバ配給ノ特典ヲ與ヘヌヤウニシテ、玆ニ初メテ本當ニ政府ノ御趣意ガ通ル筈デアリマス、政府ハ口デハ言ハヌガ、將來ドウシテモ斯ウスル傾向デアルト云フコトハ私ハ認メザルヲ得ナイ、何故ナラバ市場ノ取引ヲ繁榮ナラシメ、手數料ヲ増大サセル爲ニハ、絕對市場主義デ、政府ノ市場ノ方ヘ抱ヘ寄セナケレバイカスノデアリマスカラ、政府ハ將來ハキツトサウサレル筈ダと思フガ、一層ノコト今ノ内ニ絕對市場主義ニナサイマスコトハ如何デアリマスカ、私ハ是ハ分ラスカラ聽イテ置キマスガ、政府ハ特殊ノ事情ノアルモノニハ、大集散地ノ市場トシテ特別ニ許可ニナルヤウニ聽イテ居リマスガ、ソレハドノ程度ノモノデ、何處邊リニ置カウトサレテ居ルカラ一ツ此處デ承ツテ置キマス、ソレニ麥トカ、大豆トカ、雜穀トカ、肥料ダトカ、ソレ等ノ賣買取引ヲ爲サウトナサイマス所ハ、大體ドウ云フ方面デアツテ、ドノ位ノ程度デアリマスカ、承ツテ置キマス

マス、今日ノ産業組合ハ政府ノ保護助長政策ノ溫床ニ育チ、恩寵ニ狎レ、現今農村ヨリハ乖離シテ居ルトノ批評ガアルガドウカ、ソシテ一部ノ官僚ト産業組合商ノ指導ノ下ニ、地主ヤ富豪ノ特殊機關ニナツタヤウニ見エル、政府ノ當局者モ居デニナルガ、今日ノ組合員中ノ大多數ハ小作人デアリ、自小作農デアルト思フ、産業組合ノ役員ノ中デ小作人ヤ自小作農カラ何人役人ガ出テ居ルカ、數字ヲ御示ヲ願ヒタイ(拍手)本當ニ産業組合ガ農民ノ利益ヲ代表スルモノナラバ、本會社ガ出来テモ米價ハ高カラシコトヲ希望スルニ決ツテ居リマス、サウシテ最高價格維持ノ爲ニハ賣惜ミモ致シマセウ、產地米穀ノ蒐集ヲ獨占化シ得ラレバ、米穀ノ供給權ヲ確保致シマシテ、會社ハ産組ノ間接ニ操縦スル所トナリ、昂上ニ拍車ヲ加ヘテ参リマセウ、何カ政府ハ全販聯ダケシカ入レナイコトヲ恩惠ノヤウナ口吻デ申サレルガ、産組ノ中央會長ハ其ノ全國ノ大會ノ席上、全販聯シカ許可ハ取ラスガ、各府縣ニ此ノ市場ノ出張所ヲ設ケルコトニ依ツテ、全部入レタノト同一ノ結果ハ現ハシ得ルト説明ヲ致シテ居リマス、此ノ説明ハ誤デアルカドウカ、米穀ガ本案ニ依ツテハ統制ガ出来マイト考ヘテ居リマスバカリデナシニ、寧ロ米價ガ上ルト云フ一ツノ理論ヲ私ハ持ツテ居リマス、是ハ内地ノ米穀ノ實收高ハ十三年度ニ六千六百万石デアリマスガ、消費ハ次第ニ増大致シマス、供給ハ次第ニ窮屈トナツテ参リマス、昨日

カ一昨日ノ新聞ヲ見マス、何カ政府ハ四百万石ノ増産計畫ヲ持ツテ居ラレルト云フ、此ノ四百万石ト云フ數字ノ基礎ハ何處カラ來テ居ルカト云フト、昭和十四年度ノ需給推算ノ持越高維持ガ四百万石ヲ必要トスルト云フ數字ガ四百万石デ、四百万石ノ増産ガ出来ルト云フトノ基礎ニ立ツタ數字デハナイヤウデゴザイマス、サウシテ米價ハ次第ニ政府ガ抑制シテ参ルト致シマス、米價ハ抑制サレル、増産ハ出来ルト私共ハ考ヘマセヌ、米價ガ抑制サレバ、農民ハ米價ノ抑制サレルモノヨリハ他ニ有利ナ仕事ガアレバ、ソツチノ方ニ向フコトニナツテ、私ハ寧ロ減産ヲコソ來セ、増産ニハナラヌと思フ、政府ノ本案ノ施行ニ依ツテドノ位米穀ガ増産セラレ、米價ガ調節サレルカト云フ、其ノ御説明ヲ聽イタ上デ、更ニ又委員會ニ於テ次ノ質問ヲヤルデアリマスガ、其ノ前ニ今回ノ市場ニ於テ市場員タル産業組合ト米穀商ノ間ニ、ドチラニモ平等ノ立場ニ於テ取引ヲサセルト云フ御意思デアリマスカ、例ヘバ産業組合ハ米穀検査ヲ受ケル場合ニモ検査料ガ安イ、商業組合ハ高イ、同じ米穀市場ノ中デ國家ガ管理ヲシテ居ツテ、一方ニハ高く取ツテ一方ニハ安く取ルト云フ、此ノ點ハ平等ヲ缺イテ居ルモノト思フガ、斯様ナ點ハ平等ノ立場ニ兩方ヲ立タセテ取引ヲサセル御意思デゴザイマスカドウカ、寧ロ私ハ産業組合ハ高ク商業組合ハ安く検査料ヲシナケレバナラヌモノダと思フ、ナゼナラバ、平等ノ値段

ニシテモ、産業組合ハ戻シガアル、其ノ戻シト見比べテ本當ノ平等ガ出来ルモノデアリマシテ、サウ云フ點ヲ一例ヲ引イタニ過ギマセヌノデ、ドウセ今度ノ市場ニ一緒ニ入ルト云フナラバ、全部ニ對シテ平等ノ取扱ヲサレナケレバナラヌと思ヒマスガ、政府ノ御意見ヲ伺ツテ置キマス

私ハ今度ハ商工大臣ト農林大臣ト御列席ノ上デ聽イテ見タイコトガアル、農村ニ於ケル自小作農ハ何ダカ没落ノ悲運ニ傾イタモノモボツ(見エルヤウデアリマス、此ノ人々ハ何處ニ流レテ來ルカ、結局ハ都市集中ノ傾向ヲ増加シテ参リマス、農村ニハ毎年四十万人ノ自然増加ガアルと思フ、斯ウ云フ人ノ中デ、有能者ハ都會ニ入ツテ中小商工業者トナリ、無能者ハ店員トナリ、勞働者トナリマス、シテ見レバ商人ト産組トハ唇齒輔車ノ間柄デアリマシテ、相互扶助ノ關係ニナケレバナリマセヌ、商工問題ハ即農村問題デアリ、農村問題即商工問題デアル、此ノ際判然ト各、其ノ使命ニ鑑ミ、其ノ分野ニ準據シ、濫リニ他ノ領域ヲ侵サナイト云フ商工、農林兩省ノ職能分野ヲ玆ニ明確ニサレテ貫ヒタイと思ヒマスガ、ドチカララデモ宜シイカラ、何處ガ分界デアルノカ明瞭ニ御答辯ガ願ヒタイ、何カ先日法案ヲ見テ内容ヲ聽キマス、産業組合ハ賣リ一方デ商人ハ買ヒ一方ダト申サレテ居リマス、商工大臣、之ニアナタハ御承服ナルカ、此ノ市場ニ於テ賣リハ産業組合ダラウ、買ヒガ米穀業者トハ私ハ考ヘマセ

ス、此ノ會社ニハ、賣ル方ハ集荷獨占ノ産業組合、會社ノ市場ニ入ツテ來ルト、之ヲ下カラ受ケテ買フ者ハ米穀業者、此ノ米穀業者ノ外ニ一般ノ者ガ、此ノ市場ニハ石數ノ制限コソアレ買ヒニ行ケルノデハナイカ、向フカラ來ルモノハ産組一本、下デ受ケルモノハ商人ト一般購買者ト致シマスレバ、此ノ比率ガドウナルカハ別物ダガ、一本ヲツカマヘテ半分ヲ賣フト云フ、此ノ「トリック」ハ私ハ中々商人ガ承服スルモノデハナイト思ヒマス、一體茲ニ御名前ヲ指シテモ惡ウゴザイマスガ、我黨ノ農村問題ノ權威者高田純平氏デストラ、産業組合ノ行キ過ギニハ異見ヲ持ツテ居ラレル、即チ産業組合ハ、販賣組合ノ如キ、購買組合ノ如キ、農家ノ農業生産上必要ナ物品ニ限り、産業組合系統ノモノガ之ヲ取扱ヒ得ルノダト云フ所ニ、限界ヲ求メタイト云フ御意思ヲ持ツテ居ラレル、私ハ農林省ノ米穀配給調査會ノ方ニモ關係ヲ持ツテ居リマスガ、現在其ノ外ニ問題トシテ、相當規模ノ消費團體ニハ直接産業組合カラ廻シテ宜イト云フコトニシタイ爲ニ、問題ガ引掛ツテ動カヌ所モゴザイマス、由來農林省ニハ有馬「イズム」ガ未ダニ潛勢力ヲ持ツテ居ルト云フコトデゴザイマスガ、農林大臣ノ考ト共ニ商工大臣ノ考モ此ノ際聽イテ置キマス、配給機構ノ改革ニ對シマシテ、商工大臣ハ根本的ナ一ツ對策ヲ御示ヲ願ヒタイ、キツト農林大臣ノコトデアリマスカラ、本案ガ通ツテ米穀業者ニハサウ影響ハナインダ

カラ、今ノ問題ハアトカラニシヨウデハナイカト斯ウ言ハレルカモ知レヌガ、法律ガ出來テモ業者ハ何時デモ無關係ダト云フコトハ、度々繰返シテ聽キマシタ、サウシテ何遍聽イテモ法律ガ出來ルト業者ニハ影響ガアルノデアリマス、現ニ米穀統制法カラ米穀自治管理法ト、此ノ法律ノ出來タオ蔭デ、今日デハ土地ノ產米スラ土著ノ米穀商ガ取扱ヘナクナツテ、琵琶湖ヲ中心トシタ大津市ノ如キ、米ノ新潟縣ノ新發田町ノ如キ、金澤市ノ如キ、到頭土著ノ米穀商ハ産業組合ノ爲ニ廢業スルノ已ムナキニ至リツアル狀態デゴザイマス「農民ガ目覺メテ來タ證據ダ」ト呼フ者アリ「本案ニハ廢業セヨトハ書イデゴザイマセヌケレドモ、廢業ノ已ムナキニ結果ガ至リマス、全國二十萬ノ配給機關ヲ改廢シテ、二百萬ノ從業員モ家族モ喪家ノ狗ノ如ク疊々然ト巷ニ滿タナケレバナラヌ結果ニナルノデゴザイマスガ、總理大臣ハ億兆一人ト雖モ其ノ志ヲ得ナイ者ノナイヤウニスルト云フ、アナタノ皇道政治道徳ノ大キナ建前カラ此ノ點ヲドウ御覽ニナリマスカ「轉業セヨ」ト呼フ者アリ」其ノ轉業ガドウデアるか、現在政府ハ四十萬ノ失業者中轉業セシメタルモノハ、僅ニ先日ノ統計デハ二萬二千人、是等ノ既ニ起レル失業者ニ對スル政府ノ救済ガ完全ニ行ハレテ居ラス所ニ、更ニ多數ノ纏ツタ失業者ヲ拵ヘルト云フナラ、瓜デ拾ツテ箕デ滯スノ類ダ「笑聲、拍手」一體商工大臣ハ健在デアルノカ、配給業者ノ監督助長ヲスベキ

商工大臣ガ、唯農林大臣ニ取引所サヘ救済シテ貰ヘレバト云フヤウナ態度デ安閑トシテ居ラレル時デヤナイ「拍手」サウ云フ風ニシテ居ラレルカラ、肥料モ、飼料モ、炭モ、卵モ、アナタノ管轄カラ離レテ農林省ノ產組系統ヲ以テ始末サレテ居ル「拍手」外ニ向ツテハドウデアるか、蜜柑ノ如キハ日柑聯ガ取り、生絲ノ如キハ製絲聯ガ取り、今ヤ貿易省ガ出來ルト云フナラバ、アナタノ手ヲ經ズシテ内ニモ外ニモ仕事ガ出來ルヤウナコトニナツテ來ハセヌカ、朝ニ城ヲ抜カレ、タニ拵ヲ奪ハレ、古イ言葉ヲ引クヤウダガ、禹ハ一饋ニ十起シテ以テ天下ノ民ヲ勞ツタト云フ、商工大臣アナタニ直接ニハ言ハヌカモ知レヌケレドモ、世間ハ拓務大臣ガ本職デアツテ商工大臣ハ兼職ダト言ツテ居ル「拍手」此ノ非常時局ノ商工大臣ヲ受持ツ者ガ、諱名ヲ何ト持ツテ居ルカト言ヘバ、不在大臣ト世間ハ言ツテ居ル「笑聲」私ハ商工省ノ大臣ヲ專任ニ務メラレテ、此ノ職ヲ失ハントスル天下ノ業者ニ對シテ適當ノ御處置ヲ爲サルデナケレバ、今ニ商工省ノ門前ニハ雀羅ガ張り、三代目デ唐様ニ書クト云フ時代ガ來ナイトモ限ラヌト思フ「拍手」私ハ商工大臣ガ健在ナラバ、今日ノ國債消化ガ懸念セラレテ居ル時、千五百萬圓ノ國帑ヲ費シ、斯ウ云フ特殊ナ半官ノ會社ヲ拵ヘズトモ、近代ナ組織ヲ持ツテ居ルアタノ方ノ商業組合ノ全面的活用ニ依リ、此時局ヲ切抜ケルダケノ確信ハ御持チニナラナイカ「拍手」之ニ依ツテ一元の整備ヲ行

ヒ、一貫的統制ヲ企テラバ、此ノ相剋摩擦モ起ラズ、お互ノ分野ニ準據シテ圓滿ナル解決ガ出來ル筈ダト本員ヘ考ヘルガ、商工大臣ノ御意見ハ如何、千數百年來ノ配給事業ニ携ハリ、十幾億圓ノ運轉資金ト、七億圓ノ賣掛代金ト、二十何億圓ノ配給ノ仕事ヲ現在シテ居ル其ノ商業人ノ結成シタル商業組合ニ對シテハ、アナタハドウ云フ見方ヲシテ居ラレルカ、況ヤ産業組合ハ無稅デアルノニ比ベテ、此ノ商業組合ハ税金ヲ出ス、又其ノ子弟ノ幾萬カハ戰場ニ出征シテ、中ニハ屍ヲ曝シテ居ル、國債ニモ應ジ、身分相應ノ獻金モシテ居ル「同ジデヤナイカ」ト呼フ者アリ「ソレガ同ジナラバ、何故同ジヤウニ、兩方同ジニシナイデ產組ダケガ利益ヲスルカ、隣保共助ノ精神ニ依リヤツテ居ルコトハ同一デアル、產組ガ國策ナラバ商組ハ國策デナイト言ハレルカ「拍手」今日ノ商業人ハ昔トハ違フ、近代的新組織ヲ持ツテ居ル、米屋ハ米屋デ、全國ノ米穀ノ卸商業組合ヲ結成シ、小賣商業組合ヲ結成シ、ソレデモ足りナイカラ、千餘ノ組合ガ全國米穀商業聯合會ヲ組織シ、臺灣ノ如キハ灣米移出商ガ打ツテ一丸トナツテ、全國臺灣米移出商組合ヲ組織シ、此ノ全米商聯ト灣米移商聯トガ合致シテ、イツ何時デモ政府ノ御要求ノ中配給問題ナラ御引受ヲスルトノ準備ヲ整ヘテ居ルガ、農林大臣ハ之ヲ御使ヒニナラウト云フ御意思ハナイカ、又商工大臣ハ是非トモ農林大臣ニ之ヲヤツテ戴カウト云フ熱意ハ御持

チニナラヌカ、商業組合ノ第九條ハ、全國的ノ「アウトサイダー」ノ統制ヲ規定シ、第十七條ハ統制商業組合ノ設立ヲ規定シ、第二十七條ハ強制商業組合ノ設立ヲ規定致シテ居リマス、本案ノヤウナ場合ニハ、特ニ斯ウ云フ機構ヲ利用スベキデハナイカ、若シ農林大臣ノ言ハレルヤウニ、斯ウ云フ案デ米穀配給ノ圓滑ト米價ノ適正ノ規整トガ出來ルナラバ、商業組合ヲ打ツテ一丸トシタモノガ、市場經營ヲ商工大臣ニ出願ヲシテ居ル答デアリマス、之ニヤラセルコソ商業組合モ強化シ、米穀商人ノ失業モ回避サレト云フ一石二鳥ノ名案ダ、商業組合ヲ拵ヘ、屢改正法ヲ出サレタアナタハ、實ノ持腐レヲサレテ居ルデハナイカ、一體斯ウ考ヘテ參リマス、ドウシテモ本案ニ依ラナケレバナラス譯ガ私ニハ分ラナクナツテ來マス

此處デ私ハ最後ノ結論ニ、本案ノ通過シタ場合ノ受益者ト被害者ダケハ一應檢討シテ置カナケレバナラスト思フ、先ヅ第一番ノ受益者ト言ハレルモノハ、ナルカナラヌカ分ラヌガ、世間ハ取引所ト呼ンデ居リマス、是ハ正米取引ハ段々増加シテ行ク、サウシテ清算取引ガ段々減少シテ居ル、昭和三年カラ七年マデノ五箇年ヲ百ト致シマス、八、九、十、十一ハ六十二、五十二、四十七、三十八ト減ツテ居リマス、溺レルモノハ藥ヲモ掘ムト云フケレドモ、一本ノ藥サヘ掘ミ損ツタ岐阜ノ如キ、津ノ如キ、四日市ノ如キ、姫路ノ如キ、伊豫ノ如キ、

一文ノ救済金モ貰ヒ損ツタ、既ニ廢止解散ノ運命ニ遭ツタモノガ居ルデハゴザイマセヌカ、此ノモノヲ今マデ救済シナカッタ、ダカラ今之ヲ救済スルト云フ問題ガ出デ居リマスノデ、一應ハ是モ受益者ノ一人ダト私ハ見テ居ルノデゴザイマスガ、本當ノ受益者ハ産業組合ノ市場進出ノ方ダト思ヒマス、是アルガ爲ニ産業組合ニ於テモ、多年ノ赤字財政ガ何トカ始末ガ付キサウダト云フ評判モ立ツテ居ル位デアリマス、第三ノ受益者ハ古手官吏デアリマス（拍手）今日マデノ經驗ニ依ツテ知り得ルガ如ク、國民ノ租税ニ依ツテ設立セラレタル國策會社ノ重役ハ、多クハ恩給取ノ古手官吏ガ重要ナ椅子ヲ占メテ來タノデゴザイマス、本案ニ依レバ此ノ役員ハヤハリ政府ガ任免權ヲ持ツモノダト思ヒ、又既ニ其ノ人選モ凡ソ出來テ居ルカニ聞カ、再ビ三たび繰返シテ國策會社ハ又モヤ古手官吏ノ養成所ナルモノデアリマスルカドウカ（拍手）今一ツ是ハ私ノ想像デアリマスガ、本案ノ成立ニ依ツテ、或ハ四人ノ財閥ガ此ノ利益ヲ受ケルモノデハナイカト睨ンデ居ル、即チ臺灣米五百万石ハ生産者ヨリ臺灣總督府ガ買上ゲテ、之ヲ農林省ニ委託シ、農林省ガ之ヲ此ノ會社ニ再委託シ、此ノ會社ガ下ヘ分ケテヤルモノデゴザイマスルガ、此ノ會社ナルモノハ投機ノ機會ガ排除サレテ居リマス、實米中心デ行キマス、隨テ收入ガ減少シマス、之ヲ補フ收入ノ中デ一番大キナ役割ヲ引受ケルモノハ、内地ノ取扱ノ十倍ニ當ツテ居ル

臺灣米五百万石ニ著眼シナケレバナリマセヌ、一般ニ向イテ行ク株ガ落著ク所ハ何處カト云フト、臺灣米ノ大キナ四ツノ移入商デ、蔭ニ廻ツテ此ノ利益ヲ配當ト云フ形デ壟斷スルヤウニ作戰ガ出來テ居ルト私共ハ考ヘテ居ル（其ノ通り）ト呼フ者アリソコデ何ハ措テ措イテモ一番肝腎ナ問題ハ一般大衆デアリマス、消費者デアリマス、是ハドウナルカ、私ハ寧ロ被害者ノ一人ダト言ハナケレバナリマセヌ、市場經營デ商業組合ガ之ヲヤリマスルト、入ツタ手數料ハ商業組合カラ生産者、消費者、配給者、ドレカニ還元シテ參リマス、政府ノ要求スル此ノ會社案デ行ケバ、此ノ間ニ入ツタ收入ハ生産消費配給ノ部面ニハ還元サルコトナクシテ、蔭デ大キナ株ヲ持ツテ居ル者ニ、儲カツタモノハ六分カラ八分ノ配當デ皆吸收サレテシマフノデゴザイマス、一體大衆ハ何處ニ利益ヲ受ケルデゴザイマセウカ、殊ニ今問題ニナツテ居リマスルノハ、買集メ業者、移出業者、卸賣業者、小賣業者、此ノ真中ニ入ツテ居リマス仲買商、ソレ等ノ者ハ産業組合ガ強制集荷ヲ行ヒ、無條件委託ヲヤツテ、肥料ヤ他ノ物トノ取引ヲ交換スルヤウナコトニナリマスレバ、米穀業者ガ集荷ヲ獨占サレタコトニ依ツテ、打撃ヲ受ケルコトハ言フマデモアリマセヌ、サウシテ今度ハ産組ガ直接消費組合ナドト結託スル、是ハ非常ニ小賣商マデガ脅威サレマスルコトハ分リ過ギテ居リマスカラ申シマセヌガ、聞ケバ何カ農林次官

ハ曩ニ新聞記者ニ對シテ、産業組合ニ對シテハ販賣組合ノ個人消費ノ小賣ダケハ免許ガ必要ダカ、消費組合ヤ官廳等ノ直賣ハ産業組合ハ範圍外デヤラレルノダ、購買組合ヤ消費組合ナドノ購入配給モ範圍外ダト御説明ニナツテ居リマスガ、斯ウ云フコトデスト、全販聯、縣販聯ヤ其ノ單位組合ノ思フ壺デアリマシテ、是デハ餘リニ商人ニヒド過ギルノデハナイカト思フガ、此ノ新聞記者ニ對スル御説明ハ間違ツテ居ツタモノデアリマセウカドウカ、又コゴデ農林大臣ニ承リマスガ、米穀業者ニ對スルアナタノ方ノ免許ヲ統制命令ハ、産業組合系統ニモ御適用ニナルカ、米穀業者ダケニ御適用ニナルカ、例ヘバ産組ノ取引ニナツテ居リマス家庭消費組合ヤ工場購買組合ハ、此ノ免許統制命令ノ中ニ含マレルモノデアルカドウカ、大事ナコトデアリマスカラ御忘レナク御答辯ヲ願ヒタイ

私ハ幾ラ本案ノ通過ト交換ニ業者ノ利益ヲ擁護スルガ如キ口吻デ、營業免許ト云フ言葉ヲ御用ヒニナツテ居リ、幾ラ免許ヲ下サイマシテモ、本案ノ將來進ムベキ方向ト政府ノ動向トヲ考ヘルト、免許ハ貰ツタガ營業ノ、仕事ノ種ガナクナツテ參リマスレバ何ニナリマスカ、一方産業組合ノ進出ヲ防グト云フ條件デ、事實是ガ行ヘルト云フナラバ、營業免許ヲ米穀商人ガ貰ツタコトハ光榮デアリマスガ、一方産組ノ進出ヲ許シテ之ニ免許ヲ御下シニナリマシテモ、使ハウニモ使フバキ餘地ガナクナリハシマセ

ヌカ、是ハ兩立シタ雙方ノ分野ヲ明確ニシ
タ後ニシテ戴クモノデナケレバ有難イトハ
申上ゲラレマセヌ(拍手)

以上ニ依ツテ大體私ハ論旨ヲ盡シマシタ、
結局現在ノ戰時體制下ノ眞ノ米穀根本對策
トハドウ云フモノデアルカ、私ハ惟フニ日
滿支ヲ通ズル戰時農業體制ノ計畫化ト、農
家ヲ農産物ト農家購入品トノ、所謂缺狀價
格差ヨリ救出スルト共ニ、資本主義經濟機
構ノ根柢ヲ成ス生産部面ノ内部關係ヲ整調
シ、全體主義的ナ統制機構ニ段々之ヲ移行
シ、斯ウシタ中カラコソ此ノ基本ニ照應シ
タ流通部面ノ編成替ガ行ハルベキモノデゴ
ザイマシテ、之ヲ行フ場合ノ配給部面ノ仕
事トシテハ、農村ニハ増産計畫ヲ實行シテ、
生産ノ増加ヲ來サシムルト共ニ、商業組合
ノ全面的活用ニ依リ配給ノ圓滑ヲ期セシメ、
米價ニ付テハ、全國ノ物ノ價ヲ米ダケヲ除
カズニ、全國中央物價公定委員會ヲ組織ス
ルコトニ依ツテ、日本ノ軍需品以上ノ軍需
品タル米穀ノ價格モ、此處デ規整スルト云
フコトニ致シマスレバ、恆久、臨時兩面ヲ
通ジ、一貫シタル米穀ノ根本對策ガ茲ニ打立
テラルベキモノデアツテ、斯様ニナラナケ
レバナラスト思フノデアリマスガ、之ニ對
スル政府ノ御所見ハドウデゴザイマスカ、
歴史的ナ大キナ齒車ガ非常ナ速サデ進ンデ
居リマス、ソコニ斯ウ云フ因循姑息ナ法案
ヲ御提出ニナツタノデハ物ノ役ニ立チマセ
ヌ、オ五ニ生産配給兩面ノ各、其ノ得意ト
スル所ノ天分ヲ發揮シ、時代ニ順應シタル

眞ノ國策ノ遂行法案ニ改メラレマシテ、茲
ニ急イデモウ一遍新提出サレルコトガ望マ
シイト思ヒマス、アナタノ本案ヲ提出スル
マデニ各方面ニ御拂ヒニナリマシタ御盡力
ハ衷心ヨリ感謝致シテ居リマス、併シ妥協
案ガ出來タカラソレニ私共ガ賛成スルカト
云フト、ソレモ中々困難デアリマス、酒ハ
酒トシテ酒ノ持味ガアリマス、水ハ水トシ
テ水ノ持味ガアル、其ノ酒ノ中ニ水ヲウメ
テ是デ良イモノガ出來タト仰セラレルヤウ
ナコトニハ、私共ハ中々賛成ガシニクイノ
デアリマシテ、時日モ餘ス所僅カデゴザイ
マスカラ、早ク政府ノ方デモ少シ私共ノ滿
足シサウナ案ヲ御提出ニナリマスルヤウニ、
私ハ希望致シナガラ此ノ質問ヲ終ル次第デ
アリマス(拍手)

〔國務大臣櫻内幸雄君登壇〕

○國務大臣櫻内幸雄君 只今眞鍋君カラ
詳細ナル御意見ヲ附サレテノ御質疑デアリ
マス、之ニ對シテ條ヲ逐ウテ御答辯申上ゲ
タイト思ヒマス

第一ハ本案ニ依ツテ所期ノ目的ヲ達スル
コトガ出來ルカ否カ、斯ウ云フ御質疑ノヤ
ウデアリマス、之ニ附帶シテ、現在行ハレ
テ居ル米穀問題ニ對スル法律ノ運用ガ、如
何ニサレテ居ルカト云フコトヲ御質問ニナ
ツテ居ルヤウニ思ヒマス、御話ノ如ク當初
ノ米穀問題ノ論議サレマシタノハ、久シキ以
前デアリマシテ、以來量ノ問題ニ依ツテ之
ヲ解決致サウト致シ、次ニハ量及ビ價格ノ
調整ニ依ツテ此ノ問題ヲ決定致シマスガ爲

ニ、所謂米穀統制法ガ出來タノデアリマス、
米穀統制法ガ出來テ何等效果ガナイデハナ
イカト云フ風ナ御意見モアツタヤウデアリ
マスケレドモ、今日ノ米穀統制法ハ御承知
ノ如ク最高最低ノ値段ヲ決メマシテ、米價
ノ調節ニ對シマシテハ相當貢獻ヲ致シテ居
ルト考ヘテ居リマス、又今後ト雖モ此ノ米穀
統制法ノ力ニ依ツテ、米價ノ暴騰暴落ニ對シ
マシテ緩和致スコトガ出保ルト考ヘルノデ
アリマス、本案トノ關係ハ、本案ニ於テ規
定致シテアリマスガ如ク、所謂米穀統制法
ニ基イタ最高最低ノ範圍内ニ於テノミ取引
ヲサレルノデアリマスガ故ニ、米價ノ問題
ニ對シマシテハ、見様ニ依リマシテハ殆ド
根本的對策ガ決定サレタトモ言ヒ得ルノデ
アリマス、唯其ノ配給其ノ他ニ付キマシテ、
本案ニ依ツテ十分ナル成果ヲ擧ゲルカ否カ
ト云フコトニ對シテノ御質疑デアリマス
ガ、是ハ御承知ノ如ク全體ノ米穀商ヲ、又
米穀ヲ取扱フ所ノ者ヲ免許制度ト致シマス
ト共ニ、之ヲ統制致シマシテ、政府ガ必要
ナル命令ヲ發スルト云フコトニナツテ居ル
ノデアリマスガ故ニ、此ノ米穀統制法ノ發
動ト相俟ツテ十分ナル成果ヲ擧ゲ得ルコト
ト考ヘルノデアリマス、米穀自治管理法ハ
御承知ノ通り此ノ問題ヲ解決致シマスガ爲
ニ制定致シテ居リマスケレドモ、今日マデ
マダ發動致シテ居リマセヌ、豫備的法律ト
ナツテ居ルノデアリマス、要シマスルノニ
今日ノ米穀問題ハ、農家ノ人々ガ安ンジテ
生産ニ從事シテ相當ノ家計費ヲ得、サウシ

テ多少ノ利潤ヲ得テ、其ノ生活ガ安定保障
サレルト云フコトガ一つノ要素デアリマス、
又一面ニ於テ消費者階級ノ人々ガ出來ルダ
ケ安イ價格ヲ以テ其ノ食糧ガ確保サレルト
云フコトガ、最も重要ナコトデアリマス、
即チ生産者ヲシテ安ンジテ其ノ業ニ從事セ
シメ、消費者ヲシテ安ンジテ食糧ノ問題ニ
對シテ心配ノナイヤウニスルト云フ事柄
ガ、最も必要ナ事柄デアリマシテ、此ノ點
ニ重點ヲ置イテ今回ノ法案ヲ提案致シタ譯
デアリマス、運用ノ如何ニ依ツテ只今眞鍋
君ノ御質問ニナルヤウナコトガ起リハシナ
イカト云フ所ノ御懸念ヲ御懷キニナル方ガ
アルカモ知レマセヌケレドモ、ソレニ對シ
マシテハ、徹底的ニ此ノ問題ニ對シ相當ノ
準備ヲ致シテ掛ルノデアリマシテ、私ハ本
法案ニ依ツテ大體ノ目的ヲ達シ得ルモノ、
斯様ニ信ズルノデアリマス

次ニ本案ハ取引所救済ヲ含ムモノノヤ
ウニ思ハレルガ、ソレナラバ男ヲシク取
引所ノ救済ト云フコトヲ謳ツタラドウカ、
サウシテ綺麗サツパリト出直シタラドウ
カト云フ御話デアリマス、取引所ノ問題
ハ御承知ノ如ク多年ノ問題デアリマス、
只今御話ノ如ク、米價ノ最高最低ヲ決定致
シマシタ結果ト致シマシテ、既ニ潰レク取
引所モアルノデアリマス、此ノ問題ガ數年
來議會ノ問題トナツテ居ルコトハ、只今御
話ノ通りデアリマス、併シナガラ今回ノ法
案ノ骨子ハ取引所救済ガ主眼デハナイノデ
アリマス、即チ米價ノ最高最低ヲ決メテ、

サウシテ生産ヲ確保シテ、消費者ニ圓滿ニ配給スルト云フコトガ目的デアリノデアリマシテ、取引所ノ救済ト云フコトハ第二次のノ問題デアリマス、即チ從來ノ取引所ガ主トシテ投機取引ヲ致シテ居ツタケレドモ、此度設ケル所ノ日本米穀株式會社ハ實物ヲ取扱フコトヲ主眼ト致シテ居ルノデアリマス、從來ノ統計ニ依ツテモ御承知デアリマセウガ、所謂米穀取引所ニ於ケル所ノ取引ノ大部分ハ清算取引デアリマス、其ノ清算取引ノ數字ヲ申上ゲマス、昭和十一年ニ於テハ七千七百石ノ多キニ上ツテ居リマス、又昭和十二年ニハ八千四百石、昭和十三年ニ於キマシテハ非常ニ激減ヲ致シマシテ四千二百萬石、要シマスルニ大部分ノ取引ガ清算取引デアリノデアリマス、此度ノ法案ニ於キマシテハ、此ノ投機取引ト看做サル所ノ清算取引ト云フモノニ付キマシテハ、全部之ヲ除外致シタノデアリマス、然ラバ延取引ヲ何ガ爲ニ許スカト云フコトヲ、後ニナツテ御質問ニナツタヤウデアリマスガ、延取引ト云フモノハ、是ハ今日ノ實情ニ於テハ私共ハ已ムヲ得ナイモノト思フノデアリマス、之ヲ全部ノ市場ニ於テ許スト云フ意味デハアリマセヌ、大集散地ニ於テ特ニ許シタイト思フテ居ルノデアリマス、又特別ノ事情ノアル場合ハ是ハ別デアリマス、併シナガラ此ノ延取引ハ、從來ノ如ク格付取引ト申ス一定ノ格付ノ米ヲ標準トシテ賣買致シテ、サウシテ其ノ標準價格ヲ基準ト致シテ、他ノ米ヲ自由ニ代用スルト云フ

ヤウナ組織ニナツテ居リマスケレドモ、此ノ延取引ニ對シマシテハ、銘柄別若クハ組合セ銘柄別——例ヘテ申セバ埼玉縣ノ第何等米ト茨城縣ノ何等米、之ヲ組合セタ米以外ハ、其ノ取引ニ對シテ外ノ米デハイカナ、斯ウ云フヤウナ組織ニナツテ居ルノデアリマス、即チ從來ハ格付ノ米ニ依ツテ自由ニ賣買ヲシテ、全國何處ノ米デモ持つテ行ツテソレヲ補充シ得タノガ、此度ノ延取引ニ依リマス、一定ノ米種ニ限ラレテ居ルノデアリマスガ故ニ、容易ニ投機ノ目的トハナラナイノデアリマス、ノミナラズ其ノ期間内ニ於テ轉賣買戻ヲ許シマセヌ、即チ最後ノ受渡期間ニ於テノミ取引市場員間ノ決済ヲ許スコトニナツテ居ルノデアリマシテ、一言ニシテ申セバ、總テ實物ヲ主トシタル所ノ取引ヲ致シテ、實物ニ依ル公定相場ヲ作りタイト云フノガ、本質上ノ大目的ニナツテ居ルノデアリマス

續イテ取引所ノ救済問題ニ對シマシテ、救済トハ言ハズシテ、或ハ利用價值トカ、其ノ他ノ名前ノ下ニ此ノ救済ヲスルヤウナ意味ガ含マレテ居ルガ、是ハドウデアルカト云フ風ナ御意見デアリマス、ソレハ御承知ノ如ク、現在建物ガアル、其ノ建物ヲ若シ壊シ値段ニスレバ二東三文ニナル、併シナガラ之ヲ實際ニ利用スル場合ニ於ケル所ノ、利用價值ト云フモノハ自ラ違ツテ來ルノデアリマス、私共ハ今日此ノ市場ヲ買取ツテ、此ノ會社ガ市場經營ヲ致ス場合ニ於ケル、其ノ利用價值ヲ認メマシテ、買收スルコトヲ容認シヨウト致スノデアリマスガ、其ノ買收ノ價格ニ付キマシテハ、又買收ノ方法ニ付キマシテハ、官民各方面カラ相當ノ權威者ニ出テ戴キマシテ、此ノ公平ナル審査決定ニ俟ツテ、其ノ買收價格ヲ決定致シタイ、斯様ニ考ヘルノデアリマス

次ニ斯ウ云フヤウナコトヲスルヨリハ、寧ロモウ一步進ンデ專賣制度トカ、或ハ國家管理トカ、斯ウ云フモノニシテ根本的解決ヲシタラドウカト云フ御意思ノヤウデアリマスケレドモ、私ハ議論トシテハ深く傾聽致スノデアリマス、併シナガラ專賣ニ致セ、或ハ國家ガ之ヲ管理致スニ致シマシテモ、相當面倒ナル問題ガ各方面ニ起ルノデアリマシテ、一朝一夕ニ只今之ニ贊成ヲ致シマシテ、此法案ヲ改メ考ヲ持つテ居リマセヌ

又產業組合ガ此ノ問題ニ對シテ進出ヲ致ス、此ノ問題ニ對シテ力強ク御議論ニナツタト思ヒマス、產業組合ノ販賣組合ヲ市場員ニ致スト云フコトハ、公平ナル見地ニ立ツテ、私ハ當然デハナカラウカト思ヒマス、何故ナラバ、御承知ノ如ク小サナ小農ノ人々ガ、其ノ生産シタル所ノ米ヲ持寄ツテ、之ヲ都會ノ地若クハ市場ニ持つテ來テ賣ルト云フコトハ、當然認メラレテ居ルコトデアリマシテ、是ハ今日既ニ斯様ナ手續ニ依ツテ販賣サレテ居ルノデアリマス、又今日ト雖モ市場員ノ手ヲ經テ市場ニ於テ賣却サレテ居ルモノモ少クナイノデアリマス、即チ之ヲ市場員ニ致シテ見タ所デ、唯市場員ノ手ヲ經ルカ經ナイカ、直接ニ自分ガ賣ルカ賣ラヌカト云フダケノ違ヒデアリマシテ、小サナ小農者、生産業者ト云フモノヲシテ、直接ニ自由ニ賣ラシムルヤウナ途ヲ開クト云フコトハ、是ハ私ハ當然爲サナケレバナラヌ途デアルト考ヘルノデアリマス、之ニ反シテ商業組合ヲ利用スルノ途、即チ消費者階級ニ於テモ消費者ノ團體ガ此ノ市場ニ入ツテ、米ヲ自由ニ買ヒ得ルト云フコトノ途ヲ開クトモ、是亦當然爲スベキコトデアルト思ヒマス、商業組合ノ人々ガ今日アチコチノ米商人ヲ訪ネテ値段ヲ打衝シテ、サウシテ之ヲ買付ケルト云フコトニ對シマシテハ相當不便ガアリマスノデ、此ノ市場ニ參ツテ自由ニ買ヘル、而モ此ノ市場ハ賣ル方ノ人々モ、買フ方ノ人々モ、僅ニ一依ニ對シテ二厘内外ノ手数料サヘ出セバ、各方面ニ飛廻ツテ賣買スルノ必要ガナイノデアリマシテ、極メテ單純ニ、極メテ便利ニ參ルノデアリマシテ、私ハ消費者階級ノ方カラ見マシテモ、亦生産者ノ方面カラ見テモ、此ノ市場ヲ中心トシテ取引致スト云フコトハ、最モ必要ナコトデアアル、斯様ニ信ズルノデアリマス、唯此ノ機會ニ於テ從來ノ米穀ヲ取扱ツテ居ツタ人々ガソレデハ困ルデハナイカ、從來ハ農村カラ米ヲ安ク買ツテ來テ、相當ノ利潤ヲ得テ賣捌ク、此ノ中間業者ト云フモノガ非常ニ困ルデハナイカト云フ御議論ガ出ラウト思ヒマス、又世間ニハソレニ付テ相當議論ガアリマス、私ハ此ノ點ニ付テハ或ル程度マデ之ヲ決シテ

反對スル者デハアリマセヌ、併シナガラ現在ノ機構ニ於テ、既ニ産業組合ノ取扱ツテ居ル石數ハ約二割三分デアリマス、而シテ米穀取扱業者ノ取扱ツテ居ル石數ト云フモノハ、アトノ七割以上デアリマス、併シナガラ現狀ニ於テハ次第々々ニ産業組合ノ方ガ進出ヲ致シテ、其ノ取扱數量ノ殖エツツアルト云フコトモ事實デアリマス、是ハ米穀取扱業者ノ諸君ガ茲ニ大イニ御考ニナツテ、其ノ間ニ於テ此ノ七割以上持ツテ居ル集荷機構ト云フモノヲ統制サレテ、農民ノ利便ヲ圖リ、需要者ノ利便ヲ圖ルコトニ對シテ一段ノ御考慮ヲ御拂ヒ下サイマシタナラバ、恐ラク其ノ間ニ於テ適當ナル方策ガ見出セルト思ヒマス、殊ニ販賣組合ハ唯場内ニ於テモ賣ルダケデアリマス、是ガ先刻延取引デ云々ト云フ御話デアリマシタガ、假ニ延取引ニ於テ販賣組合ヲ許サレルト致シマシテモ、一遍販賣組合ガ賣レバハ品物ヲ渡スノデアル、思惑ハサセナイノデア

ル、又消費者階級ガ米ヲ買ツタ場合ニ於テハ、之ヲ必ズ受取ルノデアアル、米穀取扱業者ハ其ノ間ニ於ケル所ノ調節機關トシテ、或ハ集荷ノ問題ニ對シマシテハ、此ノ廣イ範圍内ニ於テ持ツテ居ル自分ノ集荷ノ勢力ヲ利用シテ、自由ニ集荷ヲ致シ、賣ルコトモ出來レバ、買フコトモ出來ル、兩者ノ間ノ調節機關ニナルノデアリマス、即チ消費者ト生産者ト此ノ間ヲ調和スル所ノ調節機關デアアル、此ノ三ツノモノガ打ツテ一丸トナツテ、今日ノ米穀政策、米穀配給ニ對シ

テ貢獻シテ下サルナラバ、茲ニ圓滿ナル需給ガ成立スルト斯様ニ思フノデアリマス（拍手）

地區外ノ取引ニ付テノ御尋ガアリマシタガ、地區外ニ於テ闇取引ガ行ハレル虞ガアルデハナイカ、斯ウ云フ御話デアリマスケレドモ、私ハ左様ニ考ヘマセヌ、地區外ニ於テ若シ米ノ値段ガ高クナツタト假定致シマスナラバ、地區外ノ人ハ市場ニ行ケバ安イ米ガ買ヘルノデアリマスガ故ニ、進ンデ市場ニ買ヒニ參ルデアリマセウ、何モ故ラ高イ米ヲ買フ必要ハナイ、殊ニ市場ニ主ナル米穀取扱ノ主流ガ集マルノデアリマスガ故ニ、此ノ主流ニ依ツテ米穀ガ調節致サレマス以上ハ、地區外ニ於テ闇取引ノ行ハレルト云フガ如キコトハ、私ハ斷ジテナイト斯様ニ思フノデアリマス

産業組合カ現在小作人ノ利益ヲ認メザルニアラズヤト云フ風ナ御意見デアツタト思ヒマスガ、私ハ現在ノ産業組合ノヤリ方ガ全部理想的デアルトハ申シマセヌ、大イニ考慮ヲ促シタイ點ガ多クアリマスガ、米ニ關スル限り、即チ農民ノ委託ヲ受ケテ米ヲ賣ル場合ノ行為ダケハ、是ハ私ハ認メテ然ルベキダト思フ、若シ産業組合ノ行為ニ付テ法律ニ違反シ、組合ノ規定ニ違反スルガ如キコトニ付キマシテハ、是ハ十分取締ルベキコトデアルト斯様ニ思フノデアリマス

ソレカラ此ノ會社ガ出來レバ古手官吏ヲ使フノデハナイカ、又既ニサウ云フ豫定ガアルノデハナイカト云フ風ナ御意見ガアリ

マシタガ、其ノ事柄ハ絕對ニアリマセヌ、又現在ニ於テ左様ナ將來之ヲ經營スル所ノ人ニ付テ話合ツタコトモアリマセヌ、同時ニ斯ウ云フ仕事ハ民間ノ事業ニ精通シタル、商賣ニ堪能ナル人ヲ起用シテ、之ニ當ラシムルコトガ當然ノコトデアルト思フノデアリマス（拍手）

又中央物價委員會ヲ設ケテ、サウシテ米ノ値段ヲ一定化シテハドウカト云フ御議論モアリマスガ、御承知ノ通り米ハ多種多樣極メテ複雑ノモノデアリマシテ、之ヲ單一化ニ依ツテ賣買セシムルト云フコトハ容易ノ業デハナイノデアリマシテ、理想ト致シマシテハ結構デアリマスケレドモ、實際問題ト致シマシテハ甚ダ困難デアルト私ハ思ヒマス、要シマスルノニ産業組合ガ此ノ集荷ニ對シテ強制集荷ヲ爲スト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、左様ナコトハナイノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ眞鍋君ノ御心配ノ點ハ全然不必要ト思ヒマス

畢竟致シマスノニ、本案ノ趣旨ハ生産者ト、消費者ト、配給業者、總テヲ調和一體ト致シマシテ、圓滿ナル需給關係ニ致シタイ、斯様ナ意味ニ於テ出シタノデアリマシテ、或ハ御答漏ガアルカモ知レマセヌガ、ソレハ又別ノ機會ニ於テ申上ゲタイト思ヒマス（拍手）

（國務大臣八田嘉明君登壇）

○國務大臣（八田嘉明君） 只今眞鍋君カラ私ニ御尋ノ點ニ付キマシテ御答申上ゲマス

第一點ハ、農業生産者ガ産業組合ノ分野ト、一般米穀業者タル中小商業者トノ分野ニ付テ御尋ガアリマシタ、此ノ點ニ付キマシテハ、只今農林大臣ヨリ或ル程度御觸レニナリマシテ御答ガアツタノデアリマスガ、結局御指摘ニナリマシタル新シキ市場ニ於ケル所ノ生産團體側ハ、賣一方デアルト言フケレドモ、其處ニ米穀ノ流レガ集中スルノデアラウト云フヤウナ御考カラノ、御質問デアツタノデアリマスケレドモ、此ノ點ニ付キマシテハ、只今農林大臣ヨリ御答ノアリマシタル通り、賣方ニ於キマシテモ、所謂米穀取扱業者ガ相當ノ分量アルノデアリマス、隨テソレ等ノコトニ付キマシテハ、只今農林大臣ヨリ御答ノアリマシタル通り、十分ナル指導監督ヲスルコトガ出來ルデアラウト考ヘルノデアリマス、併シナガラ根本問題トシテハ、御説ノ中ニアリマシタル通り、生産業者ノ方ノ團體タル産業組合ト、此ノ取扱業者デアリマス所ノ商業者竝ニ商業者ノ團體トノ間ノ圓滑ナル分野ト云フモノガ、洵ニ大切ナル問題デアルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、敢テ只今議題トナツテ居リマス所ノ此ノ米穀配給統制法ニ限ラズ、總テノ問題ニ付テ、只今我國ノ各方面ニ於テ、其ノ是非ガ論究サレテ居ルノデアリマシテ、私ノ承知シテ居リマスル限りニ於テハ、政府當局ニ於キマシテモ、此ノ問題ニ付キマシテハ全般的ニ十分ナル考究ヲ遂ゲマシテ、而シテ我國ニ多年存在致シテ居リマス淳風美俗ヲ失ハナイヤウ

ニ、而シテ徒ニ相剋摩擦ノ生ジマセヌヤウ
ニ、此ノ生産カラ消費ニ至リマスル其ノ途
中ノ配給問題ニ付テ、或ハ生産者側ノ團體、
或ハ配給者側ノ團體間ニ於ケル此ノ問題ニ
付キマシテハ、最善ヲ盡サナケレバナラス
ト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレニ關聯致シ
マシテ御指摘ニナリマシタ、商工省ニ於テ
此ノ問題ニ對シテ十分考慮ガ拂ハレテ居ラヌ
ヤウナ意味ノ御尋ガアリマシタケレドモ、
商工省ト致シマシテハ、其ノ指導監督ノ任
ニ在リマスル所ノ中小商業者ノ立場ニ付
キマシテモ、本問題ヲ考究スル上ニ於テ
十分ナル研究ト考慮トヲ致シタノデアリマ
ス、唯徒ニ一方ニ囚ハレズニ、所謂國策ヲ
樹立スル上ニ於テ、是ガ決定並ニ運用ニ付
キマシテハ、最モ其ノ衝ニ當ツテ居ラレル
所ノ農林省ト、十分全局的ニ高處大處ヨリ
考ヘマシテ、本案ニ同意ヲ致シテ居ルヤウ
ナ次第デアリマスルコトヲ諒トセラレンコ
トヲ願フノデアリマス

第二ノ御質問ハ、ソレデハ敢テ斯ノ如キ
米穀配給統制法案ニ依ラズトモ、商業家ヲ
シテ組合ヲ結成セシメテ、所謂商業組合ノ
方法ニ依ツテ配給ノ圓滑ヲ圖リ、本案ニ代
ル所ノ目的ヲ達成シ得ルノデハナイカ、其
ノ點ニ付テハドウ考ヘルカト云フ御尋デア
リマス、此ノ點ハ洵ニ御説ノ通り考ヘルノ
デアリマス、即チ米穀業者ヲシテ商業組合
ヲ結成サセ、問屋並ニ小賣業者等ノ團體結
成ニ依リマシテ、此ノ組合ノ機構ヲ強化改
善致シマシテ、之ニ適當ナル統制ヲ加ヘマ

シテ、政府ガ指導宜シキヲ得ルナラバ、或
ル程度ノ目的ヲ達成シ得ルト云フコトハ私
ハ信ズルノデアリマス、併シナガラ今日マ
デノ情勢ニ於キマシテハ、十分ナル結果ヲ
直チニ擧ゲルト云フコトハ、又同時ニ考ヘ
ラレナイノデアリマシテ、本法ニ依ルコト
ガ時局ノ食糧對策ト致シマシテ、最モ效果
的デアルト云フコトノ結論ニ到達致シタ次
第デアリマス、即チ本法案ニ於キマシテモ、
米穀商業者ヲ免許制度ト致シタルコト、
又配給統制ガ必要デアリマスル時ニハ、政
府ガ命令ヲ發スルコトガ出來ルヤウニ相成
ツテ居ルノモ、精神ニ於キマシテハ、是等
ノ米穀取扱業者及ビ其ノ團體ヲ十分將來ニ
於テ統制シツツ、本案ノ運用ニ最善ヲ期シ
タイト云フ心掛デアアルノデアリマス、一方
ニ於キマシテ御承知ノ如ク、過去ニ於テハ
兎角發達シニクカツタ思ハレル所ノ米穀商
業者ノ組合組織モ、最近ニ於キマシテハ、
相當自發的ニ是ガ結成強化ト云フコトニ對
シテ、其ノ機運ガ見エテ來タヤウニ存ズル
ノデアリマス、斯様ナ點ニ鑑ミマシテ政府
ト致シマシテハ、特ニ商工省ト致シマシテ
ハ、此ノ米穀關係ノ商業組合ノ自然ノ發達
ヲ助長致シ、更ニ之ヲ強化致シマシテ、今
後配給ノ上ニ於キマシテ最モ有效ニ、此ノ
商業組合ノ活動ヲ效果のナラシメマシテ、
一層本法案ノ運用ニ力ヲ致シタイト考ヘテ
居ルノデアリマス

第三ニ、米ヲ一般物價ト共ニ公定委員會
ノヤウナモノデ決スル考ハナイカト云フコ
トデアリマスガ、之ニ付キマシテモ農林大
臣カラ御答ガアツタト存ジマスルガ、米穀
ノ價格統制ハ、御承知ノ通り既ニ過去ニ於
キマシテ、米穀統制法ニ依ツテ行ハレテ居
ルノデアリマシテ、一層今回ノ本法案ニ依
ツテ其ノ點ハ強化セラレルト考ヘルノデア
リマスルカラ、現在ノ物價委員會等ニ於キ
マシテハ、此ノ米ノ問題ハ除外致シテ居ル
次第デアリマス、左様御諒承ヲ願ヒマス(拍
手)

○議長(小山松壽君) 小山田義孝君

(小山田義孝君登壇)

○小山田義孝君 只今議題トナリマシタル
米穀配給統制法案ニ對シテ質問ヲ試ミタイ
ト思ヒマス、米穀ノ生産確保ニ關スル問題
ト共ニ、適正ナル米價ヲ維持シテ圓滑ナル
配給ヲ爲サンガ爲ニハ、米ノ生産カラ消費
ニ至ルマデノ間ニ、一貫シタル所ノ統制ノ
必要デアリマスルコトハ、米ガ國民ノ主要
食糧デアルト云フコトバカリデハナクシテ、
戰時食糧政策ノ圓滑ナル運用ヲ期スル爲ニ
モ極メテ緊要ノコトデアアルノデゴザイマ
ス、此ノ要求ニ對應センガ爲ニ、今回米
穀配給統制法案ノ提出ヲ見マシタコト
ハ、確ニ我國米穀政策ノ一歩前進ヲ意味
スルモノデアルト私ハ考ヘル者デアリマ
ス、從來ノ我國ノ米穀政策ガ、米穀統
制法ヲ根幹ト致シマシテ、米穀自治管理
法又ハ米穀臨時措置法乃至ハ穀共同貯藏助
成法等ノ法令ニ依リマシテ、米穀需給ノ
調節ヲ圖ツテ來タノデアリマスガ、偶々支那

事變ノ勃發ニ依リマシテ、全面的ニ經濟統
制ニ乗出サナクテハナラス大勢ノ赴ク結果
ト致シマシテ、從來ノ政策ガ此ノ戰時下
ニ於キマシテハ、殆ド無力ニ近イ存在ト化
シツツアルト云フコトハ、現在ノ事情ヲ御
覽ニナリマスト能ク御分リノコトデアリマ
ス、米穀統制法ハ事變以來ノ物價ノ變動ニ
依リマシテ、公定價格ノ算定基準ガ動搖破
綻ニ瀕スルニ至リマシテ、米價ノ異常ナル
昂騰ヲ阻止スルコトガ殆ド不可能ニ陷ラン
トスル狀況ニアルノデゴザイマス、米穀配
給統制案ガ果シテ我國食糧問題ノ解決ノ爲
ニ、幾許ノ效果ヲ齎ラスカドウカト云フコ
トニ付キマシテハ、幾多ノ疑義ガアルノデゴ
ザイマスルケレドモ、要ハ本法運用ノ適正
ヲ得ルコトニ依リマシテ、相當ノ效果ヲ期
待スルコトガ出來ルト考ヘラレルノデアリ
マス、以下數點ニ互ツテ政府ノ所見ヲ伺ヒ
タイト思フノデアリマス

本案ハ米ノ配給部面ニ對シテ強權のナ國
家統制ヲ加ヘントスル案デアリマスガ、之ヲ
客觀的ニ見マスル場合ハ、本案ハ米ノ國家
管理、即チ專賣制度ニ移行セントスル一歩
手前ノ法律デアルト私ハ考ヘルノデアリマ
ス、即チ政府ハ從來ノ米穀取引所ヲ廢止致
シマシテ、實米ノ取引ヲ爲ス爲日本米穀株
式會社ヲ設立シテ、内地外地ニ互ル米穀ノ
取引配給ヲ爲サシメントスルモノデアリマ
ス、配給組織ノ統制、米穀取扱業者ニ
對スル免許制度ヲ設定シテ居ルノデアリマ
ス、他面價格政策ノ適正ヲ期セントスル本

案ノ建前ハ、一種ノ專賣制度ニ似通ツタ形體ヲ備ヘテ居ルモノト思フノデアリマス、而シテ本案制定ノ趣旨ヲ遺憾ナク徹底セシメンガ爲ニハ、配給組織ノ根本的整備改善ト相俟ツテ、生産者カラ消費者ニ至ルマデノ米ノ賣價價格ヲ公定シテ配給業者ヲシテ完全ニ手數料商人タラシムル所マデ行カナケレバ、其ノ目的ヲ貫徹スルコトハ至難デアルト思フノデアリマス、從來ノ米ニ關スル政策ノ推移カラ見マシテモ、吾々ガ意識スルトシナイトニ拘ラズ、專賣制度ノ實現ニ向ツテ一步々ト前進ヲ續ケテ居ルカノヤウナ外觀ヲ呈シテ居ルノデアリマス、米穀法カラ米穀統制法、更ニ米穀自治管理法トナリマシテ、今又專賣制度ト最モ關係ノ深い配給部面ニ對シテ、強度ノ統制ヲ加ヘントスル本案ノ提出ヲ見ルニ至リマシタコトハ、專賣ヲ好ムト好マザルトニ拘ラズ、我國米穀政策ノ動向ハ、專賣制度ノ實現ニ向ツテ準備ヲ進メテ居ルカノ如キ觀ヲ呈シテ居ルノデアリマス、殊ニ目下審議中ノ臺灣米移出管理案ニ依リマス、移出臺灣米ハ臺灣總督府ニ於キマシテ買入ヲ爲シ、其ノ販賣ハ農林省ニ委託スル、農林省ハ更ニ米穀會社ヲシテ其ノ販賣ヲ代行セシメルト云フノデアリマシテ、是ハ正ニ臺灣米ニ對スル國家管理ヲ強行スルモノデアルト思ヒマス、所謂專賣ニ準ズル制度ノ實現ヲ見ヨウトシテ居ルヤウナコトニナツテ居ルノデアリマス、斯ル情勢下ニ於キマシテ、米價ノ統制上、米ノ供給ニ付テ十分ナル統制力ヲ發揮

スル爲ニハ、此ノ專賣制度ヲ措イテ外ニ優ル方策ハナイト私ハ考ヘテ居ル者デアリマス、勿論米ノ配給ニ關シマシテ專賣制度ヲ布クト云フコトハ、今ノ自由主義經濟ニ對シテ重大ナル除外令ヲ求ムルト云フコトニハナルノデアリマスルガ、併シ既ニ煙草或ハ鹽等ニ付テ專賣ガ行ハレテ居ルト云フ現狀ヨリ見マスレバ、決シテ不當ノ要求デハナイト思フノデアリマス、勿論專賣制度ノ實施ト云フコトハ、實行上非常ナル困難ヲ伴フ問題デアリマス、併シ今後法律的ニ更ニ一步ヲ進メントスレバ、殘ル問題ハ唯專賣制度ノ斷行ノミト云フコトニナルノデアリマシテ、只今櫻内農相ノ御答辯ニ依リマスルト、專賣ハ直チニ賛成シ得ナイト云フコトデアツタノデアリマスガ、此ノ問題ハ本年ノ實績ト相俟ツテ、將來必ズ我國米穀政策ノ中心課題トナルベキモノト考ヘルノデアリマスガ、政府ハ此ノ米ノ專賣制度ノ實施ト云フコトニ對シマシテ、果シテ如何ナル御用意ヲ持ツテ居ルカト云フコトヲ、改メテ御伺致シタイト思フノデアリマス

次ニ私ハ今後ニ於ケル所ノ米ノ需給推算ニ關スル問題ト、米ノ増產計畫ニ付キマシテ御伺ヲ致シタイト思ヒマス、國民ノ主要食糧デアアル所ノ米ノ國內生産ヲ確保スルト云フコトハ、平時デアリマシテモ國策トシテ實行スベキコトデアリマスガ、殊ニ戰時下ニ於キマシテハ、軍需品ヤ貿易農產物ト同様、極力其ノ減產ヲ防止シナケレバナラナイト共ニ、一面生産力ノ増進ニ向ツテ努力

ヲシナケレバナラナイト云フコトハ申スマデモナイコトデアリマス、然ルニ戰時下農村ニ於ケル所ノ勞力、畜力ノ減退、肥料其ノ他生産資材ノ供給ノ圓滑ヲ缺ク等ノ爲ニ、是等ノ生産條件ノ低下ハ、必然的ニ農產物ノ減收ノ脅威ヲ受ケルコトニナリマシテ、從來殆ド食糧ノ不足ヲ經驗シナカツタ我國ニ於キマシテモ、昨今漸ク米穀需給ノ問題ガ極メテ眞剣ニ論議サレルヤウニナツテ參ツテ居ルノデアリマス、米ノ生産ヲ確保増進スルト云フコトハ、米ノ配給機構ヲ整備改善スルコトハ、現下ニ於ケル所ノ米穀政策ノ盾ノ兩面ヲ爲スモノデアリマシテ、配給部面ノ改善ガケヲ以テシテハ、勿論米ノ問題ハ解決サレヌノデアリマス、農林當局ハ本年度ニ於ケル所ノ米ノ需給數量ニ付テ何等ノ不安ガナイトシテ、極メテ樂觀サレテ居ルノデアリマスガ、先般御發表ニナリマシタ昭和十四年度内外地ノ米ノ需給推算ニ依リマスルト、前年度ヨリノ持越米ガ九百四十八萬八千石、内地外地ヲ通ズル實收高ガ九百九十七萬四千石、輸入見込高ガ三十萬石デ、供給數量ノ合計ガ一億九百五十五萬二千石トナツテ居ルノデアリマシテ、之ニ對シテ需要數量ハドウデアアルカト申シマス、内地外地ヲ通ズル消費見込高ハ九百九十四萬石、輸移出ノ見込高ガ九十三萬石デ、需要ノ合計數量ハ一億三十三萬石デアリマス、其ノ差引翌年度ヘノ持越見込高ハ九百二十二萬二千石ト云フ數字ヲ示シテ居ルノデアリマスガ、此ノ需給推

算ニ付キマシテハ、私ノ了解シ得ナイ點ハ、消費數量ノ見積ノ點デゴザイマス、政府ノ發表ニ依リマス消費ノ見積數量ハ九千九百四十萬石デアリマスガ、今昭和十三年度ニ於ケル所ノ消費高ノ實績ヲ見マスルニ、合計一億五十九萬石ノ數字ヲ示シテ居ルノデアリマス、而シテ之ヲ昭和十二年度ニ於ケル所ノ消費量ニ比較シテ見マスル時ハ四百四十五萬九千石ノ増加ヲ示シテ居ルノデアリマシテ、隨テ本年度ノ消費見込高ハ、少クトモ一億二三百萬石程度ニ達スルモノト見ナケレバナラナイト思ヒマス、斯ク見マスル時ハ、來年度ニ持越サルベキ米ノ數量ト云フモノハ、豫定通りノ平年作ノ收穫デアルトシマシテモ櫻内農相ノ樂觀ヲ裏切ルヤウナ結果ヲ見ルノデハナイカト云フコトヲ憂フル者デアリマスルガ、此ノ點ニ關スル政府ノ明確ナル御答辯ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス、更ニ本年度ハ米ノ需給ニ何等ノ心配ガナイトシテモ、明年度以降ノ需給關係ニ付テ考ヘテ見マスル時ハ、加速度的ナ消費ノ増加ト、臺灣米ノ移出管理ニ伴ツテ豫想セラレマスル所謂蓬萊米ノ減產トニ依ツテ、或ハ供給ノ圓滑ヲ缺クニ至ルノデハナイカト云フコトヲ懸念サルノデアリマス、政府ノ今後ニ於ケル所ノ内地外地ヲ通ズル五六百萬石程度ノ増產計畫ハ、單ニ今後ニ於テ豫想セラレマスル米ノ不足數量ヲ補ツテ行ク程度ノ間ニ合セノ對策デアリマシテ、何等食糧問題解決ノ根本ニ觸レタモノデハナイノデアリマス、而モ内地

ニ於ケル米作ハ極端ナル所ノ集約的耕作法ニ依ル關係デ以テ、技術的ニモ豫想通りノ増産ヲ求ムルコトハ、實際上甚ダ困難ナ註文デアラウト思ヒマス、又事變ノ影響ニ因リマシテ生産條件ガ非常ニ低下シテ居リマス場合デアリマスカラ、米ノ増産ニハ必然的ニ生産費ヲ高カラシムル結果トモナリマス、加フルニ一朝天候等ノ關係ニ依リマシテ、不作ノアリマスコトヲ豫想スル時ニ於キマシテハ、直チニ國內供給確保ノ方針ニ大ナル顛倒ヲ來スニ至ルト云フコトハ、是亦極メテ明白ノコトデゴザイマス、是ニ於テ米ノ増産計畫ヲ立テル爲ニハ、唯從來ノ如ク内地、朝鮮、臺灣ニ依存スルノミデハ、決シテ満足スルコトハ出來ナイノデアリマス、竿頭更ニ一步ヲ進メル意味ニ於キマシテ、政府ハ此ノ際滿洲米ノ増産計畫ヲ樹立スルコトニ御留意ニナツテ居ラナイカト云フコトニ付キマシテ御尋ヲ致シタイノデアリマス、滿洲ノ米作ハ現在年産約四百万石内外ト言ハレテ居リマスガ、米ノ耕作ニハ認可制ヲ採ツテ居リマシテ、又法令ニ依リマシテ其ノ販賣ヲ滿洲糧穀會社ニ獨占セシメマシテ、專賣制度ニ準ズル形態ヲ採ツテ居リマス、是ハ滿洲ニ於ケル米作ヲ自由ニ放任シマスル時ハ、内外ノ農家、殊ニ朝鮮人ノ移住農家ガ激增シマシテ、米作ガ異常ナル發達ヲ遂ゲマス結果ハ、他ノ耕作物トノ均衡ヲ破ルコトニモナリマシテ、或ハ會テ外地米ガ日本内地ニ流入シテ、内地米價ヲ攪亂シタ苦イ經驗カラ、米ノ増産ヲ抑制シ

テ居ルモノト思フノデアリマスガ、斯ウシタ心配ノ起ル程滿洲ノ米作ハ極メテ有望ナルモノガアルノデゴザイマス、即チ耕地價格ガ低廉デアルバカリデハナク、無限ニ近い耕作可能面積ヲ持ツテ居ルノデアリマシテ、而モ生産費ガ非常ニ安イノデアリマスカラ、滿洲ニ米作ヲ獎勵スルナラバ、良質米ヲ低廉ナ生産費デ以テ多量ニ増産ノ出來ルコトハ極メテ明白デアリマス、其ノ滿洲ノ増産ヲ制限シテ、生産費ノ高イ、増産ノ困難ナル内地、朝鮮、臺灣ノミニ執著スルト云フコトハ、所謂日滿一體ノ叫バレル今日、甚ダ妥當ヲ缺クモノデハナイカト思フノデアリマス、或ハ滿洲ノ米ガ内地食糧充足ノ調節機ヲ爲スコトニナツタ場合ニ於キマシテハ、内地、朝鮮、臺灣ノ米作ガ豐作デアツタ場合ニハ、供給過剩ノ問題ガ起ルト云フコトモ豫想セラルノデアリマシ、ソレガ爲ニハ滿洲米ノ供給先ヲ失ツテ窮地ニ陥ルト云フコトモ、一應ハ考ラレルコトデアリマスケレドモ、サウシタ場合アリトシマシテモ、滿洲米ハ或ハ中支、南支ノ方面ニ輸出ノ途ガアルノデゴザイマシテ、若シモソレガ不可能デアルト致シマシテモ、米穀自治管理法ノ發動ニ依リマシテ、此ノ過剩米ヲ各地ニ於テ統制貯藏スレバ、問題ハ容易ニ解決スルモノデアルト考ヘラルノデアリマス、内地ノ農家ノ立場カラ見マシテハ、割安ナ滿洲米ガ輸入サレマシテ、嘗テ低廉ナル朝鮮米、臺灣米ニ惱マサレタ時ノ苦痛ヲ再ビスルト云フ心配ガ起ル

カモ知レマセスケレドモ、併シソレモ滿洲ガ臺灣ノヤウニ、移出管理制ヲ設定スルトカ、或ハ又政府ガ滿洲米ヲ輸入專賣のヲ取扱ノ下ニ、本案ノ所謂米穀會社ニ販賣ヲ命ズルナラバ、問題ハ自然ニ解消スルコトニナルト思フノデアリマス、即チ政府ハ我國食糧問題解決ノ爲ニ、滿洲米ノ増産計畫ヲ立テマシテ、將來ニ於ケル米穀ノ需給關係ヲ調節スルノ御意思ナキヤ否ヤト云フコトニ付キマシテ御伺致シテ置キマス

次ニ私ハ政府ノ米價公定ニ際シテ執リマシク極メテ偏頗ナル措置ニ對シテ、櫻内農相ノ御所見ヲ御伺シタイト思フノデアリマス、最近米價ハ清算正米共ニ著シク強調ヲ呈シテ居リマシテ、銘柄ニ依リマシテハ、既ニ最高價格ヲ突破スルモノサヘ簇出シタノデアリマスガ、農林當局ニ於キマシテハ、昭和十四年度ノ公定價格ヲ決定スルニ際シマシテ、最低價格ハ生産費ノ昂騰ヲ參酌シテ、大幅ノ引上ヲ斷行シタノデアリマスガ、最高價格ノ決定ニ當リマシテハ、價格決定ノ基準デアアル物價參酌値ハ一割乃至ソレ以上ニ上昇ヲ豫想サレテ居ツタノデアリマス、其ノ結果當然最高米價モ引上ゲラレネバナラナイノデアリマスガ、銃後國民生活ノ安定ヲ期スル上カラ、又戰時物價抑制政策ノ見地カラ致シマシテ、現行最高價格ハ前年度同様ノ据置トナツテ居ルノデアリマス、加フルニ毎年十一月カラ翌年一月マデノ新米出廻最盛期ニ於キマシテハ、補充買上ヲ行ツテ居ツタノデアリマスガ、是ハ益、

米價ノ昂騰ヲ刺戟スルモノトシテ、之ヲ差控ヘルコトニナツタノデアリマス、私ハ現在ノ米價ガ決シテ安イモノトハ考ヘテ居リマセヌシ、又最高價格ノ引上ヲ斷行スベシト言フ者デアリマセヌ、勿論戰時經濟運営ノ圓滑ヲ期スル爲ニハ、一般物價ト共ニ米價ノ異常ナル昂騰ヲ抑制シナケレバナラナイト云フコトハ、是ハ當然ノコトデアリマス、併シ一般物價ノ昂騰ヲ抑制スル一ツノ方法トシマシテ、一ツノ手段トシテ、最モ經濟力ノ弱イ農村民ノ收入ヲ犧牲ニスルガ如キ政策ヲ執ルト云フコトニ對シマシテハ、私ハ甚ダ其ノ當ヲ得ナイ措置デアルト信ズル者デアリマス(ヒヤ／＼)即チ農村民ノ犧牲ニ依ツテ、農村民ニ犧牲ヲ強要スルコトニ依ツテ、一般物價ノ昂騰ヲ抑制セントスル如キコトハ、政府ノ今後ニ於ケル米ノ増産計畫ニ對シテモ、尠カラザル障礙ヲ與ヘルモノデハナイカト考ヘル者デアリマス、彼ノ農村カラ供出セラレル木炭デアルトカ、或ハ鶏卵、松脂ナドノ農産物ニ、公定相場ノ設定サレマシタ時ニ、生産地カラ消費地ヘノ出荷ガ非常ニ滯滞シタ事實ヨリ見マシテモ、米ノ増産政策遂行ノ上ニ甚ダ遺憾ノコトデアルト言ハナケレバナリマセヌ、今假ニ政府ノ措置ガ妥當ナリト致シマシテモ、然ラバ現在農村民ニ對シテ供給セラレル所ノ生活必需品、肥料、其ノ他ノ生産資材ガ、米價ト比例シテ適當ノ價格ニ依ツテ供給セラレテ居ルカト云フニ、是ハヤハリ一般物價ノ昂騰ト並行シテ異常ナル高値ヲ以テ農

村民ノ手ニ入ツテ居ルノデアリマス、即チ賣ル物ハ比較的高イノニ反シテ、買入レルモノハ比較的高イト云フコトニナレバ、政府ノ物價政策ハ甚ダ偏頗デアリマシテ、弱者イデメト云フコトニナルノデハナイカト思ハレルノデアリマス、此ノ現在ノ公定米價ハ有馬前農相ニ依ツテ決定サレタモノデハアリマス、櫻内農相モ有馬前農相ト同様ノ御意見ヲ持ツテ居ラレマス、カドウカ、此ノ際明確ニ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス

次ニ御尋致シタイコトハ、本案ノ日本米穀會社ノ運用ニ關スル問題ニ付デアリマス、此ノ法案ハ米ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲シ得ルト云フ、極メテ廣汎ニ互ル權限ヲ政府ニ委任スルモノデアリマシテ、最重要ナル命令ノ内容ガ判然トシマセヌ爲ニ、之ニ對シテ批判檢討ヲ加ヘルコトノ出來マセヌコト、甚ダ遺憾トスル者デアリマス、斯ル重要ナル命令内容ハ委任命令トシナイデ、本法ノ中ニ明確ニ規定シテ置クコトガ、本法ノ適用ヲ受クル米穀ノ取扱業者ヲシテ不安ナカラシメル爲ニモ、極メテ必要ノコトデアルト思フノデアリマス、又斯ル廣汎ナル命令ヲ政府ニ委任シテ置クコトハ、往々ニシテ官僚ノ獨善の專斷ヲ助長スルコトニモナルノデアリマシテ、本法ガ今議會ヲ通ジテノ重要法案デアルト云フ觀點カラ見マシテモ、痛切ニ此ノ感ヲ深クスルノデアリマス、此ノ命令ニ依ツテ統制ヲ受クル所ノ販賣組合、商業組合、或ハ卸賣商

ト小賣商、又ハ市場取引員ト仲買人トノ間ニ、配給上ノ問題ニ關シマシテ紛争ノ起ル場合ノアルコトヲ豫想セラレルノデアリマシテ、米ニ關スルコトハ、單ニ配給上セシメノ問題ガ生ズルバカリデハナクシテ、生産者ト消費者トノ間ニモ、其ノ要求スル所ニ大ナル矛盾ガアルノデアリマス、先ヅ先決問題ト致シマシテ米ノ生産、配給、消費各部面ニ互ツテ其ノ對立ヲ避ケシムル一貫シタ方針ノ確立ト云フコトガ、根本ノ要件ニナルト思フノデアリマス、今度ノ米穀會社モ此ノ根本趣旨ノ下ニ立タナケレバ、其ノ使命ヲ全ウスルコトハ出來ナイト思フノデアリマス、會社ガ此ノ體制ノ下ニ本來ノ機能ヲ發揮致シマスル爲ニハ、生産者、消費者、或ハ配給業者ノ代表ニ依ル所ノ三位一體ノ組織ヲ整備致シマシテ、米穀配給ノ參謀本部トシナケレバナリマセヌ、斯クシテ公定價格ノ範圍内デ時價相場ヲ參酌シテ買入價格ヲ決定スルト共ニ、他面ニ於キマシテハ賣却價格ヲモ公定シテ、各地方ノ市場ニ指令ヲ發スルト云フヤウナ方法ヲ執ルト云フコトガ必要デアラウト思フノデアリマス、又中間取扱業者ニ對シテハ、運賃或ハ金利、倉敷及ビ取扱手数料等ノ配給費ヲ公定致シマシテ、之ヲ支給スルト云フ方法ノ下ニ業務ノ安定ヲ圖ツテ、米穀配給ニ專念セシムルコトガ、先ヅ妥當ノ途デアルト考ヘルノデアリマス、本會社運用ノ適正ヲ期スル意味ニ於キマシテ、政府ハ如何ナル對策ヲ用意ヲ持ツテ居ラルルノデアリマス

カ、御尋致シタイト思フノデアリマス、本案ノ規定ニ依リマスルト、日本米穀株式會社ハ米ヲ主トシテ、麥、大豆其ノ他ノ雜穀又ハ肥料等ニ互ツテ、市場賣買取引ヲ爲スコトニナツテ居ルノデアリマス、此ノ會社ハ普通ノ營利會社ト違ヒマシテ、勿論恩惠賣買ナドヲ爲スベキモノデハナイノデアリマス、公定價格ノ範圍ニ於テ賣買ヲスルモノデアリマスカラ、會社ノ營業成績ノ如何ニ依リマシテハ、最低價格ト最高價格トノ中間ニ於キマシテ、比較的安ク買入レタ米ヲ比較的高ク賣渡スコトモ出來ル仕組ニナツテ居ルノデアリマス、ソレガ爲ニ生産者ト消費者トノ間ノ賣買ニ不當ノ値開キヲ生ズル結果トモナリマシテ、配給統制ノ圓滑ヲ期シテ適當ナル米價ヲ維持スルコトヲ以テ使命トスル此ノ會社ガ、動モスレバ特殊ノ營利會社ノ形態ヲ備ヘルニ至ルト云フコトモ豫想セラレルノデアリマス、ハ賣買手数料ヲ主トシタル會社經營ノ建前カラ考ヘマシテモ、亦民間出資ノ株式ニ對シテ配當ノ割合ヲ規定シテ居リマス關係カラ見マシテモ、營利ヲ主トシタル「ブローカー」會社ニ變質スル可能性ガ十分窺ハレルノデアリマス、隨ヒマシテ生産者カラ消費者ニ至ルマデノ賣買ノ値開キガ相當大キイモノニナルノデハナイカ、生産者ニ執リマシテモ、消費者ニ取リマシテモ、甚ダ好マシカラザル價格ノ決定ヲ見ルト云フコトニナル危險ガアルノデゴザイマス、會社ガ米ノ受渡ヲ爲スニ當リマシテ、配給上必

要ナル所ノ中間經費ハ、出來得ル限り低率デナケレバナラナイト云フコトハ申上ゲルマデモアリマセヌ、而シテ此ノ手数料ガ米ノ價格ヲ構成スル所ノ重要ナル要素デアリマス同時ニ、會社ニ取リマシテハ最モ主要ナル所ノ收入デアリマス關係カラ、手数料ノ利率ノ高低ト云フコトハ、直チニ會社經營ニ重大ナル影響ヲ齎スモノデアリマス、會社ノ經營ニ安定性ガナケレバ、ソコニ必ズ不合理ナル米ノ價格ガ現ハレテ來ルノデアリマス、此ノ矛盾ヲ解決スル方法トシテ、政府ハ如何ナル對策ヲ持ツテ居ラルルノデアリマスカ、政府ハ此ノ會社ニ安定性ヲ與ヘル意味ニ於キマシテ、一定期間ヲ限ツテ民間出資ノ株式ニ對シテハ配當保證ノ制度ヲ設ケテ、米穀會社ガ一種ノ「ブローカー」會社ニ陥ル弊ヲ防止スル方法ヲ執ルノ御意思ナキヤ否ヤト云フコトニ付キマシテ、併セテ御伺ヲ致シテ置キタイト思フノデアリマス

次ニ御伺致シタイコトハ、米穀取引所廢止ニ伴フ善後措置ノ問題デアリマス、米穀取引所ノ廢止セラルル結果トシテ、新ニ設置セラレマスル所ノ日本米穀會社ガ取引所ノ財産ヲ買收スルコトニナツテ居ルノデアリマス、其ノ買收價格ハ建設價格ト時價ト更ニ利用價值トヲ睨ミ合セテ決定スルコトニナツテ居ルヤウデアリマス、此ノ利用價值ヲ參酌スルト云フコトハ一體ドウ云フコトデアルカ、先刻眞鍋君モ此ノ點ニ觸レラレタヤウデアリマシタガ、此ノ法律ハ

最初ノ案デハ、取引所及ビ取引員ニ對シテハ廢業手當ヲ支給スルコトニナツテ居ツタノデアリマス、然ルニ之ヲ撤回シテ、其ノ代案トシテ取引所ノ財産ノ買収、取引員ニ對シテハ新設會社ノ株式ヲ優先的ニ割當テ、或ハ轉業資金ヲ融通スル、從業員ハ會社ノ開設スベキ所ノ市場ニ收容スルコトニナルト云フヤウニ變更サレテ居ルノデアリマスガ、此ノ外ニ取引所ノ利用價值ヲ斟酌スルト云フコトハ、考ヘヤウニ依リマシテハ、ヤハリ廢業手當ヲ支給スルト云フコトト同様ノ意味ニ解サレルノデアリマス、政府ハ最初日本米穀株式會社法ノ立案ニ際シテ、廢止サルベキ取引所ニ對シテ多額ノ廢業手當ヲ支給スルコトニナツテ居ツタノデアリマスガ、之ニ對シテハ猛烈ナル反對ノアツタコトヲ考ヘラレマシテ、此ノ非難ヲ「カバ」スル意味デ、廢業手當ニ代ルベキ利用價值ト云フ言葉ヲ用ユルニ至ツタノデハナイカト云フ疑ヲ持タルノデアリマスガ、若シ廢業手當ヲ利用價值ト云フコトト内容のニ同様ナル意味ニ理解サレルモノデアルトシマスルナラバ、是ハ甚シイ欺瞞的行爲デアリ、又甚ダ當ヲ得ナイ措置デアルト言ハナケレバナリマセス、殊ニ商工省ハ米穀取引所廢止ニ對シテ、當然廢業手當ヲ支給スベシトノ建前ヲ執ツテ居ルノデアリマスルカラ、此ノ點ニ付キマシテハ商工大臣カラモ明確ナル御答辯ヲ煩シタイト思フ次第デアリマス

尙ホ會社ノ開設致シマスル所ノ市場ヲ通

ジテ賣買サレル米以外ニ、市場ノ區域外ニ於テモ賣買取引サレル米ガ相當多イト思フノデアリマスガ、此ノ問題ニ付キマシテハ、只今櫻内農林大臣カラ御答辯ガアツタヤウデアリマスルケレドモ、私ハ此ノ市場區域外ニ於ケル所ノ取引米ニ對シテハ、此ノ法律ノ適用ヲ受ケナイ結果ニ於キマシテハ、ヤハリ從來ノ產地仲買商人ハ思惑賣買ヲ主トシタル所ノ取引ヲ爲ス場合ノアルコトヲ考ヘナケレバナラナイと思ヒマス、是ガ米ノ適正ナル價格ヲ案ス原因ヲ作ル場合ノ多イコトモ考ヘナケレバナラナイと思フノデアリマシテ、單ニ市場内ニ於ケル取扱ノミデハ萬全ヲ期シ得ナイコトハ勿論デアリマス、生産地ニ於テ却テ市場米ニ比較シテ高イ價格ヲ以テ取引セラレマスル場合ノ多イコトモ豫想セラレルノデアリマスガ、生産米ガ市場外ニ向ツテ流出セラレル結果ヲ見ルニ至ルト云フコトハ、是ハ當然ノ理窟デアルト思ハナケレバナラナイノデアリマス、之ニ對シテハ本法第三條ニ於キマシテ業務許可ノ取消、制限、停止ト云フヤウナ、禁止事項ガ規定サレテ居リマスルケレドモ、此ノ市場外ノ賣買ヲ未然ニ防止シテ、市場ノ取引ヲ一元的ニ統制セシメントスル規定ノ缺ケテ居リマスルコトハ、確ニ本案ノ重大ナル缺陷デアルト言ハナケレバナラナイと思ヒマス、即チ市場外ノ取引ニ依ツテ米價ガ變動スルニ至ルト云フ、此ノ實際上ノ問題ニ對シテ、政府ハ果シテ如何ナル御考ヲ持ツテ居ルノデアリマスルカ、御伺フ致シ

タイト思フノデアリマス、以上八點ニ付キマシテ政府ノ明確ナル御答辯ヲ御願致シマシテ私ノ質問ヲ終リマス（拍手）

（國務大臣櫻内幸雄君登壇）

○國務大臣（櫻内幸雄君） 小山田君ノ質疑ノ第一點ハ、國家管理トシテ米穀ヲ取扱ツテハドコ迄ト云フヤウナ御意見ノヤウデアラウツタと思ヒマス、即チ專賣制度、若クハ絕對性ヲ有スル國策會社等ニ於テ國家管理ヲ致スト云フ事柄ハ、理想トシテハ決シテ私共ハ反對致ス者デハアリマセス、併シナガラ實際ニ於テ行ヒマス上ニハ中々困難ガアルノデアリマシテ、例ヘバ米ヲ買上ゲル場合ニ於テ、農村個々カラドウ云フヤウナ買上ノ仕方ヲ致スカ、又販賣ノ方ニ於キマシテモ、其ノ價格決定ニ付キマシテモ、種々ナル問題ガアルノデアリマシテ、目下之ニ對シマシテハ十分ナル注意ヲ拂ツテ研究調査ヲ致シテ居リマスルケレドモ、只今ノ所專賣制度ヲ實施スルト云フヤウナ考ヲ持ツテ居リマセス、御趣旨ノアル所ダケハ十分ニ拜承致シタイと思ヒマス

ソレカラ次ニ需給關係、此ノ問題ハ米穀政策ノ根幹ニ觸レル問題デアリマスガ、我ガ日本ニ於キマシテ將來ノ米穀ノ需給關係ガ如何様ニナリ行クカト云フコトハ、最モ注意ヲ拂ハナケレバナラヌ問題デアリマス、

昭和十四年ニ於ケル所ノ米穀ノ需給ノ數字ハ、大體只今御述ニナツタヤウナ數字デアリマス、隨ヒマシテ本年度ニ於テハ約九百二十二万石ノ明年度ニ繰越ノ米ガ出來ルノ

デアリマシテ、配給其ノ宜シキヲ得レバ決シテ不安ハナイノデアリマス、少シモ本年度ニ於テノ食糧ニ不安ハゴザイマセス、唯明年度以後ニ於ケル所ノ計畫ヲ如何ニシテ立テカト云フ問題ニ付キマシテハ、只今ノ所デハ内地、外地、即チ日本ノ内地及ビ臺灣、朝鮮ヲ一貫致シマシテ、其ノ土地カラ生産スル米ニ依ツテ自給ガ出來ル計畫ヲ立テテ居リマス、御話ノ如ク戰時狀態デアリマスルガ故ニ、需要ハ可ナリ殖エテ行クノデアリマスガ、此ノ消費ノ増加ヲ勿論見積ツテ居リマス、又其ノ以外ニ多少ノ餘裕ヲ見マシテ消費高ヲ定メテ、之ニ對應スルヤウナ生産高ヲ得タイ、斯様ニ思ツテ努力致シテ居ルノデアリマス、御話ノ如ク勞力ガ不足シタ、肥料モ十分手ニ入ラヌ、斯ウ云フ點ニ付キマシテ、之ヲ補フベキ方策ヲ講ジヨウトシテ今日努力致シテ居ルノデアリマシテ、現在ニ於キマシテハ、此ノ前議會ニ於テ申上ゲマシタ通り、内地ニ於テ三百万石ノ増産計畫ヲ立テテ居リマシタガ、更ニ内地ニ於テ百万石、其ノ他ニ於テ百万石程ノ増産ヲ今計畫ヲシテ準備シテ居ルヤウナ譯デアリマシテ、國內ニ於テ食糧品ノ不足等ノナイヤウニ萬全ヲ期シタイと思ツテ居リマス

將來ニ互ツテ滿洲國ノ米穀ノ產額ヲ殖ヤシテ、日滿一體トシタル所ノ需給關係ヲ立テル必要ハナイカト云フ御話デアリマスガ、御尤千萬デアリマス、勿論將來ニ於ケル所ノ滿洲國ノ米ノ増産ニ付テモ深ク研究ヲ致

シテ居リマス、但シ御承知ノ通り昭和八年
デアリマシタカ、非常ナ豐作ガアリマシテ、
其ノ爲ニ農家ニ於テ非常ナ苦シミガアツタ
ト云フ歴史モアリマスノデ、此ノ點ニ付キ
マシテハ、深く有ユル方面カラ研究ヲ致シ
マシテ需給ノ關係ヲ立テタイト思ヒマス、
現在ニ於テハ出征將士其ノ他ノ關係上カラ、
勞力ニ於テ缺乏ヲ致シテ居リマスルケレド
モ、是等ノ將士諸君ガ歸ツテ來タ曉ノコト
モ考ヘナケレバナリマセス、又臺灣、朝鮮
ニ於ケル所ノ自然増加、内地ニ於ケル所ノ
自然増加等ニ付テモ考ヘナケレバナリマセ
ス、隨ヒマシテ今日ノ窮乏シタル場合ト將
來ノ場合トヲ能ク見合ツテ、滿洲ノ増産計
畫ヲモ見合シテ、一體トシタル計畫ノ下ニ
於テ其ノ需給ノ方策ヲ確立シテ行キタイ、
斯様ニ考ヘマシテ計畫ヲ立テテ居ルヤウナ
譯デアリマス

其ノ次ニ米穀ノ公定相場ニ付テ、最低最
高ガ昨年ノ十二月ニ決メラレテ居ルガ、此
ノ決メ方ハドウモ適當デナイヤウニ思フガ
ドウデアアルカ、ソレニ對シテ前當局者ハ低
物價ヲ以テ之ニ對シテ、最高價格ヲ上ゲヌ
デモ宜シイト云フ風ナ意見ヲ言ツタガ、現
在ノ當局モ亦左様ニ考ヘルカト云フ風ナ御
意見デアツタト思フノデアリマスガ、勿論
物價ノ昂騰ト云フコトヲ抑制シテ、而シテ
其ノ生産費ヲ低下スルト云フコトニ付キマ
シテハ、固ヨリ同一意見デアリマシテ、最
善ノ努力ヲ盡シタイト思ヒマス、唯現在ノ
米價ノ最高最低ノ決メ方ニ付キマシテハ、

色々ノ議論ガアルコトト考ヘマスガ、是ハ
御承知ノ通り率勢米價ヲ基準ト致シマシテ、
最高ノ方ハ上ニ割三割ノ間ニ於テ、農林大
臣ノ決メタ價格ト家計米價トモ見合ツテ最
高ヲ定メテ居ルノデアリマシテ、最低ノ方
面ニ於キマシテハ、申スマデモナク生産業
者ノ費用、ソレカラ率勢米價、又運賃、諸
掛リ等ヲ見合ツテ定メテアルノデアリマシ
テ、現在ノ相場ガ非常ニ不適當デアルト云
フコトニ付キマシテハ、左様ニハ考ヘマセ
スケレドモ、若シ將來ニ於テドウシテモ物
價ノ抑制ガ出來ズ、或ハ周圍ノ狀況ガ大イ
ナル變動ガアリマシタ時ニハ、ソレハ其ノ
時ニ考慮致サナケレバナラヌ問題デアルト
思ヒマス

次ニ會社ノ運営ニ付テ御質疑ガアリマシ
タガ、此ノ廣汎ナル命令條項ニ付テ、相當
ナル此ノ際命令ヲ致スベキ所ノ條項ヲ明ニ
シテ、而シテ當業者ヲシテ安心セシムル必
要ガアルノデハナイカ、斯ウ云フ御意見デ
アリマスガ、要シマスルノニ、此ノ法案ノ
目的ハ配給統制ヲ致シマシテ、而シテ米穀
ノ生産ヲ確保シ、消費者ニ對スル所ノ供給
ヲ確保スル目的ニ立ツテ居ルノデアリマシ
テ、其ノ命令條項ニハ相當ナル條項ヲ決メ
ル積リデアリマスガ、決シテ之ニ依ツテ官
吏獨善ノ妄斷ヲ致スガ如キコトハ絕對ニナ
イノデアリマシテ、其ノ點ハ御安心ヲ願ヒ
タイト思ヒマス

來ヨリハ極メテ低廉ナ手数料ヲ取ルノデア
リマシテ、決シテ之ニ依ツテ現在ノ中間ノ
費用ガ殖ユルト云フヤウナコトハナク、恐
ラク是ハ數字ニ依ツテ委員會ニ於テ御示シ
ガ出來ルカト思ヒマス、消費者ニモ生産者
ニモ其ノ利益ガ均霑致スヤウニ致シタイト
思ヒマス

ソレカラ取引所ノ善後處置ニ付テノ御質
問デアリマシタガ、是ハ先刻申上ゲマス通
リ、本法案ノ施行ノ結果ト致シマシテ、取引
所ガ茲ニ廢業ヲ致スノデアリマスガ故ニ、之
ニ對シテ若シ從來ノ建前カラ申シマスナラ
バ、或ハ之ヲ買收スルトカ、鐵道國有法ノ
例ニ依ルトカ、適當ナル方法ガアルト思ヒ
マス、併シナガラ今日ノ狀態ニ於キマシテ、
是等ノ人々ニ對シマシテハ適當ナル、即チ
善後措置ト致シマシテハ、先刻御話ノ通り
今回出來マスル所ノ會社ノ株券ノ優先權ヲ
與ヘルトカ、或ハ所有物件ヲ買フトカ、或ハ
失業者ヲ救済スル適當ナル方法ヲ講ジテ、
之ニ依ツテ善後措置ヲ致シタイト思フノデ
デアリマス

ソレカラ地域外ニ對スル所ノ取引ノ問題
ニ對シテ御話ガゴザイマシタガ、是モ先刻
申上ゲマシタ通り主流ガ市場ニ集ルノデア
リマシテ、其ノ結果トシマシテ地域外ニ於
テ勿論相當ノ取引ハアリマセウケレドモ、
ソレガ此ノ市場價格ヲ左右スルト云フモノ
デハナイノデアリマシテ、市場ニ順應シテ
是ハ取引ガ行ハレルモノト、斯様ニ考ヘテ
居ルノデアリマス、大體サウ云フコトダツ

タト思ヒマスノデ、之ヲ以テ御答辯ト致シ
マス

○議長(小山松壽君) 村上國吉君

〔村上國吉君登壇〕

○村上國吉君 此ハ此ノ法案ニ對シマシテ
ハ、大體ニ於テ賛成セントスル意思ヲ持ツ
テ居ル者デアリマスガ、ソレダケニ又之ニ
關聯シタル重要ナリト信ズル二三ノ事項ニ
付テ、農林大臣ニ御尋ラ致シタイト考ヘル
ノデアリマス

此ノ法案ノ目的トスル所ハ、一方ニ於テ
ハ米ノ生産ヲ確保スルト同時ニ、適當ナル
配給機構ニ依ツテ適正ナル市場價格ヲ保持
シタイノデアルト、大臣ハ説明サレテ居リ
マス、ソコデ適正ナル市場價格ト云フモノ
ハ何ニ依ツテ是ガ決マルカト言ヘバ、本案
ノ第七條ニ述ベテアリマスガ如クニ、米穀
統制法第二條ニ定ムル所ノ最高、最低價格
ニ準據シテ、其ノ範圍内ニ於テ其ノ市場價
格ハ定メシムルノデアアル、斯ウ云フ考ヘ方
ニナツテ居ルノデアリマス、ソコデ其ノ最
高最低價格ノ定メ方ト云フコトガ、極メテ
重大ナ問題ニナツテ來ルノデアリマス、ソ
コデ私ハ大臣ニ對シテ米穀統制法施行令ヲ
改正スルノ要アリト思フガ、大臣ノ御考ハ
如何ト云フノガ第一ノ問題ニナツテ來ルノ
デアリマス、米穀統制法施行令ニ統制法ノ
第二條ニ定メテアル最低價格、最高價格ヲ
斯ウ云フ方法ニ依ツテ決メルノデアルト云
フコトガ規定サレテ居リマス、此ノ事ハ既
ニ當局ニ於テハ十分御承知ノコトデハアリ

マスケレドモ、質疑ノ趣旨ヲ進メル必要上
若干之ニ説明ヲ加ヘテ見タイト思ヒマス、
即チ最低價格ナルモノハ其ノ年ノ米ノ生産
費ニ運賃諸掛リヲ加ヘタルモノヲ一方ニ立
テル、又他ノ一方ニ於テハ米價指數ト物價
指數トノ關係ニ依ツテ農林大臣ノ定ムル價
格、之ヲ一方ニ立テテ、其ノ二ツノモノヲ
混ミ合シテ、其ノ範圍内ニ於テ最低價格ハ
決メルノダト云フ農林大臣ノ定ムル價格ナ
ルモノハ、即チ物價指數、物價指數ト米
價指數カラ出テ來タ所ノ價格、此ノ物價參
酌値ノ下値一割ト、下値二割ニ相當スル價
格ノ範圍内ニ於テ、農林大臣ガ適當ナリト
認ムル所ニ決メテ行ク、斯ウ云フヤリ方デ
アリマス、サウシテ又最高價格ハ一方ニ於
テハ其ノ年ニ調査シタル所ノ家計費ニ基
テ算出シタル家計米價、之ヲ一方ニ立テ、
他ノ一方ニ於テハ物價參酌値ノ上値二割ト
三割トノ間ニ於テ、適當ト認ムル所デ農林
大臣ガ之ヲ決メル、此ノ二ツノモノヲ混ミ
合シテ其ノ範圍内ニ於テ、最高價格ヲ決メ
ルト云フノガ現在ノ此ノ施行令ニ於テ決メ
ラレテ居ル事柄ナノデアリマス、然ルニ今
日ノ最低最高價格ノ決メ方ガ、果シテ此ノ制
度ノ通りニ、施行令ニ言ウテ居ルガ如クナ
ツテ居ルカドウカ、此ノ點ニ私ハ非常ニ大
ナル疑問ガアルノデアリマス、昨年ノ十二
月十七日ニ米穀統制委員會ガ開カレテ、昭
和十四年度ノ最高最低ノ價格ナルモノ
ハ、此ノ委員會ニ於テ決定サレテ居リマス、
其ノ時ノ事實ヲ此ノ規定ニ當嵌メテ見タ

時ニ、ドウシタ感ジガ起ルカト云フ私ノ考
ヘ方デアリマス、即チ昨年ノ米ノ生産費ハ
二十八圓六十錢、ソレニ運賃諸掛リ一圓三
十錢ヲ加ヘテ合計二十九圓九十錢トナリマ
ス、物價參酌値ハ三十八圓二十六錢ト相成
ツテ居リマス、此ノ三十八圓二十六錢ノ下
値一割ハ三十四圓四十三錢、又下値二割ハ
三十圓六十一錢、ソコデ農林大臣ノ定ムル
價格タルモノハ此ノ三十圓六十一錢ト三十
四圓四十三錢トノ間ニ於テ、決メラレナケ
レバナラスモノデアアル、サウシテ其ノ決ツ
タモノト一方ノ基準デアアル二十九圓九十錢
トヲ混ミ合シテ、最低價格ハ決メラレナケ
レバナラスモノデアアルガ、昨年決ツタ最低
價格ナルモノハ御承知ノ如クニ二十九圓九
十錢ト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、
最高價格ハ物價參酌値三十八圓二十六錢ノ
上値二割ト言ヘバ四十五圓九十一錢デ、三
割ト言ヘバ四十九圓七十四錢デアリマス、
此ノ二割ト三割トノ範圍内ニ於テ農林大臣
ガ一ツノ基準ヲ決メル、サウシテ家計米價ニ
依ツテソレト對照シテ行クノデアリマスガ、
其ノ家計米價ナルモノハ三十四圓七十五錢
ト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、此
ノ三十四圓七十五錢ト一方ノ上値二割、三
割ノ間ニ於テ決ツタ所ノ値段ト混ミ合シテ、
最高價格ハ決メラレベキ筈デアアルガ、其ノ
最高價格ハ御承知ノ如クニ三十五圓四十錢
ト云フコトデ、前年通りト相成ツテ居ルノ
デアリマス、ココデオ互私達ガ考ナケレバ
ナラスコトハ、斯ノ如キ儼然タル規定ガア

ルニ拘ラズ、最低價格ヲ決スルニ當ツテ、
基準ノ一方デアアル二十九圓九十錢マデ引付
ケテ持ツテ行ツテ、ソレデ兩者ノ間ノ範圍
内ニ於テ決メタ價格デアルト云フコトガ、
正シイヤリ方デアアルト言ヘルカドウカト云
フ問題デアリマス、又最高價格ノ場合ニ於
テ考ヘテ見マスナラバ、成程上値二割ノ四
十五圓九十一錢ト家計米價ノ三十四圓七十
五錢トノ間ニ於テ、三十五圓四十錢ト云フ
モノガ取上ゲラレテ居ルノデアリマスケレ
ドモ、一方ニ於テハ上値ノ三割ト云フモノ
ハ全ク「オミット」サレテシマツテ、何等考慮
ガ拂ハレテ居ラナイト云フ事實ガアル上ニ、
此ノ三十四圓七十五錢ト云フ家計米價ガ、
殊更ニ拵ヘラレタモノダトモ言ヒタイ位ナ
感ジヲ持ツノデアリマス、ト云フノハ此ノ
米穀統制法ガ施行サレテカラ以來、毎年家
計米價ノ決定ニ適用サレテ居ル副食物其ノ
他ノモノハ、其ノ七分ヲ採用サレテ來タニ
拘ラズ、昨年ニ至ツテ儼然トシテ三分五厘
ダケシカソレニ取入レテ居ラナイ、從來ノ
通りノ七分ヲソレニ取入レマシタナラバ、
其ノ家計米價ト云フモノハ三十六圓四十三
錢ト云フ數字ニナツテ來マスノデ、ソレデ
ハ上値二割ノ四十五圓九十一錢ト混ミ合セ
テ行キマス時ニ、其ノ家計米價ダケデ、モウ
既ニ前年ノ最高價格ヲ超スト云フ結果ニナ
ルモノデアリマスカラ、茲ニ殊更ナル工夫
ヲ凝ラシテ、以テ其ノ家計米價ヲ低クシタ
云フ事實ハ、見逃シ譯ニ參ラナイノデアリ
マス、又曩ノ最低價格ニ於テ二十九圓九十

錢ト決メテ居リマスガ、是ガモツト上ヘ上
ツタ所デ、今日ノ米穀事情デアリマスカラ、
最低價格デ政府ガ米ヲ澤山ニ買入レナケレ
バナラスト云フ義務ハ生ジテ來ナイト思ヒ
マス、ソレナラバ上ゲテモ宜イデハナイカ
ト云フ考モ起リマスガ、此ノ最低價格ヲ上
ゲルト、三十五圓四十錢ノ最高價格ニ定メ
ントスル政府ノ意圖カラ見マスルナラバ、
最低最高ノ間ノ幅餘リニ縮小セラレル
モノデアアルカラシテ、ソレデ殊更ニ生産費
ニ運賃諸掛リヲ加ヘタ程度ニ於テ、之ヲ定
ムント致シタ次第デアアルノデアリマス、斯
ウ云フ事實ガ行ハレテ居ル、即チ殊更ナル
工夫ヲ加ヘル、或ハ又解釋ノ上ニ於テ、是
デ法文通りニ相違ガナイノデアリマス云
フコデ付ケタ解釋ヲシテ、サウシテ以テ最
高最低ノ價格ヲ定メントスルコトハ、私ハ
正シイ行キ方デハナイト思フノデアリマス、
茲ニ米穀配給統制法ヲ布イテ、市場ヲ統
一シテ適正ナル價格ガ現レテ來ルヤウニシ
ヨウト云フガ、其ノ適正ナル價格ヲ、米穀
統制法ニ於テ言ウテ居ル所ノ最低最高價格
ノ範圍内ニ於テ爲サシメントスルナラバ、
此ノ最低最高價格ノ定メ方ト云フノハ、極
メテ重大ナル役割ヲ持ツコトニナツテ來ル
ノデアリマス（拍手）此ノ重大ナル役割ヲ持
ツ所ノ最低最高價格ノ定メ方ガ、只今私ガ
申シタ如クデアリト致シマスルナラバ、ド
ウシテモ茲ニ相當ナ考慮ヲ加ヘナケレバナ
ラスコトガ生ジテ來ルト思フノデアリマス
テ、ソレハ畢竟スルニ今日ノ此ノ米穀統制法

ノ施行令ヲ改正シテ、今日ノ實情ニ副フヤ
ウニシテ行クト云フコトガ、最モ大切ナル事
柄デアル、斯様ニ思フノデアリマス、現行ノ
施行令ニ定メテ居リマス所ノ最高最低價格ノ
定メ方ト云フモノハ、昭和八年頃、米ハ餘ル
値ハ下ル、斯ウシタ觀念ニ支配セラレテ居
タ所ノ當時ノ制定ニ依ルモノデアリマス、
米ハ餘ルノダ、値ハ下ルノダ、ソレヲ餘リ
ニ下ゲナイヤウニスルノニハ、ドウシタラ
宜イカト云フ此ノ觀念ニ支配サレテ出來タ
モノガ、今ノ施行令デアリマス、殊ニ昭
和六年カラ七年ニハ、アノ米ノ非常ナ安値
ノ恐慌時代ヲ經テ居リマシテ、其ノ當時ノ
經驗カラ此ノ施行令ト云フモノハ考ヘラレ
タ管デアリマス、サウスルト是ハ今日ノ經
濟事情、今日ノ米穀事情ニハ固ヨリ適合致
シマセヌ、デアリマスカラ私ハ安値ノ時代
ニモ適合ノ出來ル施行令ニスルト同時ニ、
今日ノ如キ事情ノ場合ニモ適用ノ出來ル施
行令ニ改メルノガ、宜イデハナイカト考ヘ
ルノデアリマスガ、農林大臣ノ御考ハ如何
デアリマセウカ、若シ改正ノ必要ガナイト
スルナラバ、今日ノ事情ニモ適合スルヤウ
ニ運用スル方法ガアルノカ、アルナラバ其
ノ運用方法ニ付テノ御考ヲモ、御示シテ願
ヒタイノデアリマス

第二ノ點ハ有馬前農林大臣ノ言明ニ對ス
ル櫻内農林大臣ノ見解如何トデモ申シマス
カ、サウシタ點デアリマス、昨年十二月十
七日ニ開會サレタ米穀統制委員會ニ於テ、
當時ノ農林大臣有馬サンハ、非常ニ重大ナ

ル言明ヲ與ヘテ居リマス、當時ノアノ委員
會ノ狀態ガドウデアツタカト云フコトハ、
當時ノ新聞ニモ報道サレテ居リマシタ如ク
ニ、此ノ種ノ委員會トシテハ珍ラシイ程ノ
緊張シタ場面ヲ呈シタノデアリマス、何故
ニソレダケ緊張シタカト云フト、畢竟スル
ニ最高價格ノ決定ニ當ツテ、政府ガ前年通
リノ三十五圓四十錢ニ定メントスル諮問案
ヲ、提出シタコトニ出發ヲ致シテ居ルノデ
アリマス、即チ諸物價ノ著シク騰貴シテ居
ル今日ニ於テ、米價獨リガ騰貴ヲ許サズト
スル所ノ政策ヲ固守シテ、果シテ長期建設
下ニ於ケル食糧ノ生産ヲ安全ニ確保スルコ
トガ出來ルカドウカト云フコトガ問題デア
ツタノデアリマス、當時政府ノ需給推算ニ
示シテ居ルガ如クニ、昭和十四年米穀年度ノ食
糧ニハ不足スルヤウナ處ガナイト致シマシ
テモ、其ノ需給狀態ハ今日マデトハ異ツテ、
相當ニ窮屈デアアルコトヲ免レナイ、又此ノ
需給推算ニ示サシテ居ル消費量ハ、必ズモ
ツト相當量増加スルモノデアラウト考ヘラ
レル、左様ナル譯デアアルカラ今年ノヤウナ
時ニハ、其ノ生産ガ彌ガ上ニモ増加スル政策
ヲ執ルベキダ、政府ニハ生産増加ノ計畫ヲ
持ツテ居ルト云フコトデアアルガ、更ニ最
高價格ヲモツト引上ゲテ、農家ノ氣分ニ刺
戟ヲ與ヘテ、増産ニ向ツテ精進セシムベキ
デハナイカ、是ガ最高價格引上論ノ根據デ
アツタノデアリマス、其ノ際有馬當時ノ農
林大臣ハ、政府ハ今諸物價ヲ引下ゲル方針
デアアル、出來ルナラバ事變前ノ狀態ニマデ

モ之ヲ引戻シテ行カウトシテ居ル今日ニ於
テ、諸物價ノ高低ノ原動タル米ノ値段ヲ引
上ゲルコトハ、政府トシテハ政策ノ矛盾デ
アル、又政府ノ物價方針ニ相反スル結果ヲ
招來センコトヲ惧レル、又肥料其ノ他生産
資材ノ價格ガ總テノ物價——米ノ騰貴ニ伴
レテ上ツテ來ルナラバ、米ノ最高價格ヲ
引上ゲテモ、結局生産者ニハ利益ヲ齎サナ
イ、殊ニ米ノ最高價格ヲ引上ゲル、事實ニ
於テ米ノ市價ヲ引上ゲルト云フコトニ相成
ルトスルナラバ、自分ハ國務大臣トシテ
閣議ノ席ニ於テ物價ノ引下ヲ主張スルコト
ガ出來ナクナル、又生産ノ確保ニ付テハ別
箇ノ方策ヲ以テ之ニ對應シテ、斷ジテ懸念
ナキヤウニスル考デアアル、斯ウ云フ意味ノ
答辯ヲ繰返シ爲サレテ居ルノデアリマス、
ソコデ民間カラ出テ居リマス所ノ委員多數
ノ意思ヲ代表シテ、一委員カラ次ノ如キ希
望條件ガ提出サレテ居リマス、肥料其ノ他
農用資材ノ絕對ニ不足ナキ供給ト其ノ價格ノ
引下、米ノ品質本位ニ因ハレズシテ多收量品
種ヲ栽培セシムルコト、朝鮮及ビ臺灣ニモ徹底
的ニ増産ヲ圖ルコト、病蟲害防除ノ徹底ヲ期ス
ルコト、其ノ他尙ホ二三アリマスガ、是ハ省
略致シテ置キマス、即チ斯ノ如キ希望條件
ガ提出サレマシテ、ソレニ對シテ有馬前農
林大臣ハ、深く之ヲ諒トシテ其ノ努力ヲ約
束サレマシタ、而シテ物價殊ニ農用資材ノ
價格ノ引下ニシテ、若シソレガ實現セヌガ
如キ場合ニハ、責任ヲ取ルトノ言明ヲ與ヘ
ラレテ居ルノデアリマス、右ハ勿論前農林

大臣有馬氏ノ言明デアリマスルケレドモ、
統制委員會ガ此ノ言明ニ信賴シテ、最高價
格ハ政府諮問ノ通りニ決定シタノデアルト
云フ事實ニ鑑ミマスナラバ、現農林大臣ニ
於カセラレマシテモ、此ノ言明ヲ繼承シテ、
其ノ精神ヲ體シテ實現ニ努力セラルベキ
義務ガアルモノダト私ハ思フ者デアリマス
(拍手) 之ニ對スル農林大臣ノ御見解ヲ
伺ツテ置キタイノデアリマス

第三ニハ米ノ專賣ニ關スル件デアリマス、
世間デハ此ノ法案ノ施行ヲ以テ、米穀專賣
ノ前提デハナイカト云フ說ヲ爲シテ居ル者
ガアリマス、私ニハ政府ニハ決シテサウシ
タ意圖ガアツテ、今日サウシタコトガ考ヘ
ラレタモノダト云フ想像ハ起リマセスケレ
ドモ、其ノ事實ハドウデアアルカト云フコト
ヲ今一應確メテ置キタイノデアアルガ、第二
ニハ此ノ法案ハ他日ノ米穀專賣ヲ意圖スル
モノデハナイト致シマシテモ、此ノ法案ノ
施行ハ確ニ專賣ノ施行ニ色々ノ便宜ヲ與ヘ
ル結果トナルコトダケハ、首肯スルコトガ
出來ルノデアリマス、即チ見様ニ依ツテハ
先刻小山田君カラモ申サレマシタ如クニ、
米穀ノ專賣ニ向ツテ一步ヲ進メタモノデア
ルトモ言ヒ得ルト思フノデアリマス、我國
ノ米ノ配給問題ハ、其ノ需給關係ヲ繞ツテ
絶エズ起ツテ居ル今日ノ問題デアリマス、
將來モ恐ラクサウシタコトガ續クノデアハ
ルマイカト思ハレマス、即チ此ノ配給統
制ノ施行ニ依ツテ、米穀ノ配給問題ガ永
久ニ解決スルモノデアルトハ考ヘラレナイ

ノデアリマス、米ノ專賣問題ハ多年論議サレテ居ル所デアリマスガ、消エントシテ居ルカト思フト燃上ガル、燃上ガツタカト思フト下火ニナルト云フ状態ヲ、今日マデ此ノ專賣問題ハ幾たびモ繰返シテ居ルノデアリマスルガ、併シ其ノ政策ノ總テノ米ノ配給ニ關スル進ミ方ヲ見マス、一步々々專賣ヲ必要トスル状態ニ移行シツツアルノデハナイカト云フガ如キ考モ起ルノデアリマス、是ニ於テ政府ハ此ノ際眞剣ニ專賣問題ニ付テ研究ヲナサレタラドウカ、研究ノ結果ガ專賣ヲ可トスル結論ニ到達シタナラバ之ヲ斷行スルコト、又不可ナリトスル結論ニ到達スルナラバ、必ズソレニ對應シテ米穀ノ配給問題ヲ徹底的ニ解決シテ、生産者、消費者及ビ配給業者ニ將來ノ向フ所ヲ示スコトガ、適當デハナイカト云フコトヲ考ヘサセラルヤウニ、今日ナツテ居ルノデアリマス、此ノ意味ニ於キマシテ、私ハ米ノ專賣ノ眞剣ナル研究ヲ政府ニ進言セントスルモノデアリマスルガ、之ニ對シテ政府ノ所見如何、此ノ御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、私ノ質問ハ是デ終リマス（拍手）

（國務大臣櫻内幸雄君登壇）

○國務大臣（櫻内幸雄君） 村上君ノ御質疑ニ對シテ御答致シマス、第一點ハ米穀統制法施行令ヲ改正スル意思アリヤ否ヤト云フ點デアリマス、御承知ノ通り、現在ノ施行令ニ於キマシテハ、私ハ其ノ施行令其ノモノノ中デ十分運用ガ出來ルデハナイカト考

ヘテ居リマス、唯ダ今御指摘ニナリマシタ物價參酌値、即チ率勢米價ト申シマスカ、此ノ算定ノ基礎ガ、非常ニ米價ノ動搖シテ居ツタ時代ガ含マレテ居ルト云フコトダケハ、確ニ私共認メテ居リマスノデ、其ノ點ニ付テハ考慮ヲ拂ハナケレバナラスト考ヘテ居リマス、又從來農家二千戸ニ就テ調べテ居ツタノヲ、更ニ或ハ三千戸ニスルトカ、或ハ極ク小農者ノ人々ノ生産費ヲ調べルトカ、サウ云フ事柄ニ對シテ、調査ノ方法等ニ付テハ考慮シナケレバナラスト考ヘマス、併シ御話ノ如ク此ノ本年度ノ最高最低ノ値段ヲ取極メマシタ點ニ付キマシテ御議論ノ點ガアリマシタガ、是ハ御意見ニ對シマシテ、全然私ハ同意トハ申シマセスケレドモ、或ル程度多少傾聽致スベキ御議論デアリマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ深く考慮ヲ拂ヒタイト思ツテ居リマス

ソレカラ第二ニ、本年度ノ最高低價格ヲ決メル場合ニ於テ、前農林大臣ガ責任ヲ以テ聲明セラレタ點ガアルガ、之ニ對シテ何ト考ヘルカト云フ風ナ御議論デアリマシタガ、私ハ物價ヲ下ゲテ生産「コスト」ヲ安クスルト云フコトニ對シテ、有ユル努力ヲ致シタイト云フ信念ニ於キマシテハ、前任者ト同一ノ考ヲ持ツテ居リマス、併ナガラ總テノ物價ガ昂騰スル情勢ニアリマスガ故ニ、肥料デアルトカ、或ハ其ノ他農具資材デアルトカ云フモノヲ、豫期ノ如ク下ゲルコトノ出來得ナイコトニ付テハ、深く憂慮致ス者デアリマシテ、更ニ十分ナル注意ヲ

拂ヒタイト思ヒマス

最後ニ米ノ專賣ニ關シテノ御話ガアリマシタガ、米ノ專賣ノ第一歩トシテ本案ヲ提出シタカト云フ御意見ニ對シマシテハ、左様ナ意味ヲ持ツテ居ル譯デアリマセヌケレドモ、或ハ事實ガサウ云フコトニナルカモ知レマセヌ、併シ要點ハ、タビ／＼申上ゲマス通り米穀ノ配給ノ圓滑ト生産ノ確保、消費者ヘノ需要供給ノ確保、此ノ點ニ付テ本案ヲ出シタ譯デアリマシテ、米ノ專賣ニ對スル所ノ問題ニ付キマシテハ、理想トシテハ國家ガ一ツノ會社ヲ設ケテ全部買取ツテ、全部供給スル方法ニスルカ、或ハ國自ラ之ヲヤルカ、斯ウ云フ事柄ハ理想的方法デアラウト考ヘマスケレドモ、技術上ニ於キマシテモ、又財政上ニ於キマシテモ、相當研究ヲ要スルコトデアリマスガ故ニ、十分ニ調査ヲ致シマシテ、其ノ結果若シ之ニ向ツテ進ムコトガ必要ナリト考ヘマスケレバ、適當ノ機會ニ於テ皆サンノ御審議ヲ仰ギタイト考ヘマス（拍手）

○議長（小山松壽君） 吉植庄亮君

（吉植庄亮君登壇）

○吉植庄亮君 私ハ本案ノ上程ニ際シマシテ、國民トシテ又農民トシテ大ニ喜ブ者デゴザイマス、吾々國民ハ今日マデ、吾々ノ主食物デアリマスル米穀ガ朝夕ニ投機ノ具ニ供セラレ、其ノ爲ニ私共ノ家計ヲ常ニ動搖シムナキニ至ラシメラレテ居ツタノデゴザイマス、ソレガ今日初メテ此ノ案ノ上程ニ依ツテ、正シキ道ヲ履ムコトニナル

ノデゴザイマス、私共農民ノ作リマシタ米ハ、所謂蠅頭相場ト言ハレル投機ノ具ニ常ニ供セラレマシテ、此ノ投機ノ蠅頭ニ亂舞ノ儘ニ踊ラサレテ居ツタノデゴザイマス、神聖ナル農民ノ血ト汗トノ結晶デアリマスル米ガ、斯様ナ状態ニ置カレマスルコトハ、全農民ニ取ツテ洵ニ残念至極デアツタノデゴザイマス（拍手）其ノ米ガ今日初メテ正シキ道ニ於テ國民ノ賣買ノ目標ニナラウト致シテ居ルノデゴザイマス、ノミナラズ、農民ハ生産ハ致シテ居リマスルガ、其ノ賣買ニ際シテノ意思表示ガ正式ニハ斟酌セラレナカツタノデゴザイマス、ソレガ今回ノ提案ニ依ツテ市場ニ於ケル意思表示ヲ法文化シヨウト云フコトニナルノデゴザイマス、是ガ私ノ國民トシテ農民トシテ喜ビニ堪ヘナイト申シタ所以デゴザイマシテ、此ノ點カラ厚ク農林省當局ニ御禮ヲ申シ、敬意ヲ表スル者デゴザイマス、併シナガラ斯様申上ゲタカラト云ツテ、然ラバ本案ハ絕對ニ無瑕ノモノデアリ、全然吾々ノ理想ニ近キモノデアルト申シマスルノニ、残念ナガラ左様斷言スルコトハ出來マセヌ、此ノ案ヲ見マスルト、幾多重大ナル缺陷ガ藏セラレテ居リマス、先程農林大臣ハ、本案ノ提案ハ一面米取引機構ノ革新デアリ、又他面ニ於テ米穀業者ト生産者團體トノ共存諸調ヲ爲シテ、米問題ヲ解決スルノデアルト云フ意味ヲ述ベラレテ居リマス、又過般此ノ案ガ愈々提案ト決定シタ時ニモ、天下ニ向ツテ左様公表セラレテ居リマス、

成程一ツノ精神デアリマスル所ノ米取引機
構ノ革新ハ、此ノ案ニ依ツテ完全ニ斷行出
來ルヤウデゴザイマス、併シナガラ今一ツ
ノ精神デアリマスル米穀業者ト生産者團體
トノ間ニ於ケル共存諸調ヲ期スルト云フ點
ハ、遺憾ナガラ本案ヲ以テシテハ其ノ目的
ヲ達スルコトガ出來ナイト確信致シマス、
御承知ノ通りニ米穀業者ハ生産者ノ生産シ
タ物ヲ出來ルダケ高ク他ニ販賣シテ其ノ利
益ヲ取ル、而モ其ノ利益ハ出來ルダケ大ナ
ルコトヲ欲シテ居ルノデゴザイマス、所謂
營利業者群デゴザイマス、之ニ對シテ産業
組合ヲ中心トスル生産團體ハ、自己ノ生産
致シテ居リマスル物ヲ正當ノ價格ニ於テ之
ヲ販賣シ、自己ノ消費セントスル物ヲ正當
ノ價格ニ於テ購買シヨウトスル團體デアリ
マシテ、所謂非營利團體デゴザイマス、此
ノ營利業者群ト非營利業者團體ト一ツノ
米穀會社ト云フ檻ノ中ニ入レテ、共存諸調
ヲ望ムト云フコトハ、是ハ本ニ縁ツテ魚ヲ
求ムルヨリモ尙ホ難シキモノト信ジマス、
斯様ニ本案ハ、缺陷ヲ藏シテ居リマス、此ノ
點ニ付テ私ハ過般一米穀商人ト會談致シマ
シタ時ノコトヲ、皆様ニ御報告シタイト思
ヒマス、其ノ時ニ其ノ米穀商人ハ私ニ向ッ
テ斯様申シマシタ、實ハ私共ハ一石ニ付テ
大體二十五錢ノ租稅ヲ納メテ居リマス、區
稅、町稅、市稅、府稅、直接國稅、大體一
石ニ付テ二十五錢ニ當ツテ居リマス、然ル
ニ産業組合ハ此ノ稅ヲ免除セラレテ居ル、
此ノ稅ヲ免除セラレテ居リマス團體ト、私

共商業團體ガ今日マデ此ノ實社會ニ於テ戰
ヒ來ツタノデアリマスガ、幸ニ千五百万石
ノ市場ニ出廻リマス米穀ノ中、七割ハ吾々
商人ガ獲得致シマシテ、三割ガ産業組合ノ
得ル所デアツタノデアアル、併シナガラ今日
以後ハモウ私共ハ戰ヒ勝ツコトハ出來ナイ
ノデアアル、此ノ二十五錢ノ負擔ヲ見事ニ乘
切ツテ行ツタ一ツノ原因ハ、今日マデ清算
取引ガ許サレテ居リマシタ、此ノ清算取引
ニ私共ハ買付ケタ米ヲ賣繋イデ、所謂保險
繋ギヲシテ來タカラコシ、此ノ二十五錢ノ
負擔ヲ克服シ、尙ホ七割ノ市場ヲ獲得出來
タノデアアル、然ルニ今日以後ハ延取引ハア
リマシテモ、是ハ銘柄取引デアツテ、所謂
保險繋ギヲ爲スコトハ出來ナイ、ココデ吾
吾ガ獲得シタル七割ノ市場ト云フモノハ忽
チ壞滅シ、此ノ二十五錢ガ禍ヲ爲シテ、吾
吾ハ遂ニ壇ノ浦ニ陥ラネバナライノデア
ル、斯様申シテ居リマシタ、是ハ米穀業者
トシテ相當悲觀ノ色ガ濃イ見方デアラウト
ハ思ヒマスガ、其ノ中ニ十分ノ眞理ヲ含ン
デ居ラナイコトハナイト云フコトヲ、吾々
ニモ察セラレルノデゴザイマス、相剋摩
ヲ絕對ニ避ケルト申シマシタ所デ、此ノ事
實ハ如何トモ致スコトガ出來マセヌ、謂ハ
バ獅子ト虎ヲ一ツ檻ノ中ニ放ツ、犬猿ヲ
ラザルモノヲ一ツ檻ノ中ニ放ツ、茲ニ共存
諸調ヲ望ムコトハ出來マセヌ、ココデ私ハ
甚ダ遺憾ニ感ジマスコトハ、農林大臣ガ先
程來米穀國家管理案乃至ハ米穀專賣ト云フ
考ハナイト言ハレタコトデゴザイマス、此

ノ案ガ米穀專賣乃至ハ國家管理案ノ前提デ
アルト云フコトニナリマスルト、茲ニ是ダ
ケノ相剋摩擦モ暫クノ間ト云フノデ、圓滿
ニ何等カノ方法ヲ以テ導クコトガ出來ル筈
デアリマス、併シナガラ是ガ最後案デアリ、
絕對ノ案デアルト云フコトニナリマス、
將來何時此ノ理想案ガ來ルカモ分ラナイト
云フコトニナリマスカラ、此ノ相剋摩擦ハ
洵ニ深甚ナルモノニナルト思ヒマス、又一
面私ハ米穀ト云フモノハドウシテモ統制機
構ニ適シタル商品デアルト云フ考ヲ持ツテ居
リマス、即チ今日ノ戰時色一色ニ塗ラレマシ
タ此ノ統制機構ノ流行ニ先ダチマシテ、十數
年前既ニ米穀法ガ制定セラレ、延イテ米穀統
制法ノ出現トナリ、米穀自治管理案トナリ、
遂ニ今日ノ米穀配給統制案ガ上程セラレタノ
デゴザイマス、是ハ實ニ能ク此ノ米ノ性質
ヲ物語ツテ居ルト私ハ信ジマス、而シテ又
此ノ統制機構ト云フモノハ、理論的ニ見マ
スト、此ノ究極、行キ付クベキ所ノモノハ、
最後ハ國家管理カ專賣デナケレバナライ
モノデアラウト確信致シマス、此ノ理論的
ニ見テ最後ハ米穀國家管理案ナリ、專賣デ
ナケレバナライト云フ統制機構ニ於テ、
此ノ案ガ最後案ナリト言ハレルトハ、案
自ラガ只今申シマシタヤウナ缺陷ヲ有シテ
居リマスル以上、是ハ相當重大ナ問題ニナ
ルノデハナイカ、私ハ此ノ點ニ於テ只今村
上君ノ御問ニ對シテ、農林大臣ガ申述ベラ
レマシタ最後ノ御言葉ヲ、モウ一步前進セ
シメテ戴キタイト思ヒマス(拍手)只今ノ農

林大臣ニ私ガ申上ゲマシタ言葉ニ付テ、御
考ヲ承リタイノデアリマス
第二ニハ私ハ我國ノ戰時米穀政策ニ付テ
洵ニ不安ニ堪ヘナイモノガアルノデゴザイ
マス、此ノ點ニ付テ御伺致シタイノデアリ
マス、是カラ私ハ私ガ調査致シマシタ材料
ガアリマス、之ヲ申述ベマスガ、此ノ材料
ハ洵ニ嚴肅ナル警告ヲ我ガ日本ニ發シツツ
アルモノデゴザイマス、只今カラ申述ベマ
スル材料ニ付テ農林大臣ハ如何御考ニナリ
マスカ、此ノ事ヲ承リタイノデゴザイマス、
私ガ調査致シマシタ結果ハ、悉クト申シテ
モ宜シイ位悲觀材料ノミデゴザイマス、樂
觀材料ハ唯一ツモゴザイマセヌ、私ハ先程
來農林大臣カラ承ツテ居リマスルシ、又屢
新聞紙上デ農林當局ノ御意見ヲ承ツテ居リ
マスガ、私モ政府ノ見ル如キ結果ノ來ルコ
トヲ、國家ノ爲ニ常ニ念願致シテ居ルモノ
デゴザイマス、政府ガ見テ居リマスヤウ
ニ、米穀ノ需給ガ來年ハ多少心配デアアル
ガ、本年ハ絕對大丈夫デアアル、左様ニ見タ
イノデゴザイマス、國家ヲ愛スレバ愛スル
程左様見タイノデゴザイマスガ、併シ私ノ
調査ハ一切私ノ念願ヲ裏切りマシテ、私ニ
本年ノ米穀需給狀態ハ頗ル危イゾト「エス・
オー・エス」ノ信號ヲ發シテ呉レテ居ルノデ
ゴザイマス、私ハ斯様ナ事ヲ農林大臣ニ御
話申上ゲマスコトハ甚ダ恐縮デゴザイマス
ガ、併シ此ノ事ハ私ノ材料一切ヲ物語リマ
スル前提トシテ必要デゴザイマスカラ、暫
ク我慢ヲシテ聽イテ戴キタウデゴザイマス、

農林當局ノ發表致シテノ居ル所ヲ見マスル
ト、米ト云フモノハ人間ノ力デ簡單ニ出來
ルヤウニ見ラレマス、併シナガラ米ハ左様ニ
人間ノ力ヲ以テ「ゴム」ヲ引伸バシタリ縮メ
タリスルヤウニハ出來ナイモノデゴザイマ
ス、全國ノ農事試驗場ニ於テ調査致シマシ
タ所ニ依リマスルト日本ノ土地ノ力ハ洵ニ
偉大ナモノデゴザイマス、十箇年間無肥料
デ、而モ尙ホ良キ土地ニ於キマシテ三俵
半、一石四斗、ソレカラ惡イ處デ三俵、一
石二斗ノ收穫ガ得ラレルト云フノデゴザイ
マス、況シテ本年マデ肥料ヲヤリマシタ
後、來年肥料ヲヤリマセヌデモ三俵半乃至
三俵ハ樂ニ穫レルコトハ、之ヲ以テモ分ル
ノデゴザイマス、之ヲ日本全國ノ水田三百
二十万町ニ掛合セマス、此ノ三俵半乃至
三俵ト云フモノハ、中ヲ取ツテ四千万石ニ
ナルノデゴザイマス、即チ政府ガ發表致シ
テ居リマスル所ニ依レバ、昨年ハ六千五百
万石、昭和九年ハ五千五百万石ト發表致シ
テ居リマス、其ノ内四千万石ハ土地ノ力デゴ
ザイマス、アトガ人間ト自然トノ力デア
ル、是ガ私ノ調べマシタ數字ノ基礎ヲ成シ
マス、ソレデアリマスルカラ、昭和九年ニ
ハ近來デノ未曾有ノ大凶作ガアリマシタ
ガ、此ノ大凶作ノ五千五百万石ト云フモノハ、
當時ノ自然ト人間ガ土地ト協力シテ初メ
テ生産ヲ得タノデゴザイマスルガ、其ノ内
ニ自然ガ人間ニ反逆ヲシタ、ソコデ五千百
万石ヨリ穫レナカッタ、サウスルト土地
ノ力ガ四、自然ト人間ガ一、斯ウ相成ツテ

居リマス、昨年ガ六千五百万石デ、是ハ自
然ト人間ガ固キ握手ヲシテ作ツタ、其ノ自
然ト人間ガ固キ握手ヲシテ作ツタ米ガ六千
五百万石、土地ノ力ガ四千万石トナリマ
ス、米ヲ論ズル時ニ此ノ根本觀念ヲ脇ニ
シテ論ジテハ茲ニ大ナル過誤ガ來リマス、
之ヲ土臺ニ私ハ調査材料ヲ申上ゲマス、凶
作ト云フ年ハドウ云フ風ニ來ルカト云フコ
トヲ、農林省カラ頂戴致シマシタ資料ニ依
ツテ調査致シマス、大正八年以降昨年昭
和十三年マデ五千七百万石ノ收穫マデ凶
作トシテ入レマシテ七回、五千五百万石限
度ヲ凶作トシマシテ、五回日本ニハ凶作ガ
來テ居リマス、即チ四年ニ一度ハ五千五百
万石限度ノ凶作ガ來ルコトニナツテ居リマ
ス、是ハ自然ガ人間ヘ反逆シマシタ場合デ
ゴザイマス、又モウ一ツ斯ウ云フ凶作ノ來
方モゴザイマス、豐作ノ後ハ大體ニ凶作デ
アリマス、大正九年ニ六千三百万石穫レテ
居リマスカラ、其ノ翌年ハ五千五百万石ノ
凶作デゴザイマス、昭和五年ハ六千六百万石
穫ツテ、當時開闢以來ノ大増收ト吾々ガ喜
ンダノデゴザイマシタガ、其ノ翌昭和六年
ハ五千五百万石ト云フ減收デゴザイマス、
又昭和八年ニ其ノ開闢以來ノ大増收ヲ突破
シテ七千万石ノ増收ヲ致シマス、其ノ
翌昭和九年ハ近來二十箇年ニ初メテノ五千
百万石ト云フ大減收ガ來テ居リマス、一
ツハ天候ノ工合モアリマセウガ、大體ニ於
テ大豐作ニ依ツテ地力ヲ消耗致シマスル其
ノ後ニ肥料ヲ潤澤ニ施サナイコトモ、一ツ

ノ原因ヲ成シテ居ルト見テ宜シイデアリマ
セウ、サウシマス、昭和十一年、十二年、
十三年ト云フ年ハ六千七百万石、六千六百
万石、六千五百万石ト三箇年續イタ、斯様
ナ豐作ノ三箇年連續ハ過去二十箇年ニナイ
ノデゴザイマスガ、其ノ三箇年間ノ連續ノ
豐作、其ノ後ニ來ルベキモノハ何カ、凶作
デアルト云フ推定ガ付クノデゴザイマス、
而モ亦三箇年連續ノ豐作ハ十一年、十二年、
十三年ニアリマシタガ、四箇年連續ノ豐作ト
云フ年ハアリマセヌ、サウ致シマス、此
ノ統計ヲ本ト致シテ考ヘマスルト、本年ハ
凶作ナリト斷言ハ出來ナイニシマシテモ、
豐作デハナイト云フコトハ、數字ノ上カラ
私共ハ斷定シテ宜シイデアラウト思ヒマス、
其ノ上ニ又モウ一ツアリマス、米ノ値段ガ
豐凶ニ及ボシマスル度ト申シマスルモノハ、
米ノ値段ガ高上リニナツテ參リマシタ翌年
ハ、大體ニ豐作ノ原因ヲ成シマスガ、米ノ
値段ガ安クナリマシタ年ノ翌年ハ、大體ニ
於テ豐作デナイト云フコトニナツテ居リマ
ス、此ノ點カラ申シマス、先程村上君カ
ラノ御話モアリマシタガ、本年ノ昭和十三
年度產米ノ最高米穀價格ト云フモノハ、相
當無理ヲシテ低價ニ押付ケテ居リマス、又
臺灣ノ米穀移出管理案ニ依リマシテ、臺灣
ノ玄米ガ本年ハ一石ニ付テ二圓安イコトニ
ナリマス、ソレダケ値ガ安ク農民ノ手ニ入
リマス、サウシマス、是ハ決シテ増產ノ
原因トハナラナイデ、非増產ノ原因ト算ヘ
ルコトガ出來マス、是ハ自然ガ人間ヘ

反逆シタト私ガ申ス場合デゴザイマス、
今度ハ逆ニ人間ガ自然ニ反逆致シタ場
合ノ凶作ガゴザイマス、我國ニ於キマシテ
ハ、日清戰爭、日露戰爭當時ノ米ノ產額ハ、
私ガ戴キマシタ農林省ノ資料ニハアリマセ
ヌカラ申上ゲルコトハ出來マセヌガ、併シ
日清戰爭ガ起リマシタ明治二十七年、是ハ
大豐作デゴザイマシタ、其ノ翌年二十八
ガ大凶作、三十七年ガ大豐作デアツテ、三
十八年ガ大凶作、是ハ人間ガ戰線ニ出テ勞
力ノ不足ト、ソレカラ注意力其ノ他ノ不足
ト云フコトガ、人間ガ自然ヘノ反逆ノ場合
デゴザイマス、之ヲ最モ端的ニ物語ツテ居
リマスノガ、世界大戰ニ於キマスル開戰後
三年目ニ於ケル、佛蘭西、獨逸ニ於ケル三
割カラ四割以上ニ及ビマシタ所ノ大凶作、
是ガ能ク物語ツテ居リマス、サウシマスル
ト、本年ハ今度ノ事變ガ起リマシテカラ三
年目デアリマシテ、所謂人間ガ自然ニ反逆
致シテ來ル所ノ凶作ノ年ニ當ツテ居リマス、
此ノ人間ガ自然ヘノ反逆ヲ打倒スルニハ、
ドウシテモ茲ニ豐富ナル肥料ト、勞働力ノ
完全ナル調整ト、又農產資材ノ豐富ナル供
給ト、此ノ一切ノ價格ヲ引下ゲルコト、是
レ以外ニハ途ガナイノデゴザイマス(拍手)
然ルニ此ノ途ガ政府デハ只今講ジテ居ルト
申サレテ居リマスルガ、私共ノ眼カラ見マ
スルト、政府ガ言フヤウニハ民間ニ行渡ツ
テ居ラナイノデゴザイマス、サウシマス
此ノ點ガ頗ル危險ダト私ハ思フ、以上舉ゲ
來リマシタ一切ガ、本年ノ米穀市場ニ對シ

テ惡材料ノ連續デゴザイマス、然ラバ之ニ對シテ豐作或ハ增收ニ導ク所ノ原因ハナイカ、唯一ツアリマス、政府ガ言明致シテ居リマスル増産計畫デアリマス、内地四百萬石、外地百五十萬石、合計五百五十萬石ノ増産計畫ガ是デゴザイマス、又増産ニ對シテ計上セラレマシタ豫算九百萬圓ト云フモノガゴザイマス、是ガ唯一無二ノ增收竝ニ豐作ハ吾々ガ期待ヲ掛ケテ居リマス原因デゴザイマスガ、併シ惜シイコトニ此ノ政府ノ聲明ハ、私共成程ト思ハレルノデゴザイマシテ居リマス、併シ是ハ農林大臣ト致シマシテハ就任匆々ノコトデアラレマスノデ、直チニ是ハ農林大臣ヲ御責メスルコトハ出來マセヌノミナラズ、最近ノ御努力ニ依リマシテ燐礦石三十萬噸、加里鹽燐カ九萬噸カノ輸入ガ出來ルコトニナリマシタ、斯様ナ點ハ洵ニ其ノ御精進ヲ感謝致ス者デゴザイマスガ、併シ全般的ニ見テ此ノ肥料計畫ハ大分遅レテ居リマシテ、今日關東ニ於キマスル吾々ノ處、又東北ニ於キマシテモ、關西ニ於キマシテモ、春ノ肥料ガ手ニ入ラナイデ、農民ガ天ヲ仰イデ嗟嘆シテ居ルノガ、全國ニ彌漫致シテ居ルノデアリマシテ、是ハホンノ一例ニ過ギマセヌ、又先程村上君カラ有馬農林大臣ノ言ハレマシタコトヲ現農林大臣ガ御引繼ニナルカ、其ノ責任ヲ取ラレルカト云フ御尋ガアリマ

シタガ、農産資材ノ値下ノ點デゴザイマス、是モチヨットモ斷行セラレテ居リマセヌ、米ハ開戦前カラ本年一月マデニ一割一分ノ價格騰貴ニ過ギマセヌ、併シナガラ此ノ米ヲ作リマスルニ要スル肥料、是ハ四割四分ノ騰貴トナツテ居リマス、又牛馬鶏ヲ飼ヒマスル飼料ハ二割六分ノ騰貴、農民生活ニ必要デアリマスル所ノ被服、或ハ農具、機具或ハ足袋、斯様ナモノハ洵ニ五割九分ノ大値上ヲ示シテ居ルノデゴザイマス、農民ガ賣ル所ノモノガ戦前ニ比ベテ一割一分高値、而モ昨年ニ比ベテハ一文モ値上ニナツテ居リマセヌ、然ルニ農民ガ米ヲ作ルベキ所ノ、麥ヲ作ルベキ所ノ資材ハ、斯ノ如キ價格騰貴ヲ致シテ居ルノデアリマス、政府ガ百ノ聲明ヲ出シマシテモ、實際ハ斯様ナ狀況ニナツテ居ル、是デ政府ノ聲明スル四百萬石ノ内地ニ於ケル増産計畫ヲ吾々ガ是認出來マスカドウカ、大臣ハ篤ト胸ニ手ヲ當テテ御考ヲ願ヒタイ、一切ノ狀況ガ惡材料ノミノ累積デゴザイマシテ、希望ヲ繋グ原因ハ一ツモゴザイマセヌ、此ノ數字ハ私ガ徒ニ作ツタ數字デハゴザイマセヌ、是ハ農林省カラ出サレマシタ數字ニ付テ一切調上ゲマシタモノデゴザイマス

ソコデ私ハ農林、軍部兩當局ニ御尋ヲ致シタイ、吾々ハ此ノ戰ヲ飽クマデモ勝タネバナリマセヌ、又飽クマデモ此ノ際ニ於テ興亞ノ新體制ヲ建設スル爲ニ闘ヒ勝タネバナリマセヌ、凶作ガ來マセウトモ、如何ナル國難ガ來マセウトモ闘ヒ勝タネバナリマセヌ、併シソレニハソレダケノ準備ガ必要デアリ又用意ガ必要デアリマス、農林大臣ハ此ノ凶作ガ來マシタ時ニ、之ニ對スル對策ヲ御持チデゴザイマスカ、之ヲ承リタイ、附加ヘマスガ、此ノ凶作ハ萬一來ルカモ知レナイト云フヤウナ性質ノモノデアリマセヌ、只今申上ゲマシタヤウニ、四年ニ一度必ズ來ルコトガ明瞭ニナツテ居リマス、本年ガ丁度其ノ年柄デアリマス、又其ノ來ルヤ一切ノ増産計畫ヲ吹飛バシ、一切ノ人間ノ精進努力ト云フモノヲ蹴飛バシテ驕進スル所ノ凶作デゴザイマス、ソレガ今年ハ來ル年ニナツテ居ル、デアリマスルカラ來ルカモ知レナイノデハナイ、此ノ凶作ニ對シテドウ御用意ガアリマスカ、之ヲ承リタイ、又陸軍當局ニ御尋致シマス、戰ヲスル時ニハ必ズ勝ツ見込ノ時ニ於キマシテモ、其ノ最惡ノ場合ヲモ豫想シテ用意スルノガ名將デアルト承ツテ居リマス、只今申上ゲマシタ如ク、來ルベキ凶作懸念ニ對シテ、陸軍當局ハ戰時食糧政策ニ毫モ不安ヲ御感ジニナリマセヌカ、之ヲ御尋致シマス

次ニモウ一ツ承リタイコトガアリマス、私ハ右ノ場合ニ對處スル爲ニ、一ツノ簡單デアリマスガ、此ノ際重大ト私ガ考ヘテ居リマスル案ヲ持ツテ居リマス、此ノ案ニ關シマシテ陸軍、農林、厚生三大臣ニ御尋ヲ致シマス、私ノ案ト申シマスモノハ極メテ簡單デゴザイマス、米穀統制ニ當リマシテ即時ニ國法ヲ以テ混砂精白ヲ禁止シ、七分搗以上ノ米ノ搗精ヲ禁止セヨ、斯ウ云フ案デゴザイマス、斯様申上ゲマスト、アナタ方ノ中ニハ何カ如何ニモオ伽嘶デモスルヤウナ風ニ御取リニナルカモ知レマセヌガ、(ノー)此ノ問題ハ實ニ重大ナ内容ヲ含シデ居リマス(ヒヤ)七分搗搗精一石ニ付キマシテ四升ノ歩増シガ生ジマス、農林省ガ發表シマシタ本年ノ米穀消費高ト云フモノハ九千九百萬石デアリマス、之ニ四升ヲ掛ケマスト三百九十七萬石ノ米ガ餘リマス、是ハ私共ガ謙ニシテ、而モ砂ヲ混ゼテ食ベルコトノ出來ナイ謙トシテ捨テルモノガ、米トシテ三百九十七萬石還ツテ來ルノデアリマス(拍手)又米一石ニ付テ此ノ際ニ糠ガ一斗二升五合取レマス、之ヲ九千九百萬石ニ掛ケ合セマスト千二百四十二萬石ノ混砂搗精ヲ禁ジマシタ曉ハ食糧ト爲シ得ベキ糠ガ取レルノデゴザイマス、兩者合セマシテ千六百四十萬石ト云フ食糧ガ茲ニ日本ニ生レ來ルノデゴザイマス、是ハ今日私共ニ取リマシテ洵ニ、而モ凶作ガ四年目ニ來ル年ニ廻リ合セマシタ時ニ、而モ此ノ戰時體制下ニ於キマシテ重大ナル結果ヲ招來スル案デゴザイマス、而モ此ノ案ト云フモノハ、唯國法一ツデ之ヲ作り出スコトガ出來マス、而モ更ニ私ハ申上ゲマスガ、斯ウ申上ゲマスト七分搗米ヲ食ベルコトガ嫌ヒナ人ニ白米ヲ食ハセバナラヌガドウスルカ、是ニハ奢侈稅デアリマスル白米稅ヲ取レバ宜シイ、又全國百六十萬圓ニ上ツテ居リマスル此ノ混砂精白ニ用ヒマス砂ノ業者ハドウスルカ、是ハ賠償其ノ他ノ

方法ニ依ツテ、僅カ百六十萬圓デアリマスカラ、ドウニカ處分ガ出來ル問題デゴザイマス、農林省トシテハ勿論茲ニ千六百四十萬石ト云フ戰時食糧政策ヲ援助スベキ所ノ食糧ガ出テ來ルノデアリマスカラ、勿論御賛成下サルコトト確信致シマス、又厚生省ハ先般來豫算分科會、或ハ請願委員會、建議委員會ニ於キマシテ、此ノ混砂搗精ト云フコトニ對シテハ、是ハ國民ノ衛生上又榮養學上非常ニ害ノアルモノデアリカラ、遠カラザル將來ニ於テ、國法デ禁止シテモ宜シイ、但シ先程申上ゲタヤウニ百六十萬圓ノ權益ヲ持ツテ居リマス業者ガアルカラ、直チニ此ノ權益ヲ無視シテ之ヲ國法ニスル譯ニハ行カナイト云フ御答辯デアツタノデゴザイマス、サウシマスルト國民保健、體位向上ト云フヤウナ觀點ノミデナク、只今申上ゲマシタヤウナ戰時食糧對策ニ重大問題ヲ含シテ居リマスコトニナリマスレバ、厚生大臣モ思ヒ切ツテ、是ハ國法デ斷行スルト云フ御意思ニナラレラウト私ハ確信致シマス、又諸君御承知ノ通り我國壯丁ノ體位ト云フモノハ、昭和五六年以降非常ニ衰ヘテ參ツテ居リマス、昭和五年前ハ千人ノ中二百五十人ノ不合格者デアリマシタノガ、昭和五六年以降ニハ俄ニ三百五十人ニ増加致シマシタ、更ニ昭和十年ニ至リマシテハ、千人ノ中四百人カラ四百五十人ノ不合格壯丁ヲ出シテ居ルノデアリマス、是ハ全世界ニ對シマシテ持タザル國日本ノ持テル唯一ノ優秀ナル人的資源、此ノ人的資

源ガ年々蝕マレツツアルコトヲ示シマス、此ノ際ニ、此ノ體位向上ヲ圖ルト云フコトハ、洵ニ意味ノ深キコトト存ジマス、而モ其ノ體位向上ヲ圖ルノニハ、白米食ハ人體ニ宜クナイト云フ今日ノ學說ノ前ニ、又混砂精白米ハ人體ノ榮養上、衛生上宜クナイト云フ定ツタ學說ノ前ニ、其ノ兩者ヲ直チニ禁止スルト云フコトハ、此ノ體位向上ヲ圖ルト云フ直接ノ途デアルト私ハ確信スル（拍手）此ノ問題ハ所謂一石二鳥デアリマシテ（ノー）土屋君ハ御反對デゴザイマセウガ、此ノ一石二鳥ノ戰時食糧政策ノ完成ト、茲ニ國民體位ノ向上ヲ圖ルト云フ二ツヲ握リ得ルコトデアリマスカラ、之ニ對シテハ是非トモ只今申上ゲタ二大臣ノ御贊同ヲ願ヒタイノデアリマス

更ニ陸軍當局ニ御伺致シマス、陸軍省ハ既ニ此ノ事ヲ早ク見テ、モウ陸軍ニ於キマシテハ十數年前、海軍ニ於キマシテモ數年前ヨリ、軍隊ノ内部ニ於テハ白米食ヲ禁止シ、混砂精白米ヲ禁止致シテ居リマス、私ハ陸軍或ハ海軍ヲ此處デハ總括シテ軍部ト申上ゲマス、軍部ニ於キマシテハ自己ノ軍隊ニ收メタ兵隊サンハ可愛イニ違ヒナイ、違ヒナイカラ體ニ毒ニナル白米ヲ禁止シ、混砂精白米ヲ禁止シテ居ル、自分ノ兵隊サンガ可愛カツタナラバ、其ノ兵隊サンヲ造リ上ゲル元デアリマス所ノ青少年ガ可愛クナイ筈ハナイ（拍手）又其ノ家族ガ可愛クナイ筈ハナイ、其ノ隣人ガ可愛クナイ筈ハナイ、又郷里ニ歸リマシタ所ノ歸還兵、其ノ家族、其ノ隣人ガ可愛カラザル筈ハナイ、軍部ハコソデ百尺竿頭一步ヲ進メマシテ、營ニ軍隊内ニ於テ白米ヲ禁ジ、混砂精白米ノ禁止ヲ斷行シテ居リマスノミナラズ、全日本ノ國民ガ此ノ白米ヲ食ハナイヤウニ、混砂精白米ヲ食ハナイヤウニ、而シテ食糧獲得ト體位向上ヲ圖リマス上ニ、折角軍部當局ノ御決意ヲ御願致シマス（拍手）

私ハ先程肥料問題ニ付テ申上ゲマシタガ、只今國元カラ參リマシタ手紙ヲ讀ミ上ゲマシテ、暫ク御清聴ヲ煩ハシタイと思ヒマス、要點ヲ申上ゲマス、千葉縣君津郡ノ某村ニ於テハ、舊臘販購聯ニ對シテ桑、麥ノ追肥用トシテ過燐酸石灰、石灰窒素、硫酸、加里等二百三十二噸ノ配給申込ヲシマシタ、所ガ現在手入シマシタモノガ僅カ二割五分、特ニ過燐酸石灰ハ百二十噸ノ所要ニ對シテ供給全クナク、加里鹽亦同様ナル有様デアリマス、斯ウ書イデアリマス、又附ケ加ヘテ、生産確保ハ餘程困難カト憂慮ニ堪ヘマセスト致シデアリマス、又同郡某村ニ於テハ春ノ肥料ハ所要ノ三割程度ヲ入手セルニ過ギマセヌ、是デハ耕種改善基準設定委員會ナルモノヲ設ケマシテモ何ニモナリマセヌ、是デ行キマスト折角地方農民ガ、一生懸命ニ勤勞倍加運動、或ハ勤勞奉仕、共同作業、勞働移動班等ヲ拵ヘテヤツテ居リマシテモ、肥料ノ入ラナイ土地ヲ勇猛心ヲ以テ耕スコトハ、理窟デハ分ツテ居リマシテモ實際ハ出來マセヌ、斯ウ申シテ居リマス、詳シイコトハ委員會デ申上ゲルコトニシテ省キマスガ、唯最後ニ二ツ申上ゲタイコトガアリマス、暫ク御清聴ヲ願ヒマス

商工大臣ガ才居デニナツテ居リマスカラ御尋致シマス、第二條ノ免許制ニ關シテ規定ガゴザイマス、此ノ免許制ニ付キマシテハ、私昨年ノ議會ノ委員會ニ於テ、農林省ノ米穀局長ニ向ツテ、今日東京市内ノ白米業者ノ數ガ餘リニ多過ギル、斯様ナコトデハ徒ニ市民ガ高價ナル米ヲ食ベルコトニナル、而モ市民ガ不當ニ高キ米ヲ食ベルト云フコトハ、延イテ米ノ値ガ一圓デモ上リマスト直ニ、是ハ全農村ニ重大影響ヲ及ボス、故ニ之ヲ免許制ニシテ何トカ善處シテ戴ケナイカト申上ゲタコトガゴザイマシタ、其ノ免許制ガ茲ニ規定サレデアリマスノデ、私トシマシテハ我が意ヲ得タリト申サネバナラナイノデアリマスガ、併シ私共ノ見ル所ヲ以テシマスルト、此ノ免許制ノミヲ以テシテハ、到底東京市内ニ於ケル米價ノ適正ハ期シ得ラレナイト信ジマス、是ハドウシテモ東京ノ米穀商ハ數ガ多過ギマシテ、一軒ノ店デ三俵カソコヲ賣ツテ、ソレデ食ベテ行カレル價格ヲ以テ賣ラネバナリマセヌカラ、ドウシテモ高クナリマス、私ガ調ベマシタ所ニ依リマス、昨年ノ一月深川正米市場ノ中米ノ値段ハ三十三圓十二錢デアリマス（簡單々々）ト呼フ者アリ、所ガ大阪ノ中米ハ是ヨリ一圓九十八錢高カツタ、然ルニ拘ラズ白米ハ大阪ノ方ガ東京ヨリモ安イ、是ハ簡單ニハ出來ナイ問題デアリマス、正米市場ハ大阪ノ方ガ一圓九十八錢東

京ヨリ高イ、サウシテ白米ノ方ハソレヨリ安イ、此ノ二重差額ハ幾ラニナルカト申シマス、昨年ノ一月ニ於テ五圓三十五錢、東京市民ハ大阪市民ヨリモ一石ニ付テ五圓三十五錢高イ米ヲ食ベテ居ツタ、ソコデ是ハ私ガ昨年ノ議會デ周米穀局長ニ向ツテヤカマシク申上ゲマシタコトガ、多少影響シタノダラウト思フ、昨年ノ七月八日ニナリマシテ東京ニ於ケル白米價格ト云フモノハ、俄ニ一圓九十六錢ノ値下ヲ見タ、一圓九十六錢ノ値下ヲ見テ、業界ハ之ニ不服ハ言ツテ居リマセヌ、所ガ此ノ一圓九十六錢ノ値下ヲシテ、其ノ後ドウナツタカト申シマス、七月ハ東京ノ正米ガ三十四圓十六錢デアリマシタノガ、十二月ハ三十五圓三十四錢トナツテ居リマス、此ノ差額一圓十八錢トナリ、此ノ正米値上リ一圓十八錢ト、前ノ一圓九十六錢ノ値上リヲ兩方合セマスト三圓十四錢ニナリマス、サウスルト三圓十四錢ト云フ高イ米ヲ東京市民ハ食ベテ居ツタノダト云フコトノ、是ガ好イ證據ニナリマス、ソレデハ大阪トドウ云フ値開キガアルカト申シマス、私ガ調査シタ範圍ニ於キマシテハ、七月以後マダ大體三圓ノ値開キガアリマス、是ハ重大問題デアツテ、ドウシテ斯様ナ結果ガ出テ來ルカト申シマス、大阪ノ米商人ハ、一日三俵位ヨリ賣レナイ商店ニ於テハ、副業トシテ荒物屋ヲ兼營致シテ居リマス、然ルニ東京ノ商店ハ一日二俵ヨリ賣レナイ店デアリマシテモ、荒物屋ハ兼營致シマセヌデ、獨立シタ唯米

屋サンデアリマス、即チ大阪ニ於キマシテハ一日二俵ヤ三俵賣ル米屋サンハ立行カナイ値段デアル、一日三十俵ナリ或ハ二十俵ナリ賣レル店ガ立行ク其ノ値段デ米ハ賣ラレテ居ル、所ガ東京ハ二俵カ三俵賣ル米屋サンデモ、生計ガ立行ク價格ヲ以テ米ガ賣ラレテ居ル、是ハ由々シキ一大事デアリマス、而モ先程私ガ申上ゲマシタヤウニ、東京市民ガ斯様ナ高イ米ヲ食フノハ、所謂經濟的無能力、又言葉ヲ換ヘテ申シマス無頓著ト申シマセウカ、ソレガサセタ業デアリマスカラ、所謂自業自得デアリマス、併シ自業自得ト言ウテ吾々ハ看過スコトハ出來ナイ、ナゼナラバ只今申シマシタヤウニ、東京ニ於テ假令今日俄ニ一石一圓値上リニナリマス、直グ殺人相場——此ノ戰時體制下ニ於テ米穀ノ一石一圓ノ値上リト云フモノハ、一般物價ニ影響ヲ及ボスコト云フ聲ヲ擧ゲルニ違ヒナイ、斯様ナコトデ屬、東京市民ハ其ノ無自覺カラ出タル、常識ヲ外レタル高イ米ヲ食ベタ、ソレガ直チニ農村ノ對策ニ影響シ來ツタコトハ屢、アルノデアリマス、之ヲ是正スルニハドウシテモ今^米穀商ガ多過ギルカラ、此ノ多過ギル米穀商ヲ免許制採用ト同時ニ、三分ノ一位ニシテシマフ、左様ナコトニスルト此ノ整理ニ依ツテ適正ナル價格ノ白米ト云フモノガ、東京市民ノ口ニ入リマス、此ノ點ニ付テ商工大臣ハドウ御考デアリマスカ伺ヒタイ(拍手)

又モウ一ツ、是ハ農林大臣ニ御同致シマス、米穀配給統制法ガ茲ニ上程ニナリ、是ガ通過致ストシマス、ソコニマダ一ツノ殘サレタル重大ナル問題ガアリマス、即チ今日ノ米穀ノ檢査統一問題デアリマス、今日ノ米穀ノ檢査ト云フモノハ各府縣區々マチニナツテ居リマス、此ノ配給統制ヲ斷シテ、此ノ檢査ノ統制ヲ斷行シナイト云フコトハ、車ノ兩輪ノ一輪ガ缺ケルコトニ相成リマス、之ニ對シマシテ農林大臣ハ如何ナル御考デゴザイマセウカ(拍手)私ノ乏シキ體驗ヲ申上ゲマス、此ノ各府縣ニ於キマスル檢査ノ不統一ト云フコトハ、非常ニ米ノ統制問題ニ惡影響ヲ及ボシテ居ルノミナラズ、其ノ以上ニ我ガ農村ニ重大ナル關係ヲ及ボシテ居ルノデゴザイマス、一ツノ實例ヲ申上ゲマスルト、例ヘバ千葉縣ニ於テ檢査員ガ米ノ品位向上ヲ圖ラウト致シマス、檢査員トシテ品位向上ヲ圖ルト云フコトハ正ニ當然ノコトデアリマス、サウ致シマスルト東京市場ニ於テハ、何ヨリモ乾燥ノ十分效イタ米ヲ要求致シマス、是ハ委員會ニ讓リマシテ詳細ハ省キマスガ、乾燥ガ十分效キマス東京市内ノ米穀商ハ非常ニ利益ヲ得マス、其ノ代リ農民ハ之ニ依ツテ非常ナ不利益ヲ來シマス、商人ガ利益ヲ得ルコトデアリマスカラ、是ガ直チニ影響致シマシテ、千葉縣ノ米ガ乾燥十分デアリマス品位ガ上リマス、即チ是ハ千葉縣ノ米穀檢査員ノ功名手柄ト相成リマス、左様ナ關係、關係ガアリマシテ、不當ナル米穀ノ乾燥ト云フヤウナコトガ、農民ニ大ナル困難ヲ來タサシテ居リマス、サウシテ千葉縣ガ左様ナコ

トヲスルト、栃木縣マデ競ツテヤル、隣ノ茨城縣ガ又之ニ競フト云フヤウニナリマシテ、東京市内ノ米穀商ノ一擧一笑ガ直チニ農村ニ影響シテ、農村ノ損害トナルノデゴザイマス、是ハ洵ニ重大問題デアリマシテ、此ノ際此ノ米穀配給統制案ノ實現ト共ニ、此ノ米穀國營檢査斷行ニ邁進セラレンコトヲ御願致シマス、之ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス

(國務大臣櫻內幸雄君登壇)

○國務大臣(櫻內幸雄君) 吉植君ノ御質疑ニ對シテ御答致シマス、第一ニ本案ヲ以テ最後案トシテ居ルト言フガ、ソレハ考慮ヒデハナイカト云フ風ナ御意見ノヤウデアツクト思ヒマス、私ハ本案ヲ以テ絕對無比ノ最後案デアルト云フ言葉ハ使ツテ居リマセヌ、專賣若クハ國營、是ガ圓滿ニ實行致サレルナラバ、理想トシテ洵ニ結構ナコトダト思ヒマス、故ニ之ニ對シマシテハ十分ナル調査考慮ヲ拂ツテ、或ハ他日御協賛ヲ願フヤウナコトニナルカモ知レマセヌケレドモ、今日ノ場合ニ於キマシテ、只今サウ云フ案ヲ出ス意思ガナイト斯様ニ申上ゲタノデアリマスルカラ、御諒承願ヒマス

第二ニ戰時米穀對策ニ付キマシテ、種々ナル觀點カラ、本年ハ凶作デアラウト思ハレルガ、ソレニ對スル所ノ對策ガ十分デナイ、斯様ナル御指摘デアリマス、私共本年ガ凶作デアルカ、豐作デアルカト云フコトニ付キマシテハ、容易ニ豫斷ハ許シマセヌケレドモ、少クトモ凶作デアツタ場合ニドウ

スルカト云フ心組ダケハ、豫メシテ置カナ
ケレバナラスト考ヘテ居リマス(拍手)其ノ
點ニ付キマシテモ度々申上ゲマスルケレド
モ、現在ノ農村事情カラ申シマスと天候ノ
上ノミナラズ、勞力ノ點ニ於テモ、肥料ノ點
ニ於テモ或ハ馬匹關係ノ上ニ於テモ、現狀ヲ
維持スルコト、即チ平年作ヲ維持スルコトス
ラ、可ナリ困難デアルト吾々ハ考ヘテ居リ
マス、要シマスルノニ、農村ノ人々ノ總力
ヲ此處ニ集中シテ戴イテ、皆樣方ノ御協
力ニ與ツテ、サウシテ是ガ難關ヲ突破致サ
ナケレバナラスト致シマシテ、計畫ヲ立テ
テ居ルヤウナ譯デアリマス、曩ニ御協賛ヲ
願ヒマシタ案ニ依リマシテハ、三百万石ノ
内地増産ノ計畫デアリマシタケレドモ、更
ニ百万石内地ニ於テ増産シ、又外地ニ於テ
數十万石ノ増産ヲ致シタイトシテ、目下銳
意研究シテ居ルノデアリマス、之ニ對スル
對策ニ付キマシテハ種々色々ナル方策ガア
ルコトハ考ヘマスノデ、是ハ或ハ追加豫算
等ヲ御要求申上ゲマシタ時ニ、詳細ニ御報
告ヲ致シタイト思ヒマス、要シマスルニ吉
植君ノ御心配ニナツテ居ルガ如キ事柄ガア
ツテハ相成ラスト思ヒマスノデ、吾々ハ夙
夜其ノ問題ニ對シマシテ深甚ナル注意ヲ拂
ヒ、用意ヲ致シテ居ルコトダケヲ申上ゲテ
御諒解ヲ得タイト思ヒマス

ソレカラ肥料供給ノ問題ニ對シテ増産計
畫ヲ言フガ、肥料ガ廻ツテ居ナイヤウナコ
トデドウスルカ、洵ニ御尤デアリマス、私
就任以來此ノ問題ニ付キマシテハ、眞ニ心

配ヲ致シマシテ、所謂物動計畫ガマダ決定
致シマセヌ際ニ於テ、此ノ肥料ダケハドウ
シテモ確保致シタイト思ヒマシテ、漸クニ
シテ決定致シマシテ、一兩日前ニ之ヲ發表
致シマシタ次第デアリマスガ、其ノ數量ハ
三圓マデノ加里鹽ノ供給高ヲ七万噸、七圓
マデ九万噸、合計十六万噸、過燐酸ハ三月一
杯ニ二十万噸、七月マデニ更ニ三十万噸、
合計五十万噸、而シテ硫酸肥料ニ於キマシ
テハ是ハ八十九万噸程供給出來ル豫定デア
リマスガ、大體ニ於テ明年度ノ供給額ヨリ
モ更ニ殖エタ數字ニナツテ居リマス、故ニ
此ノ數量ガ圓滿ニ供給出來マスルナラバ、肥
料ト致シマシテ大ナル缺陷ガナクテ済ムデ
アラウト思ヒマスルケレドモ、今御話ノ如
ク今日尙ホ其ノ配給ノ十分隔々ニマデ行ツ
テ居ナイコトハ甚ダ遺憾デアリマスノデ、
此ノ點ニ付キマシテハ十分事務當局ヲ督勵
致シマシテ、一日モ速ニ此ノ憂ヲ除キタイ
斯様ニ考ヘテ居リマス

更ニ七分搗ノ問題ガ起リマシタガ、是ハ吉
植君ノ御話ノ如ク、全國的ニ左様ナコトガ
行ハレマスレバ非常ニ是ハ補充ニナルノデ
アリマスガ、只今ノ所ハ要スルニ人々各、嗜
好ニ依リマシテ、獎勵ハ致シテ居リマシテ

モ未ダ全部七分搗米ヲ食フ狀況ニナツテ居
リマセヌガ、萬々一ノ場合ニ於テハ是ハ必
ズヤ實行サレルコトト考ヘマス、混砂米云々
ニ付キマシテ、是ガ衛生ニ害ガアルモノ
カナイモノカト云フ問題ニ付キマシテハ、
厚生省ニ於テ御調ニナツテ居リマスカラ、

厚生大臣カラ御答辯ガアルト思ヒマスガ、
從來ノ搗粉ヲ混ゼテ搗イテ居ツタ人々ノ營
業上ノ關係、竝ニ早ク米ノ搗ケル關係等ヲ
考慮致シマシテ、直チニ全部混砂搗ヲ廢止
スルト云フコトニ今日ハナツテ居リマセヌ
ケレドモ、大體ノ方針ガ混砂搗ヲ廢止スル
ト云フ方針ニナツテ居リマシテ、各縣ニ委
託シテ、事情ニ應ジテ之ヲ速ニ實行スルヤ
ウニナツテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ付
キマシテハ多分厚生大臣カラ御答辯ガアル
ト思ヒマスカラ之ヲ省略致シマス

ソレカラ米穀ノ國營検査、是ハ洵ニ御尤
ナコトデアリマシテ、現在ニ於テハ各縣各、
自分ノ產地ノ米ヲ優秀ナモノニシタイト云
フコトニ急ニシテ、其ノ點ニ力ヲ注イデ居
リマス結果、各縣各、違ツタ検査ノ狀態デア
リマス、之ヲ統一シテ國營ニスルト云フコ
トハ最も必要ナコトデアリマシテ、農林省
ニ於テモ曾テハ此ノ國營ノコトノ案ヲ決メ
マシテ、提案ノ準備ヲ致シタコトモアリマ
スケレドモ、今日未ダ其ノ實行ニ至ラスコ
トハ甚ダ遺憾デアリマシテ、適當ナル機會
ニ於キマシテ其ノ實現ヲ期シタイト斯様ニ
思ツテ居リマス(拍手)

(國務大臣廣瀨久忠君登壇)

○國務大臣(廣瀨久忠君) 白米ヲ無砂七分
搗程度ノ米ニ致シマスと云フコトニ付キマシ
テハ、洵ニ結構ナコトデアリマス、併シナガラ
法規ヲ以テ之ヲ一律ニ強制スルト云フコト
ハ、國民長イ間ノ慣習等ノコトモアリマスル
ノデ、容易ニ贊成致シ難イ所デアリマス、政府

ハ國民ノ榮養ニ關スル所ノ知識ノ啓發ニ努
メ、尙ホ國民體位ノ向上ノ必要ヲ能ク認識セ
シメマシテ、白米ヲ止メテ胚芽米又ハ七分
搗程度ノ米ヲ使用スルヤウニ、極力獎勵ヲ致
ス積リデアリマス、只今農林大臣ノ御話ノヤ
ウニ重大ナル時局ニ際シテハ、國民ノ自覺ニ
依ツテ是ハ實行出來ルモノダト私モ信ジマ
ス、又混砂搗精ノ問題ニ付キマシテハ、是
ハ榮養上竝ニ衛生上ノ見地カラ之ヲ禁止ス
ル方針デアリマス、併シ直チニ全國ニ禁止
スルト云フコトハ、砂ノ生産業者ナドニ對
スル影響モ考慮シナケレバナナリマセヌノ
デ、各地方ノ實情ニ應ジマシテ、聽テ全國
的ニ之ヲ普及セシムル方針デアリマス(拍
手)

(政府委員西村茂生君登壇)

○政府委員(西村茂生君) 吉植君ノ御質問
ニ對シマシテ陸軍ト致シマシテ御答辯ヲ申上
ゲマス、戰時下ニ於ケル食料問題ニ付キマ
シテハ、陸軍ト致シマシテハ重大ナル關心
ヲ持ツテ居ルコトハ勿論デゴザイマス、特
ニ主食タル米ニ付キマシテ是ガ不足ヲ來シ
ハシナイカト云フコトニ付キマシテハ、非
常ナル關心ヲ持ツテ居ルノデゴザイマシテ、
此ノ點ニ付キマシテハ本議會ニ於ケル皆樣
方ノ御高見ノ御趣旨モゴザイマスノデ、今
後一層熱心ニ研究致シタイト思フノデゴザ
イマス、更ニ白米ノ搗精ニ付キマシテ、無
砂七分搗程度ニ致シマスと云フコトニ付キマシ
テハ、各種ノ點ヨリ考ヘテ見デ非常ニ結構
ナコトダト思ヒマス、陸軍ニ於キマシテハ

十數年以來胚芽米、無砂ノ米ヲ用ヒテ居ル
ノデゴザイマス、申上ゲルマデモゴザイマ
セスガ、胚芽ハ非常ナ力ヲ持ツテ居リマス
シ、又糠トナルベキ部分ノ、即チ米ノ外殼
ヲ去ラザルコトハ、榮養ノ點カラシテモ必
要ナコトデ、胚芽ヲ存スルヤウノ程度ニ搗
クト云フコトデモ、精白ヨリハ榮養價值ニ
非常ナ相違ガアリマス、榮養上ノ價值カ
ラ申シマシテモ、又米ノ節約ト云フコトカ
ラ申シマシテモ、陸軍ト致シマシテハ相當
確信ヲ持ツテ之ヲ厲行致シテ居ルノデゴザ
イマス、爾力致シマシテ、此ノ無砂ノコト
ニ付キマシテハ、只今所管當局ヨリ申述ベ
ラレマシタヤウニ、今日ト致シマシテハ地
方的ノ實情ニ即スルヤウニ、地方々々ニ依
ツテ取締ヲ厲行サレテ居ルヤウデゴザイマ
シテ、是モ結構ナコトト思ヒマスルガ、今
後は等ノコトヲ厲行サレ、而シテ吉植君ノ
御趣意ノヤウニ全國的ニ是ガ行ハルコト
ヲ、陸軍ト致シマシテハ其ノ日ノ一日モ早
ク來ルコトヲ切望シテ居ルノデアリマス

〔國務大臣八田嘉明君登壇〕

○國務大臣(八田嘉明君) 只今吉植君ノ御
述ニナリマシタ點ニ付キマシテ御答致シマ
ス、東京並ニ大阪ノ米ノ小賣價段ヲ比較サ
レマシテ、東京ニ於テハ小賣商ガ其ノ取扱
數量ニ比シテ、割合ニ多イ爲デハナイカト
云フコトヲ述ベラレタノデアリマスガ、或
ハサウ云フコトガアルカモ存ジマセス、何
レニ致シマシテモ本法ニ於テハ先ヅ米穀取
扱業者ヲ一ツノ免許制度ニ致シマシテ、更

ニ將來ニ於テハ配給ノ實情ニ即シ、或ハ又
商業組合等ノ結成ノ結果ヲ參照致シマシ
テ、必要ガアリマスルナラバ、只今吉植君
ノ御説ノヤウナコトモ或ハ必要カト存ジマ
ス(拍手)

○議長(小山松壽君) 平野力三君

(平野力三君登壇)

○平野力三君 私ハ本案ガ上程サレマスル
ニ於キマシテ、前農林大臣及ビ前々農林大
臣ガ、本案ニ對シテ多大ノ苦心ヲ拂ハレマ
シタコトニ付テハ、敬意ヲ表スル者デアリ
マス、併シナガラ本案ハ現下ノ米穀政策ヲ
解決スル建前ニ於テ現ハレタモノト致シマ
シテハ、私ニハ多大ノ疑問ナキヲ得ナイノ
デアリマス、是ヨリ私ハ櫻内農林大臣ニ對
シマシテ、本案ニ關スル各種ノ疑點ヲ質シ
テ見タイト思フノデアリマス

私ハ最初本案ノ法文其ノモノニ對スル質
疑ヲ致シマス前ニ、我國ノ米穀政策ノ根本
ニ關シマシテ、農林大臣ノ所信ヲ質シテ見
タイト思フノデアリマス、我國ノ米穀政策
ハ明治ノ初年以來多大ノ苦心ヲ拂ツテ參リ
マシタ問題デアリマス、就中大正七年ノ

米騒動ヲ契機ト致シマシテ、是ガ政治問題
ト致シマシテ頗ル重大化シテ參ツタノデア
リマス、而シテ大正十年ニ米穀法ノ制定ヲ
見、其ノ米穀法モ屢、改正ヲ行ハレマシテ、
米穀統制法トナリ、其ノ米穀統制法モ忽チ
缺陷ヲ暴露致シマシテ、米穀自治管理法其
ノ他ノ法律トナツテ今日ニ至ツテ居ルノ
デアリマス、是等ノ政策變遷ノ跡ヲ靜ニ考

ヘテ見マスル時ニ、政府ハ一ツノ現象ガ起
リマスルト直ガ法律ヲ制定スル、次ノ現象
ガ起レバ又法律ヲ改正ヲ行ツテ、終始一
貫、總テ姑息應急ノ對策ニ耽ツテ來マシテ、
米穀政策ニ對スル根本對策ナカリシコトハ、
私ノ最モ遺憾トスル所デアリマス(拍手)今
回提案サレマシタ此ノ米穀配給統制法案

ハ、苟モ我が日本ノ國ガ新東亞建設ノ巨歩
ヲ踏ミ出シテ、内外トモニ庶政ノ改新ヲ爲
サナケレバナラス時ニ出デマシタ法案トシ
テ、櫻内農林大臣ハドレダケノ確固タル成
案ヲ持ツテ居ラレルカト云フコトニ付テ、
私ハ是カラ具體的ニ農林大臣ノ所信ヲ質シ
テ見タイト思フノデアリマス、第一ノ質疑
ハ本案ト農業政策ノ關係デアリマス、第二
ノ點ハ増產政策ト本案トノ關係デアリマス
(議長退席、副議長著席)

第三ノ點ハ價格政策ヨリ見タル本案ノ關係
デアリマス、是ヨリ逐一之ニ對スル所見ヲ
申上ゲテ、農林大臣ノ所信ヲ質シタイト思
フノデアリマス

第一ノ農業政策ト本案トノ關係、言換ヘ
テ救農政策ト本案トノ關係ト申シテモ宜シ
イノデアリマス、米ハ言フマデモナク我國
五百五十萬戸ノ農家ノ中ノ八割、四百八十
萬戸ノ農家ガ此ノ生産ニ從事ヲ致シテ居リ
マシテ、農業生産品中ノ王座ヲ占メ、我國
農產物ノ優ニ半分以上ノ價格ヲ占メテ居リ
マス一大産業デアリマス、此ノ米ニ對スル
政策ノ消長ハ、直チニ以テ農民ノ生活ニ對
シテ重大ナ影響ガアルト云フコトハ言フマ

デモナイノデアリマス、故ニ苟モ米穀政策
ト云フモノハ、農業政策ト救農政策ト並立
スル時ニアラザレバ、農民ト致シマシテハ
承服出來ナイノデアリマス、此ノ見地ニ立
ツテ私ガ本案ヲ靜ニ研究シテ見マシタ結果
ニ依リマスルト、本案ハ一種ノ低米價政策
ヲ執ツテ參ラレタノデハナイカト思フノデ

アリマス、米穀法制定以來、最近ニ至ルマ
デノ米穀政策ハ、歴代ノ農林大臣ニ依ツテ
高米價政策ガ主張サレタ、即チ米價ノ吊上
ガデアリマス、從來ノ農業政策ガ米價ヲ吊
上ゲヨウ、吊上ゲヨウト云フ方針ヲ執ツテ
參ツタト云フコトニ對シテハ疑問ガナイノ
デアリマスガ、今回ノ米穀配給統制法案ハ、
私ノ研究ニ依リマスルト、低米價政策ニア
ラズヤト思フノデアリマス、或ハ農林大臣
ハ直チニ以テ低米價政策デハナイト仰シヤ
ルカモ知レマセスガ、私ハ斯ウ思ヒマス、
今日有ニル物價ト云フモノガ暴騰致シマシ
テ、農民ガ購入致シマスル物ノ中ニハ、二
倍或ハ三倍ニ騰貴致シテ居リマス物ガアル
コトノ言フマデモナイ時ニ、米價ヲ上ゲナ
イヤウニ——國民ノ經濟情勢カラ、今日ノ

價格政策カラ、米價ヲ成べく上ゲナイヤウ
ニスルト云フ指導精神ニ立ツテ居リマスル
此ノ法案ハ、即チ低米價政策ト斷言シテ憚
ラナイノデアリマス、私ハ是ニ於テ申上ゲ
マス、今日我國ノ米穀政策ヲ國家大本ノ上
ニ採ラナケレバナラナイト云フコトニ對シ
テハ、吾々ハ敢テ反對ハシナイノデアリマ
ス、併シナガラ低米價政策ヲ採ツテ、農民

ニ對シテ是ダケノ犧牲ヲ強ヒルノデアリマスナラバ、之ニ對スル別箇ノ政策ト云フモノガナケレバ、私ハ本案ハ不完全デアルト斷言セザルヲ得ナイノデアリマス、言換ヘマスレバ最近本議會ノ豫算總會ヲ通ジ、或ハ本議場ニ於テ屢、論セラレテ居リマスル農産物價ノ缺狀價格ニ付テ、之ヲ如何ニシテ防止スルカト云フ點ニ付テ農林大臣ニ成案ガナケレバ、此ノ配給統制法案ハ、米ノ問題トシテハ、一應正シイ政策デアルカモ知レマセスケレドモ、農業政策ノ見地ニ立ツテハ、貧困デアルト云フコトヲ言ハザルヲ得ナイノデアリマス（拍手）是ニ於テ農林大臣ニ何ヲナサルカト斯ウ問フ上ニ於キマシテ、私ハ率直ニ農林大臣ガ過去ニ於ケル米穀政策ノ運用ノ上ニ於テ莫大ナル金額ヲ損失シ、米穀統制ヲヤツテ來タ、具體的ニ申シマスレバ、七億萬圓ノ厖大ナル豫算ヲ以テ、米ヲ買フコトニ依ツテ、賣ルコトニ依ツテ、是ダケノ損害ヲシタ、是ダケノ犧牲ヲ拂フダケノ觀念ガアリマスナラバ、今日農民ノ生産品タル米穀ノ生産費ノ低下ノ爲ニ、肥料ノ專賣ヲ斷行サレテ宜カラウカト斷ズルノデアリマス、農林大臣ガ此ノ配給統制法案ト並行サレマシテ、肥料ノ專賣ヲ斷行サル上ニ、國家ガ相當ノ犧牲ヲ拂ハルルト云フコトデアリマスナラバ、私ハ此ノ議會ニ於キマシテ全院ノ賛成ヲ得テ、肥料問題ノ解決ハ掌ヲ返ス如クニ出來ルト思フニ拘ラズ、今日聞ク所ニ依リマスルナラバ、肥料ノ配給問題並ニ肥料ノ專賣問題

ハ、農林省ト商工省トノ間ニ於テ未ダ意見ノ一致ヲ見ズ、商工省ガ其ノ專賣問題ニ對シテ、マダ完全ナル所ノ回答ヲシテ居ナイト云フヤウナ現狀ヲ見マスル時ニ、農林大臣ハ此ノ點ニ對シテ明快ナル所ノ、吾々ノ納得ノ出來ル、肥料政策ニ對シテ斷乎肥料ノ專賣マデヤルダケノ覺悟ガアルノデアルト云フ位ナ態度ヲ、此ノ席上ニ於テ御示ニナルコトガ肝要デアラウト私ハ存ズルノデアリマス（拍手）

第二ノ質問ト致シマシテ増産政策デアリマス、私ハ率直ニ申上ゲマスルト、此ノ配給統制法ト云フモノガ施行サレタ場合ニ、米ガ増産ニナルカ、或ハ減産ニナルカト云フコトニ付テハ疑問ヲ持チマス、固ヨリ他ノ色々ナ政策ノ結果カラ論ズルノデアリマセヌ、此ノ法案其ノモノハ米ノ増産ニナルノカ、減産ニナルノカト云フ議論ニ付テ暫ク致シテ見タイト思ヒマス、即チ配給機關ダケヲ、此ノ法案ニ現ハレテ居ルヤウニ完全ナル統制ヲサレタカラト云ツテ、増産ニナルト云フ理窟ニハナラヌト思ヒマス、水道ノ鐵管ダケヲ完全ニ掌握シテ、之ニ對スル統制權ヲ持ツタカラト云ツテ、水源地道ニ對スル完全ナル政策ダハナイ、電力統制法案ニ於キマシテモ、豊富低廉ナル所ノ電力ガ出來ルカ出來ナイカ、送電線ヤ小賣ヲ統制スルコト云フ問題ダハナイ、豊富ニシテ低廉ナルモノガ出來ルカト云フコトガ議論デアツタヤウニ、我國ノ米穀政策ノ上ニ於

キマシテモ、私ノ信ズル所ニ依リマスナラバ、配給機關ダケノ統制ト云フモノデハナクシテ、米ガ一體ドウ云フ過程ニ依ツテ、如何ナル傾向ニ依ツテ増産ヲ圖ルコトガ出來ルカト云フコトニ對スル、具體的ナ問題ヲ農林大臣ガ御持チニナラナケレバナラスト思ヒマス、此ノ點ニ於テ最近屢、或ハ本會議ノ席上ニ於キマシテモ、新聞或ハ雜誌等ヲ通ジマシテモ、我國ノ現在ノ農村ノ實情ト云フモノハ勞働力ガ足ラナイ、又畜力ガ足ラナイ、又農村ニ於キマスル所ノ重要肥料ト云フモノハ輸入ガ閉鎖サレテ居ル、斯ウ云フヤウナ諸般ノ關係カラ、増産ト云フコトニ對スル所ノ悲觀の部面ト云フモノガ多イト云フコトニ付テハ、私ガ喋々スルマデモナイノデアリマス、然ラバ之ニ即應スル所ノ對策ト致シマシテ、現在如何ナル對策ヲ執ツテ居ラルルカ、勞力ガ足ラナイ、一般ノ東京市民或ハ其ノ他都市ノ人ニ聞キマスルト、農村ニ勞力ハナイト云ウテモ、何トカ米ダケハ出來ルノデハナイカト云フ漠然タル考ヲ持ツテ居ル、又政府ノ諸氏モ農村ニ於ケル勞力ガ足ラナイト云フコトヲ耳ニシテ居ルケレドモ、重要ナル農業生産物ダケハ、何トナク擁護サレテ居ルノデハナイカト云フヤウナ考ヲ持ツテ居ラルルコトハ、私ハ危險デアルト思ヒマス、此ノ戰爭ガ長期ニ互リマシテ、愈、我が日本ノ國ガ相當ナル決心ヲシナケレバナラヌト云フ見地ニ立チマスルナラバ、勞力ガナクテモ、畜力ガナクテモ、農業生産力ヲ斷ジテ維持ス

ルコトガ出來ルト云フダケノ、具體的成案ト云フモノヲ吾々ハ持ツテ居リタイノデアリマス、然ラバ其ノ具體的成案ト云フモノニ付テ吾々ガ考ヘマスル時ニ何デアリマセウ、從來ノ農民ノ勤勞ニ換フルノ機械ヲ以テスル、今日ノ農業生産力ト云フモノハ、最早ドウシテモ相當ノ機械力ニ依ツテ、勞力ノ不足ノ部面ヲ補ツテ生産力ヲ擁護シナケレバナラヌト云フコトハ、苟モ農業事情ニ通ズル者ノ共通ノ意見デアルト思ヒマス、然ルニ現在ノ我國ニ於ケルノ農業器具ノ態勢ハドウデアアルカト申シマスルト、昨年七月、八月、九月ノ間ニ於キマスル所ノ、農具ニ對スル所ノ鐵ノ配給ト云フモノハ僅ニ五%、百分ノ五デアリマス、此ノ百分ノ五ニ當リマスル所ノ鐵ニ依ツテ、能ク現在農村ノ生産力ト云フモノガ維持出來ルデアリマセウカ、農器具ノ製造ハオロカ、農器具ニ對スル所ノ修繕スラ出來ナイト云フコトガ今日ノ現狀デアリマシテ、而モ之ニ對シマスル所ノ對策ガ當局ニ立ツテ居ルカト申私ハ昨年我國ノ農業狀態ニ付テ屢、耳ニ致シタノデアリマスルガ、少クトモ昨年ノ我國ノ米ノ減收ノ中ニ於キマシテハ、約三千万圓ニ相當致シマスル所ノ稻熱病ノ災害ト云フモノガアリマス、昨年ノ第七十三議會ニ於テ、農業保險法案ガ議會ヲ通過致シマスル時ニ、議員ト政府委員トノ間ニ於テ、此ノ稻熱病ト云フモノハ人力ヲ以テ防ゲルカ防ゲナイカト云フコトニ付テ、隨分激烈ナル

議論ガゴザイマシテ、長野長廣君ノ如キハ、過去ノ經驗ニ徴シテ斷ジテ稻熱病ハ防ゲナイ、農業保險ノ對象ニ入ルベシト主張サレマシタ、當時農林當局ノ御意見ハ、稻熱病ト云フモノハ機械ノ力ニ依ツテ防ゲルノデアルト云フ見解ノ下ニ、吾々ハ農業保險ノ委員會ニ於テ一應之ヲ諒承致シタ、然ルニ昨年ノアノ天候カラ全國ニ起リマシタ所ノ、アノ稻熱病ガ蔓延シタ時ニ、全國ノ農民ガ之ヲ防ガナケレバナラナイト云ウテ、盛ンニ稻熱病ヲ防護致シマスル所ノ噴霧器ヲ買ヒニ出マシタケレドモ、噴霧器ノ原料デアリマス眞鍮ト護謨ト云フモノハ、既ニ一昨年ノ暮カラ統制ヲサレテ居リマシテ、噴霧器ハナイ、如何ニ農林當局ガ、農業保險委員會ニ於キマシテハ、稻熱病ハ防ゲルノデアルト云フ答辯ヲサレマシテモ、此ノ肝腎ナル所ノ機械ヲ擁護セズニ置イテ、農民ガミスノ稻熱病ノ爲ニ稻ガ倒レルノヲ見テ居ルト云フ現狀ヲ見ル時ニ、果シテ農林當局ガ之ニ對シテ完全ナル責任ヲ負フコトガ出來ルカト云フコトヲ、私ハ間ハントスルノデアリマス（拍手）是ハ單ニ私ガ昨年知りマシタ所ノ一ツノ事實デアリマスルガ、最近ノ我國ノ農器具政策ト云フモノヲ見マスルト、商工省ト農林省ノ間ニ於テ價格ノ統一ヲ缺イテ居リマス、即チ此ノ農器具ト云フモノハ、今ヤ混亂、混冥ニ陥リマシテ、現狀ヲ以テ致シマスルナラバ、其ノ業ヲ捨テテ他ノ方ヘ轉業シナケレバナラヌト云フ聲ヲ聞イテ居ルノデアリマスルガ、私ハ其

ノ農器具業者ノ今日主張シテ居リマスル所ノ値段ノ正當ナリヤ否ヤト云フコトニ對シテハ、専門家デアリマセヌカラ未ダ判定出來セヌケレドモ、政府ハ農民ニ向ツテ農業ノ生産力ガ衰ヘテハナラヌ、諸君ハ愛國心ニ依ツテ、農業報國ノ精神ニ依ツテ、主要産業タル所ノ米ヲ作ラナケレバナラナイ、農業生産力ヲ落シテハイケナイ、隣保相助ヲシナケレバナラヌト言ハレマシテモ、肝腎ナル所ノ農器具ト云フモノニ對スル政策ガ立ツテ居ラナカツタナラバ、焉ゾ農業政策ニ對スル所ノ完全ナルモノト言フヲ得ンヤト私ハ言ヒタイノデアル、斯ク考ヘテ參リマスル時ニハ、先ヅ我國ノ農業ト云フモノガ、此ノ點ニ一大進展ヲシテ行カナケレバナラヌト云フ見地ニ立チマスル時ニ、唯口ニ増産計畫増産計畫ト云フ前ニ、此ノ點ニ對シマシテハ少クモ十二分ナル對策ヲ立テラレナケレバナラヌト云フコトヲ私ハ附言致シマスルト共ニ、次ニ増産政策ニ對シマスル所ノ、更ニ根本問題ニ付テ私ノ所信ヲ開陳シテ見タイト思フノデアリマス、先程申上ゲマスルヤウニ、今日我國ノ農民ニシテ米ヲ作ツテ居リマスル者ハ農家ノ大半デアル、農家ノ大半デハアリマスルガ、之ヲ數字のニ仔細ニ研究ヲ致シテ見マスルト、眞ニ鋤鋤ヲ執ツテ米ヲ作ツテ居リマスル所ノ階級ト云フモノハ、其ノ七割マデハ農村ニ於ケル所ノ他人ノ地面ヲ借りテ耕作シテ居ル所ノ階級デアリマス、我國ノ耕地ハ六百萬町歩、其ノ中半分ノ田ガ三百万町歩デアリマシテ、其ノ三

百万町歩ノ半分ノ百五十万町歩ト云フモノハ所謂小作地デアリマス、此ノ半分ノ小作地ト云フモノノ中ニ、所謂純然タル小作人ト自作兼小作農タル所ノ——農村ニ於ケル中農階級以下ノ一挺ノ鋤、一挺ノ鋤ヲ以テ鬪ツテ居ル所ノ、所謂自作兼小作農家ト云フモノガ七割ヲ占メテ居ルノデアリマシテ、此ノ七割ヲ占メテ居ル大多數ノモノガ——今日農村カラ都會ヘ流レテ參リマスル所ノ所謂移動米、米ガ商品トナツテ居リマスルモノガ三千五百万石デアリマスガ、小作料ハ其ノ中ノ千五百万石、移動米ノ半分ニ當リマスル所ノ千五百万石ト云フ所ノ多クノ米ト云フモノハ、他人ノ地面ヲ借りテ耕作ヲシテ居リマスル所ノ、小作人階級ノ雙肩ニ依ツテ其ノ生産ガ維持サレテ居ルト云フコトニ付テハ、我國ノ農業統計ガ示シテ居ル所デ間違ヒナイノデアリマス、然ラバ其ノ生産ノ一番適切ナル所ノ部面ニ營々トシテ働イテ居リマスル所ノ農民諸君ト云フモノガ、今日ニ於テ此ノ重大時局ニ對シテ國家ノ食糧ヲ生産スルダケノ、完全ナル生産階級トシテノ經濟力ト、完全ナル所ノ體力ト、完全ナル所ノ氣力ト上ニ於テ萬遺憾ナキヤト云フコトハ、米ノ増産問題ニ於テ私ハ見逃スベカラザル重大點デアルト思フノデアリマス（拍手）而モ此ノ農村人口ノ七割ヲ占メテ居リマスル所ノ所謂小作人階級ハ、肥料ハ自分ノ負擔デアル、農具ハ自分ノ負擔デアル、勤勞ハ自己ノ筋肉ト血液デアル、一タビ凶作ニ遭ヒマスルナラバ、其ノ凶作

ニ對スル責任ハ其ノ小作人ガ背負ウテ、豐凶ニ拘ラズ收穫ノ半分ト云フモノヲ納ムル、此ノ制度ト云フモノガ、果シテ現在ノ我が日本ノ非常時農業形態ニ對スル所ノ、完全ナル制度ナリヤ否ヤト云フコトニ對シテ、農林大臣ノ再認識ヲ私ハ要求シタイト思フ者デアリマス（拍手）即チ是ニ於テ一タビ思フ廻ラシテ見タナラバドウデアリマセウカ、是等ノ農民階級ガ今日都會ニ於テ叫バレマスル所ノ産業報國、勞働者ト資本家ガ一體ニナツテ國家ノ爲ニ盡ス、洵ニ吾々ハ今日ノ情勢ト致シマシテ尊敬ヲ致シマス、農村ニ於キマシテハドウデアリマスガ、勞働者モ企業家モ即チ小作人一人デアリマス、是ハ我が日本ノ國ノ農業形態ノ本質デアリマス、世間偶々小作爭議——小作料ノ合理化運動ヲ以テ勞働爭議ニ對シマスルケレドモ、ソレハ爭議ノ形態ガ大衆行動デアツタリ、爭議ノ中ニ或ハ手段方法ニ同ジヤウナモノアリト雖モ、其ノ經濟上ノ基礎理念ニ於テハ、農村ニ於ケル小作料ノ合理化運動ト云フモノハ、肥料モ自分ガ持チ、農具モ自分ガ持チ、種子モ自分ガ持チ、天災ニ對スル危險モ全部自分ガ負ハナケレバナラナイ、此ノ悲壯ナル小作人階級ノ已ムニ已マレザル所ノ所謂經濟更生運動デアルコトヲ、私ハ農林大臣ノ認識ヲ得タイト思フノデアリマス、斯ク考ヘマスルトキニ、此ノ所謂引合ハザル所ノ小作人階級ト云フモノニ對シテ、農林大臣ハ如何ナル對策ヲ以テ臨マルカ（私ハ今日は等ノ小作人諸君ガ、

農村ニ於テ如何ナル情勢ヲ取ツテ居ルカ、或ハ小作爭議ノ起ル地方ニ於キマシテハ、一部ノ地主階級諸君ニ依リマシテハ、彼等ハ愛國心ガ缺乏シテ居ルト言ツテ、或ハ小作爭議デモ起リマスルト、ソレハ何等カノ者ガ行ツテ煽動デモスルヤウナ言論ヲサレマスルガ、ソレハ誤ツテ居リマス、都會ニ於キマシテハ、都會ノ借家人ハ火事デモ起レバ、自分ノ火鉢ヲ逆サマニシテ置イテ、自分ノ物ダケ持ツテ逃グルト云フコトヲ聞キマスガ、農村ノ小作人ハドウデアリマス、自分ノ耕作シテ居ル地面ガ他人ノ地面デアリマシテモ、其ノ畦ガ壞レマスルナラバ、自分ノ住ンデ居ル宅地ノ地面ノ土ヲ持ツテ行ツテ其ノ畦ヲ修理シテ、ソレガ他人ノ地面デアラウト、誰ノ地面デアラウト構ハズ、自己ノ祖先傳來耕作シタ地面デスカラ、ソレヲ完全ニスル、アノ農民ノ觀念ハ唯一片ノ同情ヲ以テ見ル譯ニハ行カナイ、此處ガ眞ニ政治家タル者ガ千思萬省シテ、農村ノ七割ヲ占メテ居ツテ、其ノ經濟ノ立行カナイ所ノ、農民階級ニ對スル一大根本對策ヲ立ツルコトニ依ツテ、一面ニ於テハ農村ノ振興、一面ニ於テハ米穀ノ増産政策ト云フモノニ對シテ千思萬省サレコトガ、私ハ現下ノ情勢ニ於テ妥當ナリト存ズル者デアリマス、此ノ見地ニ立ツテ考ヘマスルキニ於テ、今日多數ノ農村問題ヲ論ジマスル所ノ農政學者ハ、我國ノ米穀政策ヲ將來ハ、小作料モ金納ニシナケレバナラナイト主張シテ居リマス、即チ收穫物ノ半

分ヲ人ニ取ラレタラ、殘ツタモノヲ商品化スルコトハ出來ナイノデアルカラシテ、即チ小作料ヲ金納ニシテ置イテ、小作人自ラガ其ノ米ヲ商品化スル所ノ制度ヲ採ラナケレバナラスト云フコトガ、今日ノ學者ノ意見ノ一致ヲ見テ居リマス、併シ私ハ小作料ヲ金納ニシテ、今日ノ農政政策ヲ圖ルベキヤ否ヤト云フコトニ對シテハ疑問ヲ持ツテ居リマス、言換ヘマスルナラバ、作ツタ物ヲ納メルト云フ觀念ハ、今日ノ農村ニ於キマシテハ善良ナル風俗デアリマス、私ハ物ヲ作ツタ者ガ物ヲ納メルト云フ、此ノ善良ナル風俗ダケハ殘シテ置イテ、我國ノ農村ノ土地問題ヲ解決シタイト云フ考ヲ持チマスルトキニ、今日農林大臣ニ切ニ反省ヲ促シテ見タイト思フコトハ、東京ニ、大阪ニ、自分ノ住居ヲ都會ニ置キマシテ、北海道ニ、九州ニ、多數ノ地面ヲ掌握シテ居リマスル所ノ不在地主ナル者ガアリマス、此ノ不在地主ト云フ者ハ、此ノ國家非常時ニ於ケル所ノ生産階級トシテ、ドレダケノ役ヲ勤メテ居リマセウカ、私ハ不在地主ノ問題ニ付キマシテハ、他ニ論ズル場合モアリマサルガ、小作人ガ自分ノ地面ヲ管理シテ、自分ガ其ノ地面カラ生産ヲ擧ゲテ居ルノデアリマスケレドモ、土地ヲ單ナル營利ノ對象トシテ所有スルダケニ依ツテ、自己ガ地主デアルト云フ考ヘ方ヲ持ツテ居ルト云フコトハ、今日ノ時勢ニハ適應スルモノデナイト私ハ斷ジタイノデアリマス(拍手)言換ヘマスルナラバ、地主ガ土地ヲ所有スルコト

ヲ許サレタル觀念ハ、茲ニ暴風ガアリマサルナラバ、砂防林ヲ作ツテ其ノ暴風ヲ防イデ生産ニ從事スル、茲ニ水害ガアリマサルナラバ、地主自ラノ力ニ依ツテ、其處ニ堤防ヲ築イテ小作人ノ援護ヲ圖ツテヤル、言換ヘマスナラバ、自分ノ犠牲ニ於テ土地ヲ管理スルダケノ力ガアツテ、初メテ是ガ生産階級デアリマス、然ルニ今日何等生産ニ從事シナイ所ノ是等ノ不在地主ノ土地ヲ、徒ニソレ等ノ人ノ所有ニシテ置クヨリハ、百尺竿頭一步ヲ進メテ、此ノ米穀配給統制法ノ實行ト共ニ、之ヲ國家ノ管理ニ移シ、而シテ其ノ地面カラ上ル小作料ト云フモノハ政府自カラ之ヲ收メテ、高イ金ヲ出シテサウシテ米ヲ賣ツタリ買ツタリシテ、損ヲシテ國民ニ迷惑ヲ掛ケルヨリハ、ソレ等ノ諸君ノ地面ト云フモノヲ國有トシテ、國家ガ相當莫大ナル小作料ヲ收メテ、其ノ國家ノ收メタ小作料ノ力ニ依ツテ、米穀ノ政策ト云フモノニ對シテ相當踏出スト云フコトデアリマスナラバ、一石二鳥デアツテ、正ニ私ハ農村問題ノ解決ノ要諦ト云フモノハココニ存スルト思フノデアリマスガ、之ニ對スル櫻内農林大臣ノ忌憚ナキ御所見ヲ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス、以上ノ二點、土地制度ノ改革ト農器具ニ對スル根本改革ハ、米ノ増産政策ニ對スル所ノ動カスベカラザル二大方針デアルト考ヘマスノデ、敢テ櫻内農林大臣ノ所信ヲ質シタイト思フノデアリマス

問題ハ本日モ此ノ席上ニ於キマシテ屢、議論ヲサレタコトデアリマスルカラ、私ハ是レ以上論ジマセスガ、率勢米價ト云ヒ、或ハ家計米價ト云ヒ、或ハ生産費ヲ基準ト致シマスル所ノ米價ノ計算ト云ヒ、是等ハ單ナル數學的ナモノデアリマス、苟モ米穀ニ關シマスル所ノ價格政策ヲ論ズルニ當リマシテ、最モ大切ナル問題ハ、價格ヲ決スル所ノ其ノ機關ト人ノ問題デアリマス、米穀統制法モ、米穀法モ、其ノ運用ノ途上ニ於キマスル所ノ人ニ關スル問題デアリマスガ、從來ノ此ノ價格決定ニ當リマスル所ノ、其ノ決定方法ヲ見テ居リマス、眞ニ米ノ生産ニ從事致シテ居リマスル所ノ所謂生産者階級ト云フモノノ代表者ハ洵ニ少イノデアリマス、米ヲ商品化シテ、自分ノ作ツタ米デハナク、是ハ商品デアルト云フ見地ニ於テ、米ヲ商品化スル者ノミガ生産者ノ代表デアリマセヌ、眞ニ生産者ノ代表ト云フ者デアリマスナラバ、粒々辛苦米ヲ作り、其ノ間ニハ何十回トナク手間ヲ掛ケテ、其ノ使フ農器具ニ於テモ三千種類以上ノ多數ノモノヲ使ヒ苦心慘憺ヲシナケレバ出來ルモノデハナイト云フコトノ立派ナル體驗ノアル人間ヲ、其ノ價格決定ノ委員ニ推薦セラルルト云フコトガ當然デアラウト思フモノデアリマス(拍手)以上ノ三點ハ私ガ米穀政策ニ關シマシテ、特ニ農林大臣ニ伺ハントスル所ノ問題デアリマシテ、之ニ對スル櫻内農林大臣ノ明快ナル答辯ヲ得タイト思ヒマス

最後ニ極メテ簡單ニ法文其ノモノニ關ス

ル質疑ヲ致シテ置キタイト思ヒマス、法文ニ關スル質疑ト致シマシテハ、先ヅ第一ニ承リタイト思ヒマスルコトハ、本案ノ第二十九條ニ付テデアリマス、第二十九條ハ、私共ガ初メテ此ノ法案ヲ拜見致シマシテ驚イタノデアリマスガ、今回ノ法案ハ米穀配給統制法案ト云フ法案デアアル、米ニ關スル問題ヲ中心トシテ立テラレマスル所ノ日本米穀會社ト云フモノニ、如何ナル理由ガアツテ麥ヤ大豆ヤ、雜穀ヤ、肥料ト云フモノヲ扱ハレルト云フコトヲ挿入サレタノデアリマスカ、私ハ米穀會社ト云フモノハ米一本ヲ扱ツテ、而モ米ニ對シテハ絕對的ナル權威ヲ以テ、本會社ガ運用セラルルト云フコトガ當然デアラウト思ツテ居ツタニ拘ラズ、此ノ第二十九條ノ中ニ斯ル曖昧ナル條文ヲ挿入サレタト云フコトニ付キマシテハ、果シテ如何ナル理由デアリマスルカ、聞ク所ニ依リマスルト、此ノ一箇條ニ對シテハ、商工當局ガ此ノ點ヲ入レナケレバ本案ニハ贊成シナイ、農林當局ハ斯ウ云フモノヲ入レルコトニ對シテハ不滿デアツテ、贊成ヲサレナカツタノデアルケレドモ、商工當局ガドウシテモ之ヲ入レナケレバ、從來ノ取引業者ノ間ニ於ケル所ノ妥協ガ付カナイカラ、ヤハリ之ヲ頑張ツタ、而モ議會ハ成ベク急イデ之ヲ提案ヲシナケレバ期日ガ切レルト云フヤウナ政治的ナル工作カラ、此ノ第二十九條ニ米以外ノ麥デアルトカ、大豆デアルトカ、肥料デアルトカ云フヤウナモノヲ取扱ハレルコトヲ挿入スルニ

至ツタト聞イテ居リマスルガ、斯ノ如クンバ、先程來農林大臣ガ此ノ席上ニ於テ信念ヲ以テ主張サレテ居リマスルケレドモ、唯商工省トノ單ナル妥協ノ上ニ斯ウ云フヤウナモノヲ入レラレルト云フコトハ、寧ロ私ハ本案通過ノ途上ニ於テ、又本案通過ニ對シテ相當ナル努力ヲシナケレバナラナイト考ヘテ、本案ニ贊成シテ居ル所ノ議員ノ心境スラ、之ニ依ツテ或ハ變化ヲ來サナケレバナラヌト云フ風ニ思フノデアリマスルカラ、此ノ第二十九條ニ斯ウ云フヤウナ怪シゲナル所ノ追加ヲ入レラレルト云フコトニ對スル、極メテ率直明快ナル御答辯ヲ、私ハ此ノ席上ニ於テ櫻内農林大臣ニ要求スル者デアリマス

ハ、農林大臣ノ唯產業組合ト商工業者ノ妥協ノ點サヘ付ケバ、是ガ政策デアルト云フ風ナ、政策ノ誤リデアツテ、信念ヲ以テ產業組合ノ上ニ對シテ、產業組合ノ今マデ踏シダ政策ヲ是認サレルナラバ、全購聯ヲ此ノ市場ニ對シテ入レルト云フコトガ當然デアラウト信ズルノデアリマス

最後ニ、全販聯ノ小賣ヲ禁止サレテ居リマスガ、是モ私ハ農林大臣ニ伺ツテ置キタイ、農林大臣ノ先程來ノ御話デ、本案ノ提出ニ當リマシテ種々商工當局トノ間ニ於ケル苦心ノ跡ハ知り得ラレマスガ、先程モ申上ゲマシタヤウニ、地方ニ於ケル販賣組合ガ農民ノ生産品ヲ農民ニ賣ツテ居ルト云フ此ノ形態デアリマス、當然ノ形態デアリマス、何等矛盾シナイ極メテ當然ナル所ノ政策デアリマスルモノニ對シテ、全販聯ノ小賣ト云フモノヲ特ニ認可制度ニ依ツテ普通ノ小賣商ト同様ニ扱ハレテ居リマスル點ニ付テモ、公平デアルト云ヘバ公平デアルト云フ言葉ハ用ヒラレマスルケレドモ、之ヲ歷代農林大臣ノ產業組合政策ト見マスルナラバ、ソコニ相當ノ產業組合ニ對スル事業制限ト云フモノガ潛ムノデハナイカト考ヘルノデアリマス、此ノ點ニ付テハ問題小ナリト雖モ、將來ニ對スル農業政策ノ重大ナル問題デアリマスノデ、今少シク明快ナル御答辯ニ依ツテ、何ガ故ニ全販聯ノ小賣ニ對シテモ、普通ノ米穀商並ニ取扱ハレルカト云フコトニ對スル御答辯ヲ得テ置キタイト思ヒマス、尙ホ種々本案ニ對スル質疑ハ盡キナイ

ノデアリマスケレドモ、大體私ノ質問ハ以上ヲ以テ終リト致シマス、何卒以上ノ質問ニ對シテ、農林大臣ノ極メテ明快率直ナル御答辯ヲ希望致シマシテ私ノ質問ヲ終リマス(拍手)

(國務大臣櫻内幸雄君登壇)
○國務大臣(櫻内幸雄君) 御答申上ゲマス、本案ハ低米價政策デハナイカト云フコトガ第一點ノヤウデアリマシタガ、左様デハアリマセヌ、要スルニ公正ナル價格ニ依ツテ、生産者モ安ンジテ生産ヲ爲シ得、消費者モ亦適當ナル價格ニ依ツテ供給ヲ受ケルト云フコトヲ根幹ト致シタ案デアリマシテ、決シテ低米價政策ト云フ意味デハナイノデアリマス

ソレカラ肥料專賣ヲ斷行スルノ考ハナイカ、是ハ御承知ノ通り現在肥料ノ大部分デアル硫安並ニ加里、過燐酸ハ全部一ツノ中樞機關ヲ設ケテ居リマシテ、ソレガ總テ政府ノ指揮命令ニ依ツテ配給致シテ居リマスノデ、大體ニ於テ殆ド專賣ヲ致シテ居ルト同ジヤウナ傾向ニ置カレテ居リマス、唯有機質肥料ニ至リマシテハ、今日其ノ統制ガ出來テ居リマセヌケレドモ、御承知ノ通り是ハ多種多樣デアリマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ未ダ十分研究ノ出來テ居ナイコトヲ遺憾トシテ居リマスケレドモ、是モ出來得ル限り統制致シテ行キタイ、斯様ニ考ヘマス

次ニ増產計畫ニ付テノ御話デアリマスガ、是ハ度々申上ゲマス通り、中々容易ノ業デハナイノデアリマシテ、機械ノ不足、勞力

ノ不足等ニ付キマシテモ、新シキ機械ヲ購入スルコトハ困難デアリマスルガ故ニ、從來ノ機械ヲ共同使用スル方法ヲ講ズルトカ、勞力ノ不足ニ對シマシテハ、移動勞力班ヲ設ケテ之ヲ補充スルトカ、或ハ稻熱病其ノ他ノ問題ニ付キマシテハ、之ヲ徹底的ニ驅除スル方法ヲ講ズル、併シソレヲ講ズルノニハ、今道具ガナイト云フ御話デアリマシタガ、此ノ點ニ付キマシテハ是非トモ其ノ道具ヲ補充致シタイ、出來ナイ場合ニ於テハ、從來金屬製作ツテ居ツタモノハ竹ヲ使用スルトカ、種々ナル方法ガアルト考ヘマス、要シマスルニ、全般的ニ農事ニ關係サレテ居ル方々ノ總動員ヲ致シテ、其ノ總力ノ發揮ニ依ツテ之ヲ補充シテ行キタイ、小作人ノ問題ニ付キマシテ、或ハ金納トシテハドウデアラウカ、或ハ小作人保護トカ云フヤウナ問題ガアリマシタガ、現在ノ小作人ノ諸君ガ非常ニ御苦ミニナツテ居ルト云フコトニ對シマシテハ、吾々モ深く考ヘテ居リマス、故ニ從來ニ於キマシテモ、御承知ノ通り農地調整法ノ如キモノヲ設ケテ、出來得ル限り是等ノ人々ヲ自作農ニシテ、サウシテ全部ガ自分ノ田ヲ耕サユウニ致シタイト云フノデ、之ニ努力致シテ居ルヤウナ次第デアリマス

現在ニ於テモ農會其ノ他農事ニ關係シテ居ル人ヲ御依頼致シテ居リマスケレドモ、更ニ實際ニ當ツテ居ル人ヲ御願スルヤウナ場合ガ起ツテ來ルト考ヘルノデアリマス
ソレカラ法案ノ第二十二條ト仰セラレマシタガ、是ハ御話ニ依ルト第二十九條ノ問題デアラウト思ヒマス、此ノ問題ニ對シマシテ、決シテ農林、商工ノ間ニ爭ツタコトハ、今日マデ毫末モナイノデアリマス、唯附屬的ニ斯様ナコトヲ設ケマシタノハ、現在ノ取引所ニ於キマシテ、斯ウ云フモノヲ附帶事業ト致シテ居ル土地ガアリマス、斯ウ云フ土地ニ對シマシテハ、茲ニ之ヲ一朝ニシテ廢止スルト云フコトハ、農村ノ爲ニ非常ニ不便デアリマスシ、又斯ウ云フ附帶事業ノ場合ニ依ツテ致スト云フ事柄ガ、此ノ目的ヲ達スル場合ニ於テ必要ナ場合モアリマスノデ、是ハ任意ニヤルコトニナツテ居リマシテ、此ノ條文ガ此ノ法案ノ根柢ヲ成シテ居ルモノデハナイト同時ニ、農林省ト商工省トノ間ニ少シモ意見ヲ異ニシテ爭ツタト云フヤウナ事實ノナイコトヲ御承知願ヒタイト思ヒマス、大體ソレダケデアツタト思ヒマスノデ、之ヲ以テ答辯ト致シマス(拍手)
○副議長(金光廣夫君) 三宅正一君
(三宅正一君登壇)

ト共ニ、本法案ヲ出サナケレバナラナクナリマシタ所ノ基礎條件デアアル、日本ノ國ニ於ケル生産ノ減退現象ニ對スル、政府ノ増産政策ノ不徹底ナル數々ノ點ニ關シテ具體的ナ質問ヲシテ、農林大臣其ノ他ノ所見ヲ質シタイト考ヘルノデゴザイマス
戰時農業政策ノ根柢ハ、第一ハ必要農産物ノ生産ヲ確保スルコトデアリマス、戰時ニ於テ益、需要ガ増大シテ來ル、其ノ需要ニ應ジテ必要ナル農林水産物ノ生産ヲ確保スルコトハ、是レ戰時農業政策ノ第一要諦デナケレバナラヌト考ヘルノデゴザイマス、(拍手)而シテ斯ノ如キ努力ヲ試ミルニモ拘ラズ、萬々一此ノ品物ノ窮屈ヲ感ズルコトニ依ツテ價格ガ暴騰シ、若クハ此ノ生産ガ非常ニ不安定ニナルコトニ依ツテ、國民生活ヲ不安定ニ陷ラセナイ爲ニ價格安定政策ヲ行フコトガ、其ノ次ノ戰時農業政策トシテ現ハレテ參ルト思フノデゴザイマシテ、今回ノ米穀配給統制法案ハ、此ノ戰時農業政策ノ第二二位スル所ノ法案デアルト私ハ考ヘルノデゴザイマス、而シテ戰時農業政策ノ第三ハ、強キ兵隊ト健全ナル勞力ヲ移出スル所ノ人的源泉ヲ爲ス農村ヲシテ、過勞ト營養不良ト生活破綻ノ爲ニ破滅サセルコトニ依ツテ、日本ノ人的資源ヲ壊滅ニ歸スルコトヲ防ギマスコトガ即チ戰時農村政策ニ於ケル所ノ第三ノ要諦デアルト、私ハ考ヘテ居ルノデゴザイマス(拍手)隨テ何ト申シマシテモ此ノ法律ハ其ノ第二二位スルモノデアツテ、戰時農業政策ノ第一點ハ、

生産物ノ確保ト所謂農民生活ノ保全デアリ、農民生活ノ安定デアアル、之ヲヤリナガラ而モ萬々一ノ所謂其ノ供給ノ窮屈ニ備ヘルノガ、此ノ法律ナノデゴザイマシテ、政治ハ所謂全能力ヲ擧ゲテ、常ニ最善ノ努力ヲ増産及ビ農民生活ノ安定ニ傾注致シマスケレドモ、併シナガラ一方ニ於テ最惡ノ事態ニ備ヘマスル所ノ用意ヲ整ヘテ置クコトハ、絶對ニ必要ナリト考ヘルノデゴザイマス、此ノ最惡ノ事態ニ對シマスル用意ガ、即チ今回提案サレマシタ所ノ此ノ法律デアルト、私ハ考ヘルノデゴザイマシテ、萬々一食糧ノ供給ニ不足ヲ生ジマシテモ、窮屈ヲ感ジマシタ際ニ於キマシテモ、其ノ價格ガ暴騰シテ國民生活ニ一大不安ヲ與ヘルト云フヤウナコトヲ防ギマスル爲ノ戰時配給統制機構ガ、即チ本法案ナリト考ヘルノデゴザイマスルガ、農林大臣ハ左様ニ本法ヲ御諒承ニナツテ居ルカドウカガ、第一ノ私ノ質問ナノデゴザイマス
此ノ見地カラ致シマシテ本法案ノ内容ヲ考ヘテ見マス、前ノ質問者ニ於テモ指摘サレマシタヤウニ、米穀法、米穀統制法、米穀自治管理法ト、漸次米穀ニ關スル統制ガ強化サレタコトニ依ツテ、行詰リマシタ取引所救済デアルト云フヤウナ、サウ云フ行掛リ案デアルトハ、此ノ法律ヲ私ハ解シタクナイノデゴザイマス、サウデハナクテ、萬々一ノ際ニ於テ、食糧ノ切符制ヲ適用スル必要ヲ感ジマスルガ如キ最惡ノ事態ニ於テモ、能ク機能ヲ發揮スルコトノ出來ル用

意ト寶刀トヲ、内輪ニ藏シマシタ戰時配給
結制機構ガ此ノ法律デアルト私ハ考ヘルノ
デアリマスガ、農林大臣ノ御所見ハ如何デ
アルカ、此ノ見地カラ檢討致シマスルト、
本法案ハ非常ニ不完全デアリ、非常ニ「ル
ズ」デアル、斯ウ云フヤウナ時ニ際會致シ
マシテハ、本法案ヲ以テ致シマシテハ不完
全デ、更ニ別ナ立法ヲ必要スルト云フ「ル
ズ」ナ法案デアツテ、此處ニ私ハ本法案
ノ缺陷性ト、現狀維持性ト非革新性ガアル
ト感ズルノデアリマスガ、其ノ非革新性ニ
付キマシテ二三ノ點ヲ指摘致シマシテ、農
林大臣ノ御所見ヲ承リタイト考ヘルノデア
リマス

本法ガ投機ノ手段ニ依ツテ米價ヲ暴騰セ
シメル危險ヲ防止スル爲ニ、清算取引ヲ廢
止セシメラレマシタコトハ、私共ノ最モ贊
成スル所デアリマスケレドモ、半官半民ノ
會社デアルトハ言ヒナガラ、營利會社ニ市
場ヲ經營セシメマス結果ハ、配當増加ヲ望
ンデ勢ヒ延取引ヲ多ク致シマスル結果トナ
リマシテ、投機性ヲ無クシヨウト考ヘナガ
ラ、配當ヲ殖ヤス爲ニ範圍ハ狹メラレマス
ケレドモ、投機性ハ無クナラヌト云フ點ニ、
私ハ本法案ノ不徹底性ガアルト考ヘルノデ
ゴザイマスガ、農林大臣ノ御所見ハ如何デ
アリマスカ、ノミナラズ株式業者ニ優先
的ニ持タセル結果ハ、市場ノ經營ガ投機性
ノ排除及ビ公益的經營ヲ爲サナケレバナラ
ヌノニ、投機ノ排除、公益ニ最モ不適格ナ
ル所ノ今マデノ相場業者ガ、株主ニナリ重

役ニナツテヤリマスト云フ所ニ、本會社ガ
公益性ヲ減却スル危險性ガアルト云フコト
ヲ考ヘザルヲ得ナイノデゴザイマスガ、此
ノ點ニ付テ大臣ハ如何ニ御考ニナツテ居ル
カヲ承リタイト思フノデゴザイマス、而モ
ナゼ斯ウ云フヤウナ機關ヲ、株式會社ト云
フガ如キ營利會社ニ經營ヲ委セラレタノデ
アリマスカ、寧ろ滿洲ニ於テヤツテ居ルヤ
ウニ、或ハ獨逸ニ於テヤツテ居リマスルガ
如ク、非營利、公益ナル經營ヲヤリマスル
爲ニ、公營デアルトカ、官營ノ取引所制度
ニナサイマススコトノ方ガ、本當ノ戰時配給
統制策トシテハ最モ適當ナモノデアルト考
ヘルガ、ナゼ其ノ點ニ付テソコマデ進マナ
カツタコト云フコトヲ承リタイト思フノデ
ゴザイマス

更ニ今回米穀ノ取引ニ付テ一元の統制ヲ
ヤリマスル機會ニ於キマシテ、最高最低價
格ノ範圍内ニ於テ、取引ヲサセルト云フヤ
ウナ行キ方デハナクシテ、銘柄ニ應ジテ一
本建ノ公定價格制ヲ以テ行クト云フ所ノ、
投機性ヲ全然排除シタ一本建ノ公定價格制
ニ進ミマス方ガ、戰時ノ配給統制機構ト致
シマシテハ極メテ當然ナ話デアルノミナラ
ズ、今日商工省等ガ中心トナツテ決メテ居
リマスル木炭デアラウガ、絹デアラウガ何
デアラウガ、物價ハ最高價格一本制デ既ニ
今日マデ進ンデ居リマスル時ニ於テ、ナゼ最
高價格及ビ最低價格ノ間ニ於テ、マダ投機取
引ノ出來ルヤウナ餘地ヲ殘サレタノデア
カト云フコトニ付キマシテ、私ハ其ノ不徹

底性ニ付テ御質問申上ゲタイト考ヘルノデ
ゴザイマス、而モ之ヲ一本建ノ公定價格制ニ
致シマスルダケデナクシテ、延取引——二月
ノ延取引ヲ認メテ居ルト云フコトデアリマ
スケレドモ、先物取引ヲ認メマスルナラバ、
延取引ナド認メル必要ハナイト私ハ考ヘル
ノデアリマス、營利會社ニヤラシテ延取引
ヲ認メテ、ソレデ配當ヲ目標ニシテ居リマ
スレバ、必ズ政府ノ意圖スル所ト違ツテ、
投機性ガ行ハレルコトニ依リマシテ、本當ニ
米ノ配給ガ窮屈ヲ感ジマシタ時ニ役立タナ
イト云フコトヲ、私ハ憂ヘザルヲ得ナイノ
デゴザイマスガ、政府ノ之ニ對スル御辯明
ヲ承リタイト考ヘルノデアリマス、業者
ヲ許可制ニ致シマシタコトハ、是ハ一進歩
デゴザイマスケレドモ、配給費ヲ眞ニ輕減
シ、而シテ一朝米ガ不足ヲ致シマシテ切符
制度等ヲヤラナケレバナラナイト云フヤウ
ナ時ニ際シマシテ、本法ノ如ク配給機
構ノ段階ヲ澤山置キマスルコトハ、配給費
輕減ノ上ニ於キマシテモ、統制ノ上ニ於キ
マシテモ、極メテ不適當デアルト私共ハ考
ヘザルヲ得ナイノデアリマス、配給費ヲ最
モ儉約スル途ハ、生産者カラ直接消費者ニ
持ツテ行キマススコトガ、最モ配給費ノ儉約
ニナルノデアリマス、然ルニ今回ノ會社法
案ニ於キマシテハ、仲買モ之ヲ其ノ儘ニ殘
シ、小賣商モ之ヲ其ノ儘ニ殘シ、更ニ問屋モ
之ヲ其ノ儘ニ殘シテ、其ノ上ニ會社ヲ一通通
ラナケレバナラナイト云フコトニナルノデ
アリマスカラ、今マデ三段階ヲ以テ生産者

カラ消費者ニ居イテ居ツタノガ、會社、市
場ヲ通ルコトニ依ツテ四段階ニナツテ、ソ
レダケ配給費用ハ高クナル危險性ヲ來スノ
デハナイカト云フコトヲ私共ハ考ヘルノデ
ゴザイマスガ、斯ウ云フヤウナ際ニ於キマ
シテ、本當ニ之ニ依ツテ失業致シマス者ニ
對シマシテハ、適當ニ轉業等ニ付テ考ヘテ
ヤルト共ニ、何ガ故ニ配給關係ト云フモノ
ヲ簡單化スコトニ付テ、今一步積極的ニ出
ラレナカツタコト云フコトヲ、私ハ聽カザ
ルヲ得ナイノデゴザイマス(拍手)

更ニ私ハ戰時配給統制機構トシテ、本法
案ノ持ツテ居リマスル一番大キナ缺陷ガ何ニ
在ルカト申シマスナラバ、萬一今年ノ秋ニ
デモ非常ナ凶作ガ來タ、或ハ大キナ戰爭ガ
起キテ外地カラ米ガチツトモ持ツテ來ラレ
ナイ、其ノ際ニ於キマシテ米ガ足ラヌトナ
リマスレバ、農家ノ側ニ於キマシテモ、米
屋ノ側ニ於キマシテモ賣惜ミ、賣隱シガア
リマスコトハ、是ハ當然デアリマス、然ル
ニ米ノ生産者カラ持ツテ來ルノニ對シテ、
今回ノ法案ニ依リマスレバ仲買ガ不特定ナ
農民カラ之ヲ買ツテ來ル、産業組合ガ農民
カラ買ツテ來ル、農會ガ之ヲ買ツテ來ル、
一村ニドレダケノ米ガ出來テ、ドレダケ餘
ツテ居ルカト云フヤウナコトハ、仲買ト産
業組合ト農會ガ蒐集シ、或ハ農民ガ直接ニ
賣リニ持ツテ行クト云フヤウナ、混雜ヲシ
タ米ノ集荷制度ヲ以テ致シマシテハ、私ハ
在高デハ分ラナイト考ヘルノデゴザイマス、
サウ云フヤウナ狀態ノ下ニ於テ本當ニ米ガ

無クナツタ、農民ガ米ヲ袋ニ入レテ一斗ヅツ隠シ、或ハ米屋ガ米ヲ賣惜シダト云フ時ニ、ドウヤツテ統制ヲヤラレルカ、少クモサウ云フ際ニ備ヘマシタ米ヲ集メル組織ト致シマシテハ、營利性ヲ持タナイ所ノ農會ナリ、市町村ナリ、産業組合ナリ、是ガ村ニドレダケノモノガアルカ、ドレダケガ残ツテ居ルカト云フコトヲ常ニ調ベテ、ソレヲ常ニ持ツテ來テ、市場ヲ通ジテ販賣業者ニ渡スト云フヤウニヤラレナケレバ、不適當デアルト私ハ考ヘルノデアリマスガ、折角戰時立法トシテ此ノ法案ヲ出シテ置カレナガラ、米ヲ集荷スル方面ニ於テ、斯ウ云フ用意ニ缺ケテ居ル所ガアルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ深ク遺憾トセザルヲ得ナイノデゴザイマスガ、政府ノ所見ハ如何デゴザイマセウカ、承リタイト考ヘルノデゴザイマス(拍手)

更ニ私ハ今マデノ質問者ガ此ノ點ニ付テ觸レテ居ラナイノデアリマスガ、最も重要ナ、本法ニ於テ考ヘナケレバナラス問題ハ、米價ノ二重制ニ付テノ問題デアリマス、二重價格制ノ問題デアリマス、今回ノ法律ガ通りマスルナラバ小賣商人ハ免許制ニナリマス、卸賣業者モ免許制ニナルノデアリマス、免許制ニナリマシテ、モウ儲ケト云フモノハ非常ニ減ツテ來ル、隨テ手數料商人ト化スノデアリマス、今マデノ小賣商人デゴザイマシタナラバ、品物ヲ混ゼ集メテ、三等米ト一等米トヲ混ゼタリ色々ノ操作ヲヤリマシテ、カラクリヲヤツテ、相當儲ケテ賣リマ

スカラ、消費者ノ方デ買フ際ニ、借り買ヒヲ致シマシテ、サウシテ掛倒シヲヤリマシテモ供給シタノデアリマス、所ガ今度手數料主義ニナツテシマヒマスレバ、煙草屋ト同ジデアル、煙草屋ガ皆ニ貸賣ヲシマシテ、踏ミ倒サレタ煙草屋ハ一遍ニ參ツテシマフカラ現金賣ニナルノデゴザイマス、米屋ガ全部ウマ味ガナクナツタト云ウテ、現金賣ニナリマシタナラバ現金ヲ持タナイ者ハ、煙草ト米ハ違フノデアルカラ、其ノ日カラ食フニ困ラザルヲ得ナクナルト云フ點ニ、私ハ重大ナ本法ノ用意ノ足ラザル點ガアルト考ヘルノデアリマス、隨テ斯ノ如ク致シマシテ、專賣ニ近イヤウナ小賣商人ノ手數料主義ノ下ニ、多クウマ味ヲ與ヘナイト云フコトニ致シマシテ、貸賣ヲサセナイヤウニ致シマシタナラバ、一方ニ於テ米穀統制法ヲ改正スルコトニ依ツテ、貧乏ナ者、生活ニ困ル者等ニ於キマシテハ、特ニ安イ價格ヲ以テ配リ、或ハ貸賣ヲシ、或ハ只デ拂下ゲルト云フ途ヲ開イテ置カズニ、貸賣ハ今日カラ罷リナラヌト云フコトニナツタラ、恐ラク日本ニハ飢饉闘争ガ起ル危險性ガ相當ニ方々ニアルト云フコトヲ吾々ハ考ヘマスガ、此ノ點ニ付テ、農林省ノ會テ有馬案ニハ斯ノ如キ用意ガアツタニ拘ラズ、今回ソレヲ除カレマシタ所以ハドウデアルカ、有馬案ト申シサレタ案デハナクシテ、昨年ノ八月頃政府ガ米穀會社法トシテ考ヘマシタ最初ノ案ニハ、此ノ點マデ考慮ガ拂ハレテ居ッタノデ

アリマスガ、此ノ點ニ付テノ政府ノ用意ヲナゼ缺カレタカ、ドウヤツテ之ニ適應サレルカト云フ點ニ付キマシテ、私ハ農林大臣ノ御答辯ヲ得テ置キタイト考ヘルノデゴザイマス

次ニ私ガ問ヒタイ點ハ、此ノ問題ガ一番ノ中心問題デアル、即チ何ト云フテモ戰時農業政策ノ根本ハ増產政策、食糧ノ供給ヲ確保スルコトガ第一デアル、萬一不足シタ時ノ用意ニ今回提出サレマシタ法案ガアルノデアリマスルカラシテ、何ト云フタツテ農林水產物ノ生産ヲ確保シマスルコトガ、私ハ農業政策ノ是ハ中心問題デアルト考ヘルノデゴザイマス、然ルニ日本ノ農村ニハ、農林大臣自カラモ言ハレテ居リマスルガ如ク、自然ノ儘ニ放任シテ置キマスルナラバ、段々ト減產ヲ來ス所ノ逆條件ガ野ニモ山ニモ滿チテ居ルノデゴザイマス、即チ勞力ノ不足ハ單ニ應召者ダケノ勞力不足デハナイ、日本ノ産業ガ輕工業カラ重工業竝ニ化學工業ニ移リマシタ結果ハ「フレッシュ」ナ、新鮮ナル農村ノ中心勞働力ヲ永久的ニ都會ニ奪ヒツツアリマシテ、農村ノ勞働力不足ハ單ニ數ガ不足スルノミデハナクシテ、質的ナ貧困ヲ來シテ居ルト云フコトヲ吾々ハ考ヘルノデゴザイマス(拍手)此ノ勞力ノ大不足ト云フ逆條件ヲ克服シ、之ニ加フルニ畜力ノ不足、畜力ノ不足ハ農業勞力ヲ不足サセタダケデナク自給肥料ヲ不足サセルノデアル、更ニ機械ノ供給ガ不十分デアリ、肥料ノ供給ガ不十分デアル、有機

質ノ肥料ハ値段ガ非常ニ暴騰シテ居ルト云フヤウナ、色々ナ逆ノ條件ガ揃ツテ居リマスルノニ加ヘマシテ、吉植君モ指摘サレマシタガ三年ノ間豐作ガ續キマシタ結果、日本ノ地力ハ非常ニ掠奪サレテ居リマスカラ、從來三年モ豐作ガ續イタ後ハ必ず短期的ニ凶作ガ來ルト云フ危險ナル逆條件ガアル、此ノ歴史ノ示ス逆條件ガ揃ツテ居ルト云フ時ニ、平年作ヲ目標トスルノデナクシテ、平年作ヨリモ米ニ於テ四百万石、小麦ニ於テ百万石、其ノ他軍需、民需、輸出、總テノ農產品ニ互ツテ全面的ナ大増產ノ計畫ヲ爲サシメヨウトスル農林省ノ意氣込ニ對シテハ、國民全體ハ欣然之ニ協力スルニ各力デナイケレドモ、實際ニ於テ此ノ逆條件ヲ克服シテ、サウシテ此ノ増產計畫ヲ實現スルト云フコトニ付テハ、今農林省ノ考ヘテ居ラレル政策ノミヲ以テ致シマシテハ、私ハ實ニ困難デアルト云フコトヲ考ヘザルヲ得ナイノデゴザイマス、此ノ點ニ付テノ用意ガ十分デナイナラバ、私ハ日本ノ、此ノ持タザル國ト致シマシテ、併シナガラ食糧ダケハ心配ガナイト云フ強味ガ戰争ノ眞最中ニ駄目ニナルト云フコトニナリマスルナラバ、是ハ重大ナル問題デアル、此ノ點ニ付テ私ハ農林省ノ持ツテ居ラレマス其ノ増產政策ニ付キマシテハ、多クノ人ガ之ニ觸レラレナカッタノデアリマスガ、私ハ非常ナ危險性ヲ感じテ居ルノデゴザイマス、一體農林省ハドウヤツテ此ノ逆條件ノ下ニ於テ増產ヲ實現ナサレヨウトシテ居

ラレルノデアルカト申シマスナラバ、今米ニ於テ四百万石、小麦ニ於テ百万石、其ノ他全面的ナ増産デゴザイマスガ、而モ其ノ全面的ナル増産ヲドウヤツテヤルカ、農林省ノ發表サレマシタ其ノ増産案ニ依リマスルト云フト、第一ハ肥料其ノ他ノ生産資材ノ配給、勞力ノ移動調整施設等ト相俟チテ、技術的指導ニ依ツテ反當リ收量ノ増加ヲ圖リ、本目的ヲ達成セントシテ居ラレルノデゴザイマス、即チ農林省ノ機軸ハドウヤツテヤルカト云ツテ聽キマスルト云フト、機械ト肥料ヲ配給スル、其ノ上技術指導デ以テ増産ヲ實現シヨウトシテ居ラレルノデアリマス、農林省ノ今日マデノ増産ノ政策ハ、常ニ技術指導ノ政策デアツテ、御承知ノ通り日本ノ農業政策ニ於キマシテハ農林省ガ補助金ト助成金ヲ出サレマシテ、農事試験場、農會、縣ノ技術員、産業組合等ガ其ノ指導ノ尖端部隊トナリマシテ、指導ニ依ツテ、補助金デ以テ日本ノ生産ヲ擧ゲテ來ラレタノガ今日マデノ農林省ノ傳統的政策デアツタノデゴザイマス、日本ノ農村ハ御承知ノ通り五反百姓、一町百姓、非常ナ零細農ガ數百万人農村ニ雲集シテ居ルノデアリマス、此ノ微力ナル農民ガ指導ト助成ヲ俟タズシテ増産ヲ爲スコトガ出來ナイコトハ、是ハ當然ナ話デアリマス、隨テ私ハ農林省ノ傳統ノ増産計畫、技術的指導ト、助成金ニ依ル其ノ助長政策ト云フモノニ對シマシテハ、今日モマダ存在意義ガアルト考ヘルノデアリマスケレドモ、今日マデ此ノ指導

増産計畫ガ成功致シマシタモウ一ツノ魔力ハ何デアアルカト言ヘバ、價格引上政策デアウタノデアリマス、農林省ハ右手ニハ補助金政策ヲ伴フ指導行政ヲ行ヒ、技術指導ヲ行ヒ、左手デハ農産物ノ價格吊上政策ヲ行ハレマシテ、此ノ指導政策ト補助金政策ト價格政府トニ依ツテ、日本ノ農業ヲ維持シテ來ラレタノデゴザイマス、然ルニ日本ノ農業ハ、今日最早高價格政策ヲ維持スルコトガ出來ナイ段階ニ入ツタノデアアル、平野君モ申サレマシタガ、有馬前農林大臣ガ、農村出身ノ委員ノ猛烈ナル反對アルニ拘ラズ、昭和十四年度ノ米穀ニ付キマシテ最高價格ヲ據置カレタノデゴザイマス、私共ハ當然ナ話デアルト思ヒマス、今日日本ノ國ニ於キマシテ物價ヲ維持スルカ、然ラザレバ抑制スルカ、之ヲ引下ゲナケレバナラス段階段ヲ、今日高米價政策ヲ以テ増産シヨウト云フコトハ、日本ノ戰時下ノ要求ガ之ヲ許サナイノデアアルカラ、今マデ農林省ガ行ハレマシタ價格政策ト云フモノガ駄目ニナツタノデアリマス、高價格政策、現在ノ經濟機構ニ於テ、儲カルト云フコト位生産ヲ刺戟スル要素ハナイノデアリマス、價格ヲ吊上ゲルト云フコトガ、即チ生産増加ノ推進力デアアル、此ノ推進力ガ今日之ヲ使フコトガ出來ナイ、寧ろ値段引下ゲナケレバナラナイト云フ條件ノ下ニ於テ勞力モ費用モ何モ彼モ足ラナイ所デ、米ハ四百万石殖ヤセ、小麦ハ百万石殖ヤセト言ツタツテ、是

ダケノ事デ殖エルト考ヘラレマシタナラバ、私ハ農林省ノ心藏ハ「トーチカ」ヨリモモツト甚シク強大ナルモノデアルト考ヘザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)私共ハ之ヲ支持シテ贊成ヲ致シマスケレドモ、今日斯ノ如キ逆條件ノ下ニ於テ農業生産力ヲ全面的ニ増産サレヨウト爲サルナラバ、價格政策ガ伴ハナイト云フナラバ、別ノ工夫ヲ農林省ニ於テオヤリニナルニアラズンバ、畫ニ描イタ牡丹餅、官僚ガ机上ニ於テ考ヘマシタ「ペーパー・プラン」トシテハ、麻カラ、小麦カラ、米カラ全面的増産ハ紙ノ上ニ出來ルカモ知レヌガ、今年ノ秋ニ於テハ日本ノ國ハ全面的減産ニ脅カサレナケレバナラスト云フ危險性ガアルト云フコトヲ、農林大臣ハ深く御考ニナラナケレバナラスト思フノデアリマス(拍手)唯吾々ハ單ニ難カシイ、難カシイト言ツテ脅カスダケデハナイ、吾々ニハ吾々ノ政策ガアルカラ是カラ後デ之ヲオヤリニナツタラドウカト云フコトヲ申上ゲタイノデアリマスケレドモ、要スルニ今日農林省ガ傳統的ニヤツテ居ラレマス技術指導ダケデ増産セラレヤウト云フコトハ、實ニ無理デアリマス、サウデハナクシテ、此ノ増産ヲヤル爲ニハ今日ヨリモ値段引下ゲテモ農民モ引合フシ、消費者モ喜ブト云フ——農業機構ノ不合理性ニ對シマシテ其ノ根本ニ向ツテ「メス」ヲ入レル革新政策ヲ行ハナケレバ、増産計畫ハ實現サレナイト云フコトヲ私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)然ラバ農業ニ於ケル革新政策トハ何デア

ルカ、私ハ日本ノ農業ハ、今回ノ事變ヲ契機ト致シマシテ、其ノ基礎ニ於テ變革ヲ來シタト考ヘテ居ルノデゴザイマス、御承知ノ通り我國農業ノ今日マデノ特徴ハ、土地飢饉ト云フ言葉デ呼バレテ居リマスガ如ク、非常ニ狭小ナル耕地ヲ耕シマシテ、ソコニ過剩勞力ガウヨ／＼トシテ居ツタト云フノガ今日マデノ日本ノ農業ノ特質ナノデアリマス、土地ガ足りナクテ人ガ多過ギルト云フコトガ、今日マデ日本ノ農業ヲ規定シテ居ツタ所ノ性質デアツタノデアリマス、然ルニ今日ハ人ガ足ラナイト云フ性質ニ變ツテ來タ、今マデハ土地ヲ尊重スルダケデ、勞力ヲ只ニ見タ——只ニ見ナクトモ非常ニ安ク見タノデアアル、隨テ或ル耕地ヲ耕シマス上ニ、改良農具ヲ入レマスナラバ確ニ増産ガ出來ルト考ヘテ見テモ、改良農具ヲ入レル代リニ人間ノ勞力、血ト汗ヲ切り刻ムコトニ依ツテ、機械ヲ入レズニ作ツテ居ツタ、汗ト脂ヲ農業ガ今日マデノ日本ノ農業デアツタト私ハ考ヘテ居ルノデゴザイマス、然ルニ事變ヲ契機ト致シマシテ、今マデノ如キ「單位面積ノ收穫ヲ殖ヤス」コトノミヲ考ヘル政策カラ「單位勞働ニ對スル生産力ヲ如何ニシテ上ゲルカ」ト云フ段階ニ入ツテ來テ居ルノデアリマス、即チ人ノ勞力ガ今マデハ安ク使ハレテ居ツタノヲ、相當ニ高イ勞力ヲ使フ爲ニハ「單位勞働力當リノ生産力」ヲ如何ニシテ引上ゲルカト云フコトガ、今日日本農業ニ與ヘラレテ居ル一ツノ條件ナノデアリマス、之ヲヤリマス爲ニハ、

土地制度ヲ改革シナケレバ出來ナイノデア
リマス、土地制度ヲ改革シテ單位勞働力當
リノ生産力ヲ引上ゲ、土地ノ生産力ヲ引上
ゲ、更ニ農業内部ニ持つテ居ル不合理性カ
ラ來ル所ノ高生産費ノ切下ゲヲ斷乎トシ
テヤラナケレバ、増産計畫ガ行ハレナイト
云フ段階ニ入ツテ居ルト私ハ考ヘル者デゴ
ザイマス、私ハ此ノ點ニ付テ、土地ノ國家
管理ヲ政府ハ今日即行スル意思ハナイカト
云フコトヲ承リタイト考ヘルノデアリマス、
土地ノ國家管理トハ一體何デアルカ、電力
國家管理法ニ現ハレタ所ノ理念ト同ジデゴ
ザイマス、今日日本ノ土地制度ガドウナツ
テ居ルカト申シマスナラバ——吾々ハ土地
ノ國有ハ今日間ニ合ハナイト考ヘル、土地
制度ノ改革ノ爲ニハ二ツノ案ガ今日マデ用
意サレテ居ルノデアリマス、一ツハ所謂社
會主義ノ陣營ニ唱ヘラレテ居ル所ノ土地ノ
國有政策デアリマス、モウ一ツハ全耕地ノ
自作農化政策デアリマス、此ノ二ツノ政策
ハ、土地制度改革ノ政策ト致シマシテハ二
ツノ大キナ政策デアルニ違ヒナイケレド
モ、今日戰時ノ急場ニ間ニ合セマス爲ニハ、
此ノ二ツノ政策トモ急ノ需メニ應ズルコト
ガ出來ナイノデアリマス、是ニ於テ土地ノ所
有權ハ其ノ儘ニスルガ 陛下カラ預リマシ
タ日本ノ土地ヲ本當ニ役ニ立ツヤウニ、生
産力ヲ上ゲル爲ニ個人ノ所有權ノ濫用ヲ防
イデ、國家ガ公益的ニ之ヲ管理スルノ制度
ヲ作ルコトガ、今日ノ段階ニ於ケル増産政
策ノ第一歩ナリト私ハ考ヘルノデアリマス

〔所有權ノ否認カ、怪シカラス〕ト呼
ビ其ノ他發言スル者多シ
○副議長(金光庸天君) 靜肅ニ願ヒマス
○三宅正一君(續) 私ハ土地ノ國家管理ノ
問題ニ付キマシテ、五六ノ問題ヲ指摘致シ
マシテ農林大臣ノ所見ヲ伺ヒタイト思フノ
デゴザイマス、第一ハ我國ノ耕地ハ一戸當
リノ耕作面積ガ非常ニ狭小デアリマス、五
反百姓、三反百姓ハ日本ノ農家ノ中ニ於キ
マシテ相當多數ヲ占メテ居ルノデゴザイマ
スケレドモ、此ノ五反百姓、三反百姓ノ土
地ガ又飛ビノニ離レテ居リマシテ、村ノ
内外ニ互リマシテ非常ニ飛ビノニ離レテ
作ラサレテ居ルノデアリマス、全國ノ租稅
ヲ拂ツテ居リマス有租地ガ五百八十萬町歩
アルノデゴザイマスガ、ソレガ筆數ニ於キ
マシテ九千四百萬筆ニナツテ居ルノデアリ
マス、一筆ノ面積ガ僅カニ六畝デゴザイマ
ス、隨テ僅カ五反位シカ作ツテ居リマセヌ
所ノ農家ガ、ソレガ平均ヲ致シマスルト、
村ノ内外ニ互ツテ猫ノ額ノヤウナ土地ヲ十
六筆ニ分ケテ耕作シテ居ルノデアリマス、
ダカラシテ朝ハ半里先ノ向フノ村ニ行ツテ
猫ノ額ノヤウナ所ヲ耕シ、夕方ニハ又向フ
ノ部落ニ行ツテ猫ノ額ノヤウナ所ヲ耕ス、
サウ云フ不經濟ノコトヲヤツテ居ルノデゴ
ザイマシテ、是ガ即チ農業ノ機械化ヲ阻止
シテ參リマシタ所ノ原因ナノデゴザイマス、
日本ノ農業ノ機械化ヲヤラナケレバナラス
共同化ヲヤラナケレバイカスト云フ叫ビハ
數十年前カラ現ハレテ居ルケレドモ、コン

ナ小サナ土地ヲ飛ビノニ作ツテ居ツテ何
ガ機械化デアアル、即チ勞力拂底ノ爲ニ機械
化ヲヤリマス爲ニハ、耕地ノ交換分合ヲヤ
リマスコトガ極メテ適切ナコトデアルト思
フノデアリマス、今日若シ耕地ヲ交換分
合シテ一所ニ纏メマスカラバ、之ニ依ツテ
平地地帯ニ於テハ一反歩ニ一日半ノ勞力ヲ
節約出來ルト言ツテ居ルノデアリマス、山
間地帯ニ於キマシテハ、耕地ノ交換分合ヲ
斷行スルコトニ依ツテ、一反ニ一日、三日ノ
勞力ヲ節約スルコトガ出來ルト言ツテ居ル
ノデゴザイマス、全國ニ六百萬町歩ノ耕地
ガアルノデアリマス、若シ之ヲ完全ニ交換
分合致シマシタコトニ依ツテ、假ニ一反ニ
付テ一日ノ勞力ガ節約出來ルト致シマスナ
ラバ、六千萬日ノ勞力ノ節約ガ此ノ一ツノ
政策ニ依ツテ出來ルト云フコトヲ考ヘマス
時ニ於テ、是ハ税金ノ免稅ニ依ツテ獎勵ス
ル必要モアル、政府ハ現ニ今回ノ増稅案ニ
於キマシテ、土地ノ交換分合ヲヤル際ニ於
ケル登録稅ヲ免除スルト云フ旨ノ規定ヲシ
テ居ラレマスガ、登録稅ノ免除ダケデハ足
ラナイノデアリマス、不動産取得稅ノ免除
ヲモヤラナケレバナラナイノデゴザイマシ
テ、不動産取得稅ノ免除ニ付テ如何ナル用
意ガアルカト云フコトニ付キマシテ、私ハ
農林大臣ニ伺ヒタイノデアリマス、而モ單
ニ免稅ヲヤツテ之ヲ獎勵スルダケデハナシ
ニ、積極的ニ耕地ノ交換分合ヲ勸メマス爲
ニハ、國家公益上必要ガアル場合ニハ、耕
地ノ交換分合ヲ命ジ得ルト云フ土地國家管

理ノ法律ヲ、單行法トシテ出スコトガ必要
デアルト云フコトヲ、私ハ第一ニ申上ゲタ
イノデアリマス、所有權ノ否認デモ何デモ
ゴザイマセヌカラシテ、此ノ點ニ付テ若シ
誤解ガアリマスルナラバ、能ク御聽ヲ願ヒ
タイト考ヘルノデアリマス
第二ニ私ハ日本ノ土地制度ニ於テ最モ大
キナ生産力ヲ阻礙シテ居リマスル所ノ原因
ハ、何ト申シマシテモ平野君ガ申サレマシ
タ通り、高額小作料ト地價ガ高過ギルト云
フ問題ナノデゴザイマス、是モ實例ニ付テ
申上ゲマスルナラバ、統計ニ依リマスレバ
自作農ノ農業用財産中、七割七分六厘ハ土
地財産デアリマス、隨テ農具デアルトカ、
家畜デアルトカニ使ヒ得マスル所ノ財産ト
云フモノハ、僅ニ二割二分四厘シカナイノ
デアリマス、斯ノ如ク致シマシテ土地ガ高
イ爲ニ自作農ニナラウト致シマスレバ、
自作農ハ借金ヲシナケレバナラナイ、斯ク
シテ借金ヲ致シマシタ時ニ、自作農創定ノ
借金デ苦シムカ、然ラザレバ高利貸ノ借金
デ苦シムト云フコトニナツテ、土地ヲ買フ
ダケニ全力ヲ擧ゲマシテ、農事改良ノ爲ニ
注込ム費用ト云フモノハ殆ドナイ、是ガ非
常ニ生産力ヲ阻礙シテ居リマスルコトハ申
スマデモナイ所ナノデゴザイマス、斯ノ如ク
致シマシテ自作農ハ資本ノ大部分ヲ土地購
入ニ奪ハレ、常ニ災害ニ脅カサレ、負債ニ
悩マサレテ、生産力増大ノ爲ニ、經營改善ノ
爲ニ新シキ投資ヲ行フ餘地ヲ持タナイト云
フノガ、日本農業ニ於ケル特質ナノデゴザ

イマス、小作農ニ付テ申上ゲマスルナラバ、帝國農會ノ調ニ依リマシテモ、小作農ノ農業經營費ノ五割五分ガ、小作料デアリマシテ、二割弱ガ肥料デアリマス、五分ガ飼料デアリマス、五割五分ノ小作料ヲ取ラレテ居ツテ、而モ實際耕作スル反別ハ一町ニ足ラナイト云フ農民デハ、米ヲ作りナガラ米ヲ食フコトモ出來ナイト云フ狀態ノ下ニ陥レラレルノハ當然デゴザイマス、況ヤ改良農具ヲ買ツタリ、新シキ農業ノ知識ヲ持込シナガラ農民モ引合ヒ、一般モ助カルト云フ方策ヲ執リマス爲ニハ、何ト言ツテモ今日此ノ小作料ヲモット下ゲ、土地ノ値段ヲモット下ゲルコトガ、根本條件デアルコトハ申スマデモナイ所デゴザイマス、而モ政府ハ國策トシテ自作農創定政策ヲヤツテ居ラレマシテ、其ノ金ヲ相當豫算トシテ要求セラレテ居ルノデアリマスケレドモ、斯ノ如ク土地ガ上ツテ行ツタノデハ、自作農創定ハ出來マセヌ、今日勸業銀行ノ調査ニ依リマシテモ、土地ノ値段ハ又上ツテ來テ居ルノデアリマス、小作料モ上ツテ來テ居ル、十三年ニ入リマシテ土地ノ値段モ上リ、小作料モ上ツテ居ル、昭和七年以來土地ノ値段ハズツト上ツテ、一遍モ下ツタコトハナイ、小作料モ最近徐々ナガラズツト上ツテ居ルト云フコトハ、益々農村内部ニ於テ農業改革ノ必要ヲ痛感セシムルモノデアリマシテ、此ノ痛イ所ノ病根ニ觸レルコトヲ

避ケテ、補助金デ獎勵ダケシテ胡麻化サウト云フ、サウ云フ根性ヲ以テ致シマシテハ、今日ノ重大ナル日本農業ハ斷ジテ増産政策ヲ實現スルコトハ出來ナイト思フノデアリマス、今日ハ御承知ノ通り最早自由主義ノ經濟ハ去ツタノデアリマス、特ニ弱イ部面デアリ農業ニアリマシテハ、バラ／＼デ米ヲ賣ツテ居ツタノデハ、迎モ米屋ニヤラレテイカナイト云フコトデ、政府ハ八億數千萬圓ノ金ヲ取ツテ米穀自治管理法ヲ作り、米穀統制法ヲ作りマシテ、チャント米ノ値段ヲ生産費ト生計費デ保護シテ居ラレル、肥料會社ガ橫暴シテハイケナイカラト云フノデ肥料統制ノ法律ヲ作ツテ、肥料ガ高クナラヌヤウニ農民ヲ保護シテ居ラレル、既ニ農村全體ニ對シテ自由主義經濟ノ原則ヲ拋棄シテ、米穀政策ニ於テ農民ヲ價格政策デ保護シ、肥料政策デ保護シテ居ルナラバ、農村内部ニ於ケル土地ノ關係ダケヲ自由放任ニ委セテ置イデ、小作料ハ上リ放題、地價ハ上リ放題トシテ置クト云フコトハ、地主ノ爲ニハ國家ハ骨ヲ折ルケレドモ、小作人ノ爲ニハ勝手ニ抛ツテ置クト云フ感ジヲ農民ニ持タレテモ、私ハ已ムヲ得ナイ今日マデノ行キ方デアツタト考ヘザルヲ得ナイノデアリマス、私ハ斯ウ云フヤウナ點ニ付キマシテ、政府ガ土地ノ國家管理ヲ斷行サレマスルコトニ依ツテ、米穀ノ値段ヲ公定サレマスルト同ジヤウニ、小作料ニ付テモ、地價ニ付キマシテモ、是ガ地主ニモ小作ニモ一番好イコトデアリ、何ヨリモカニヨリ

モ生産力増大ノ爲ニハ、此ノ程度ニ小作料ヲ抑ヘナケレバイケナイト云フ標準ヲ御作リニナリマシテ、之ヲ以テ小作爭議等ガ起キナクとも、農民モ其ノ増ニ安シジテ生産力ヲ増大シ得ル途ノ開カレマスルコトハ、私ハ經濟ノ事ニ詳シイ櫻内農林大臣ガ、本當ニ自分ノ立場ヲ離レテ御考ニナリマスルナラバ、當リ前ノ話デアツテ、斯ウ云フ聲ガ議會ニ聞エナイ所ニ議會轉落ノ姿ガアルト云フコトヲ、能ク御考ヲ願ヒタイト考ヘリノデアリマス、此ノ點ニ付テハ單ニ土地ノ問題ダケデハナイ、山林ニ付テモ其ノ通リデゴザイマス、御承知ノ通り炭ノ値段ガ上ツテハナラヌト云ツテ、木炭ノ最高價格ヲ御決メニナツタ、然ルニ山ノ原木ハ二倍ニナリ三倍ニナツタ、炭ノ値段ハ抑ヘラレテ山ノ木ノ値段ダケハ三倍ニナツタ一體誰ガ損ヲスル、間デ作りマス炭焼ト配給業者ガ損ヲスルノデアルガ、ソレ等ハ弱小連中デアルカラ抛ツテ置イデ宜シイト云フ、コシナ皇道主義ガアリ全體主義ガアルナラバ、私ハ開キ直ツテ御目ニ懸リタイト思フノデアリマス、斯ウ云フ風ニ山林ノ問題ニ付キマシテモ土地管理ヲ行ヒマシテ、國家ガ山林ノ木ノ値段ニ付テモ、炭ノ値段ニ付テモ、勞働賃銀ニ付テモ各、正シキ所ニ之ヲ統制スルト云フ本當ノ公平性ヲ徹底サレマスル爲ニ、國家管理ガ必要ナリト考ヘルノデゴザイマス、而モ私ハ更ニ此ノ點ニ付テ御聽シタイノデゴザイマスルガ、今日貧農ハ牧草地ヲ持タナイノデアリマス、政府ハ馬ヲ飼ヘ／＼ト獎メマ

スルケレドモ、草刈場ヲ持タナイ貧農ニハ馬ハ飼ヘナイノデアリマス、自給肥料ヲ作ル爲ニモ馬ヲ飼フ爲ニモ、部落ニハ貧農ト雖モ入レル何箇所カノ草刈場ヲ開放シテヤルコトガ、馬ノ増産デアリ、農民生活ノ安定デアアルノデアリマス、然ルニ今日所有權ガ偏ツテ、今マデ入會ノ慣例デ殘ツテ居ツタモノスラ取ラレテシマツテ、農民ニ草刈場ノナイト云フ狀態デアアル、政府ハ土地ノ國家管理ヲスルコトニ依ツテ必要ナル草刈場ヲ開放シ、馬ヲ飼ハセ肥料ヲ作ラセル途ヲ講ゼラレル必要ガアルト存ズルノデアリマス

更ニ私ハ日本農業ノ土地問題ニ絡ミマシテ、日本農業ノ重大ナル危機ニ付テ申上ゲタイト考ヘルノデアリマス、御承知ノ通り日本ノ農業ハ今日マデト雖モ農林省ノ統計ニ現ハレテ居リマスル如ク、兼業農家ガ多カツタノデアリマス、副業ニヤツテ居ル所ノ兼業農家デアリマス、然ルニ今日マデ日本ノ國ニ於テ三割ノ兼業農家ガアツタノデゴザイマスルガ、最近軍需工業ノ殷盛ニ伴ヒマシテ、親父ハ工場ニ出テ働キ、中心勞働力ハ工場ニ出テ働キマシテ、家ニ殘ツタ者ハ僅カノ土地ヲ細君ト年寄トデ耕シマシテ、土地ノ生産力ヲ考ヘルノデハナイ、飯米サヘ入レバ宜シイ、野菜サヘ穫レバ宜シイト云フ農業副業化ノ傾向ガ、非常ニ深刻ニナツテ參リマシタコトハ、全面的増産計畫ノ見地ニ立ツテ考ヘテ、洵ニ遺憾ノ次第デアアルト考ヘザルヲ得ナイノデアリマス、

即チ親父ガ中心ニナツテ家ノ土地ヲ耕スト云フコトデナケレバ、新シイ肥料ヲ入レルコトモ出來ナイ、^何新シイ肥料ヲ入レルコトモ出來ナイ、斯ウ云フ副業農家ガ殖エテ來ルト云フコトハ、日本農業ノ生産力ガ衰ヘルト云フコトデアルノデゴザイマス、隨テ私ハ出來ルダケ日本ノ國ニ於テ三反百姓、五反百姓ヲ減サナケレバ、イカナイと思フノデアリマス、一方ニ於テハ小作料ヲ下ゲテ引合フヤウニシテヤル、一方ニ於キマシテハ三反百姓、五反百姓ヲ一町五反ナリ二町ト云フヤウナ適正規模ノ農家ニ改メテ、副業デ百姓ヲヤルト云フ者ヲ少クスルヤウニシナケレバ、日本農業ハ非常ナル危機ニ當面スルト云フコトヲ考ヘルノデゴザイマスルガ、斯ウ云フ點ハ即チ農業ノ生産ノ計畫化ト共ニ、土地ニ付テノ計畫化ヲ考ヘラレマシテ、滿洲ニ移民ガ出ルナラバ、其ノ移民ヲ出スノハ耕地狹小ノ地帯カラ移民ヲ出スト云フヤウナ方途ニ依リマシテ、政府ハ適正ナル規模ノ農家ヲ作ラシテ、サウシテ農民ニ一定ノ土地ヲ保障スル、サウシテ副業農家ヲ出來ルダケ減ス途ヲ講ゼラレマスコトハ、一ハ人心ヲ安定セシムル上ニ於テモ、一ハ農業生産力ヲ増進スル上ニ於テモ必要ナリト考ヘルノデゴザイマスルガ、之ヲヤリマス上ニ於テモ、政府ガ公益ノ爲ニハ土地ノ所有權ニ付テ命令ヲ發シテ、公ノ利益ノ爲ニ命令ヲ發シ得ル土地國家管理ノ法制ヲ伴ハザレバ、私ハ出來ナイト考ヘルノデゴザイマシテ、此ノ點ニ付テモ私ハ土地國家管理ヲオヤリニナ

ル必要ガアルト考ヘテ居ルノデアリマス更ニ私ガ考ヘナケレバナラヌト思ヒマスル點ハ、農具ノ共同利用ノ問題デゴザイマス、今日マデ日本ノ國ニ於テ農業ノ機械化ノ行ハレナカツタノハドウ云フ譯デアルカ、土地ガバラ／＼デアツタカラデアル、所有權ノ關係ニ於テモ、耕作ノ關係ニ於テモ土地ガバラバラデアツタカラデアリマス、土地制度ノ不合理、土地集中ノ困難、土地改良ノ困難、耕作權ノ不安等ガ今日マデ農業ノ共同化ヲ阻碍シテ參ツタノデアリマス、隨テ現在改良農具ヲ利用シテ居リマスル率ハ非常ニ少イノデアリマス、僅カニ改良農具ヲ持ツテ居リマスノハ金持ノ百姓、富農デアリマストカ、地主デアリマストカ、商人ガ持ツテ居ルノデアリマシテ、自分デ使ツテ、アトハ之ヲ利用料ヲ取りマシテ賃貸サセテ居ルノデアリマス、改良農具ノ共同利用ト云フヤウナコトハ非常ニ少イノデアリマスルガ、私ハ政府ハ一面ニ於キマシテ鐵其ノ他ノ配給ヲ完全ニスルコトニ依ツテ、農民ニ農具ヲ保障スルト共ニ、鐵其ノ他ノ資材ノ不足致シマシタ際ニ於テ、此ノ際農具ノ國勢調査ヲ斷行サレマシテ、即チ農具ノ「センサス」ヲ斷行サレマシテ、サウシテ何處ニ改良農具ガドレダケアルカト云フコトヲ限ナク調べラレマシテ、之ヲ共同ノ利用ノ爲ニ提供セラレルコトニ依ツテ農業ノ生産力ヲ擧ゲルト共ニ、一方ニ於キマシテハ國家ガ鐵ヲ浪費スルコトヲ防グヤウニナサイマスコトガ最モ適切ナルコトト考ヘルノデアリマ

シテ、土地制度ノ改革ニ絡ンデ、私ハ農具ノ國勢調査ヲ斷行サレ、之ヲ共同的ニ利用サセルノ途ヲ考ヘラレテ居ルカドウカト云フコトニ付テ御伺フシタイト思フノデゴザイマス更ニ地主制度ノ不合理ガ日本ノ農業ノ増産ノ上ニ非常ナル暗影ヲ與ヘテ居リマスル一ツハ、所謂今日ノ小作關係カラ來マス所ノ品種ノ關係デアリマス、御承知ノ通り日本ノ農業ハ、第一ノ特徴ハ非常ニ小作物ガ高イト云フコトデアル、第二ノ特徴ハ物納小作物デアルト云フコトデアリマス、隨テ地主ハ米ヲ取りマスノデ、米ノ値段ガ安イカ高イカト云フコトハ、地主ノ收入ニ重大ナル關係ガアル、實農民ノ收入ハ飯米ヲ自分デ食フノデアリマスカラ大シタ關係ハナイケレドモ、地主ハ賣ルダケデアリマスカラ、非常ナル關係ガアルノデアリマス、隨テ品種ヲ選定シマス場合ニ於テ、例ヘバ山間地デ以テ、日照日數ガ足ラナク、冷タイ水ガ出ルト云フヤウナ處ニハ、愛國種ノ如キ品種ハ劣等デアルケレドモ、非常ニ強イ品種ヲ植エサセナケレバイケナイノデアリマス、所ガ愛國種ヲ一石小作物ヲ取ツタツテ、値段ガ安イ、農林一號ヲ作ラシテ取ルナラバ、一石ニ付テ二圓三圓モ違フ、ソコデ今日ノ不合理ナ小作制度ハ、獎勵米、罰米ノ制度ニ依リマシテ、其ノ土地デ穫レナイ獎勵品種ヲ植エサセマス結果、山間地帯等ニ於テハ違作ガ非常ニ多イノデアリマス、隨テ私ハ斯ノ如キコトガナイヤウニ一方米穀ノ検査ヲ國營ニ致シマスルト共ニ、

一方ニ於キマシテハ、品種ノ獎勵ハ市場價値——米トシテ賣ツテ儲カルカ儲カラヌカト云フコトデナシニ、其ノ土地ニ適シタ多收穫ヲ目標ニ致シマシタ適地多收穫主義ニ轉換サセルコトガ必要デアルト考ヘルノデアリマス（拍手）是亦土地ノ國家管理ニ伴ヒマシテ、其處ニ作リマス品種等ニ付テモ、農事試驗場、農會等ガ公益ノ見地ニ立ツテ此處ニハ之ヲ作ラセルガ宜シイト云フ指導ト管理ヲ爲サイマスコトハ、非常時ノ狀態ノ下ニ於テ極メテ適切ナリト考ヘルノデアリマス、斯ノ如キ諸點ヲ考ヘマスル時ニ於テ、土地國有ハ問題ニナラス、今日ノ急ニ間ニ合ハス、全部ノ農民ヲ自作農ニスルト云フコトモ間ニ合ハナイトスルナラバ、ドウシテモ土地國家管理ノ原則ニ依リマシテ、陛下ヨリ御預リシマシタ日本ノ土地ヲ、生産力擴充、公益ノ目的ノ爲ニ使ハセルコトガ、極メテ必要デアルト考ヘルノデアリマス更ニ私ハ御伺致シタイ點ハ是モ土地ノ國家管理ト關係ヲ致シマスケレドモ、今日農林省ノ計畫ニ依レバ、四百萬石ノ増産ト云フモノハ本年ノコトデアアル、ダカラ耕地ヲ擴ゲルコトハ間ニ合ハナイカラ、反當リノ收穫ヲ殖ヤサウト云フ政策ヲ採ツテ居ラレル、洵ニ御尤ノコトデアルト思ヒマス、併シナガラ一面耕地ハ殖エテ居ラナイデ、軍需工業ノ爲ニ却テ潰レテ居ル現狀デアアル、アトラ美田ガ軍需工場ノ爲ニ潰サレテシマツテ、其處カ

ラ毒水、汚水ガ流レルコトニ依ツテ農業生産力ガ非常ニ阻碍サレテ居ル、今日軍需工業ガ行キマス狙ヒ所ハ、工業立地ノ見地ニ立ツテ、水ノ宜シイ土地ノ安イ、勞働力ノ安イ所ヘドツト軍需工業ガ流レテ行ツテ居ル、ソコニ農業立地ノ見地カラ致シマス所ノ土地ノ保護ニ對スル政策ガ缺ケテ居リマスルガ故ニ、山ノ上ニ造ツテモ宜シイ軍需工業ヲ、或ハ安イ原野ガ其處ニ在ルニ拘ラズ、此ノ山、原野ヲ使ハナイデ、美田ヲ潰シテ居ルト云フガ如キコトニ對シテハ、生産力確保ト土地愛護ノ見地カラ、政府ハ土地ノ國家管理ヲ致シマスル共ニ、工場ニ依ツテ耕地ガ害ヲ被ラナイヤウニ、同じ工場ヲ造ルトシテモ、良イ田畑ヲ潰サナイヤウニ、其ノ他ノ原野ヲ使ハセルヤウニ公益的管理ヲ行フコトガ極メテ適切ナリト考ヘルノデアリマスガ、之ニ對スル農林大臣ノ御考ハ如何デアアルカ伺ヒタイノデアリマス、最近農村ニ於キマシテハ、工場ノ汚毒水問題ニ依ツテ、非常ナ害ヲ被ツテ居ル現狀デアリマス、吾々ハ今日ノ時局ニ鑑ミマシテ工場ノ出來ルコトハ歡迎致シマス、致シマスケレドモ、ソレニ依ツテ、工場ノ汚毒水ノ爲ニ農業ガ困ルト云フコトデハ甚ダ困ルノデアリマスカラ、此ノ點ニ付キマシテ農林省ハ一ツ農地ヲ保護スル見地ニ立ツテ、特別立法ヲ御考ニナル必要ガアルト考ヘルガ、之ニ對スル農相ノ御意見ヲ承リタイト思フノデアリマス

要スルニ今申シマシタコトハ主トシテ土

地ノ國家管理ヲ中心ニシテ、今日ノ不合理ナル小作料ヲ引下ゲ、耕地ノ交換分合ヲヤリ、農具ノ共同利用ヲヤリ、斯ノ如キコトニ依ツテ農產物ノ生産費ヲ引下ゲ、生産力ヲ引上ゲ、土地ノ生産力ト勞働ノ生産力ヲ引下ゲルコトニ依ツテ、農業内部ニ於ケル生産費ノ切下ゲヲ行ハナケレバナラヌノデアルガ、更ニ一方ニ於テ外部ノ條件ニ左右サレマス所ノ「シエーレ」、農產物ト其ノ他ノ品物トノ關係ニ於ケル「シエーレ」ヲ防グ途ヲ講ゼラレナケレバ、米ノ値段ヲ安クシテ増産ヲスルト云フコトハ絕對ニ行ハレナイノデアリマス、生産物ノ「シエーレ」ヲ防グ方策ニ付テ、一體農林大臣及ビ商工大臣ハ如何ナル御用意ヲ御持チニナツテ居ルカヲ私ハ承リタイノデゴザイマス、昨昭和十二年度ノ春一〇〇デアリマシタ農產物——是ハ米、麥、雜等デアリマス食用農產物ガ昭和十二年、事變ノ始マル前ニ一〇〇デアリマシタモノガ、本年ノ一月「ダイヤモン」及ビ三菱經濟調査所ノ調査ニ依レバ、一〇〇デアツタモノガ一〇六ニ値段ガ上ツテ居ルノデアリマス、六ダケ上ツテ居ル、然ルニ農民ガ必需品トシテ買フ所ノ肥料デアルトカ、網デアルトカ、護謨靴デアルトカ云フヤウナ必需品ハ、昭和十二年度ニ一〇〇デアツタモノガ、十四年一月ニハ一五九、七ニナツテ居ルノデアリマス、農產物ノ値上リハ僅ニ六デアツタ、然ルニ農民ノ買フ肥料其ノ他ノ必需品ノ値上リハ五九、七デアツタ、斯ウ云フ狀態ヲ放置シテ置イ

テ、米ノ價格ヲ上ゲテヤルゾト云ツテ増産ヲ勸メラレタツテ、私ハ絕對ニ増産ハ行ハレナイト思フノデアリマス、農民側ニ於キマシテ自ラ自己改革ヲ行ヒマシテ、小作料ヲ下ゲ、土地制度ヲ改革シテ自ラノ不合理ヲ切開シテ出テ來ルト云フ元氣ヲ持ツナラバ、農民ノ外ノ條件ニ對シテハ、農林大臣ハ我國産業ノ健全ナル發達ノ推進力トナル見地ニ立ツテ、其ノ障礙ヲ防ガレル途ヲ講ゼラレマスコトハ當然ダト思フノデアリマスガ、此ノ點ニ付テ一體商工農林兩大臣ハ如何ナル具體案ヲ持タレテ居ルカ、其ノ具體案ニ付テ御伺フ致シタイト考ヘルノデゴザイマス、私ハ農業内部ニ於ケル生産費ノ引下ヲ斷行致シマス共ニ、農業外部ニ於ケル生産費引下ヲ斷行シナケレバイケナイト思フ、ソレニ付テハ、第一ハ肥料價格ノ引下デアリマス、獨逸ニ於キマシテハ、昭和十三年一月ニ遡リマシテ、硫酸其ノ他ノ化學肥料ニ付テ三割乃至二割ニ互リマスル所ノ値下ヲ斷行シテ居ル、ソレハ生産計畫化ニ依ル所ノ、日本ノ農林省ガ計畫シタト同ジモノデアアル、増産計畫ヲ統制的ニ行ヒマス爲ニ、一方ニ於テ其ノ生産費ノ重要ナル部分ヲ占メル肥料ニ付テ、一舉ニ三割以上ノ値下ヲ斷行シタノデゴザイマスルガ、私ハ今日米ノ値段、農產品ノ値段ヲ上ゲズニ豊富ニ生産サセル爲ニハ、此ノ肥料價格ノ引下ヲ御考ニナルコトハ、極メテ適當デアルト考ヘルノデアリマス、單ニ肥料

價格ノ引下ヲ御考ニナルダケデナシニ、肥料ノ割當制ニ付キマシテモ、今日農林省デ御決定ニナツテ居ルダケノ計畫ヲ以テシテハ、私ハ非常ナル違算ヲ來スト思フノデアリマス、農村ヲ御調べニナルト分リマスガ、農村ニ於キマシテハ御承知ノ通り三分ノ一ハ貧農ノ耕地デアリマス、此ノ貧農ノ耕地ハ肥料入レ不足デアリマス、貧乏ノ爲ニ肥料入レ不足ニナツテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ貧農ハ産業組合カラ肥料ヲ取ラズニ、商人カラ取ルノデゴザイマス、春肥ト申シマスガ、元肥——春肥ヲ買ヒマス時ニハ、肥料屋ニ一部ノ金ヲ拂ヒマシテ肥料ヲ借デ以テ持ツテ來ルノデアリマス、夏肥ヲ取リマスル時ニハ現金ヲヤラズニ肥料ヲ持ツテ來ルノデアリマス、サウシテ秋ニ米ガ出來ルト、肥料屋ガ地主ヨリモ先ニ、一番先ニヤツテ參リマシテ、サウシテ検査員ヲ連レテ參リマシテ、米デ肥料代ヲ取ツテ居ル、米デ取引シテ居ルト云フノガ大部分、サウ云フノガ日本ノ貧農階級ニハ非常ニ澤山アルノデゴザイマス、貧農階級ハ勿論肥料知識ガ乏シイノデアリマスカラ、絶對的ニ量ガ不足デアアルバカリデナク、商人ハ此ノ貧農階級ニ對シテドウ云フ賣リ方ヲ致スカト申シマス、自分ガ或ル會社ノ特約店ヲヤツテ居リマシテ、片寄ツタ肥料ヲ賣付ケルノデアリマス、配合肥料ヤ化成肥料ヲ賣付ケル、單肥ハ價格ガ安クテ儲ガ少イカラ、配合肥料ヤ化成肥料ヲ賣付ケル、サウスト硫酸ハ十分土地ニ足ツタケレドモ、

加里トカ過燐酸ガ足りナイト云フコトデ、肥料ハドウシテモ片寄ツテ居ルノデアリマス、是ハドウシテモ完全肥料ヲヤラナケレバナラナイ、政府ハ此ノ際進ンデ此ノ化成肥料、配合肥料ヲ禁止サレナケレバ駄目デアリマス、ソレト共ニ此ノ不足致シマシタ肥料ヲ割當テマス時ニ於テハ、肥料代ヲ持タス者デモ土地ガアレバ必ず完全ナル肥料ヲ入レテヤル、其ノ代リ必ズ秋ニハ小作料ヨリモ優先シテ其ノ肥料代ヲ取ルト云フ方策ヲ講ゼラレマシテ、現在肥料入レ不足ニナツテ居ル所ニ肥料ヲ御入レニナリマスナラバ、私ハ必ず一割ヤ一割五分ノ増産ハ可能デアルト思フノデアリマス、サウ云フ細カイ點マデ注意致サレマシタ所ノ肥料割當政策ヲ御執リニテラナケレバイケナイト思フノデアリマシテ、此ノ點ニ對シマシテ農林大臣ノ御用意ヲ承リタイノデアリマス

更ニ吾々ガ考ヘナケレバナラナイ點ハ、此ノ生産費ノ點ニ付キマシテ御注意願ヒタイ點ハ、電氣ノ問題デゴザイマス、御承知ノ通り日本ノ農業ニ於キマシテ、今日機械化ノ行ハレテ居リマス部分ハ極メテ少イノデアリマス、併シナガラ日本ノ農業ニ於テ完全ナル機械化ガ行ハレテ居リマス部分ハ調製脱穀デアリマス、今マデ土臼ヲ使ツテ人間ノ力デヤツテ居リマシタ調製脱穀ガ、今日デハ石油發動機カ、電氣發動機カ、或ハ水車ニ依ツテ、自然ノ力、機械ノ力ヲ使ツテ居ルノデゴザイマス、最近努力ガ拂底致シマシタ結果、電氣ノ需要ト云フモノハ非

常ニ多クナツテ來タノデゴザイマス、隨テ農業生産費ノ中ニ於テ電氣ノ持つテ居リマス所ノ比率ト云フモノハ、非常ナ重大性ヲ備ヘテ來タノデゴザイマシテ、之ヲ安ク供給スルカ高ク供給スルカト云フコトハ、農産物價ノ値上リトナリ、農業生産費ノ値上リトナリ、非常ナル問題トナルノデゴザイマス、所ガ今日電氣ノ利用ノ方法ハドウナツテ居ルカト申シマス、農林省ハ調製脱穀機ニ付テ共同作業場ヲ指導シテ居ラレマスケレドモ、共同作業場ハ農家千軒ニ三軒位シカナイ、千戸ノ農村ニ付テ三戸位シカナイノデアリマス、詰リ足ラナイノデアリマス、隨テ農民ハ個人々々デ電氣ヲ引イテ居ルノデゴザイマスガ、一馬力ノ「モーター」ヲ調製脱穀ノ爲ニ引キマス、三町以上ノ土地ガナケレバ引合ハナイノデゴザイマス、所ガ日本ノ農民ハ一町五位位シカ作ツテ居ハシナイ、三町持タヌ者モ損ヲシテ電氣ヲ引張り込ンデ居ルノデアリマスルカラ、之ニ對シマシテ四五軒ニ一ツツノ共同利用ノ指導獎勵ノ方法ヲ御考ニナリマシタナラバ、是ハ農村ノ勞働力不足ノ緩和ノ上ニ於テ、重大ナル效果ヲ齎スト考ヘルノデゴザイマス、ソレダケデナシニ、マダ電氣ノ問題デ重大ナル關係ヲ持つテ居リマスノハ、灌漑用ノ揚水機及ビ排水用ノ排水機ニ使フ灌漑排水ノ電氣ナノデゴザイマス、私ハ最近之ヲ調べマシテ非常ニ驚イタノデゴザイマスガ、新潟縣ノ中蒲原郡ノ石山村ト云フ村デ、七ツノ用排水組合ガゴザイマシテ、

低い田圃ノ水ヲ揚ゲマス爲ニ二万數千圓ノ金ヲ使ツテ居リマシテ、反當リ二圓ノ金ヲ使ツテ居ルノデアリマス、隨テ農業生産力ノ上ニ於キマシテ非常ニ重大ナル意義ヲ持つテ居ルノデゴザイマスルガ、之ニ對シマシテ電氣會社ハ獨占資本家デアル、農民ハ弱小ナモノデアル、隨テ其ノ弱小ナ農民ト電氣會社トノ間ノ農業用電氣ノ供給條件ト云フモノハ、非常ニ不利益ニナツテ居ルノデゴザイマシテ、此ノ不利益ヲ打破致シマスルコトハ、極メテ必要デアラウト考ヘルノデゴザイマス、私ハ斯ウ云フ點ニ付キマシテ取付ケ、取外シ、給燈料、供給條件、是等ニ付テハ農林省ト逓信省ト御協議ニナツテ、日本ノ農業生産力擴充ノ爲ニ特ニ安イ政策料金制ヲオヤリニナツタ宜イト思ヒマス、特ニ安クシテヤリ、ソレカラ灌漑用排水ニ使ヒマスル電氣ノ如キハ、深夜間ノ餘剩電力ヲ使ハセルコトニ依ツテ、只デ供給スルト云フ途ヲ講ジタナラバ、濕田ノ爲ニ裏作ガ出來ナイ田圃ガ、電氣ノ供給ニ依ツテ裏作ガ出來ルト云フコトニナツテ來ルノデゴザイマシテ、非常ニ重大ナコトデアルト考ヘルノデゴザイマスガ、此ノ點ニ付テ一ツ逓信大臣ト農林大臣ノ御所見ヲ承リタイト考ヘルノデゴザイマス、私ハ時間ガアリマセヌノデ、アトハ端折りタイと思ヒマスガ、極ク簡單ニ項目ダケ——マダ七ツハツモ項目ヲ持つテ居ルノデゴザイマスガ、項目ダケヲ申上ゲマシテ、之ニ對シマシテ御所見ヲ承リタイト思フ

ノデアリマス、斯ノ如キ農業内外ニ互ル革新政策ヲ斷行スルコトニ依ツテ、日本ノ農林水産物ハドンナコトガアツテモ、供給不足ヲ來サセナイト云フ用意ヲサセマスコトハ、極メテ適當デアツテ、吾々モ之ニ協力ヲ惜ム者デハナイガ、萬々一ノコトヲ考慮スル時ニ、兵隊ガ應召シテ居ル譯デモ何デモナイ臺灣朝鮮等ニ對シマシテ、増産ヲモツト徹底的ニヤラセル必要ガアルト考ヘルノデアリマス、内地ノ農業ヲ壓迫シハシナカト云フ虞ノ爲ニ、僅ニ百數十萬石ヲ朝鮮ト臺灣ニ割當テテ居ラレルヤウデアリマスケレドモ、私ハ米ハ多々益、辨ズルノデアル、此ノ際臺灣及ビ朝鮮ニ向ツテハ、モツト思切ツタル獎勵ト割當ヲオヤリニナル用意ヲ御考ヲ願ヒタイト云フコトヲ、農林大臣及ビ拓務大臣ニ要求シタイト考ヘルノデアリマスガ、之ニ付テ一ツ額、其ノ他見透シニ付テ御話ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

其ノ次ハ消費節約ノ問題デアル、私ハ斯ノ如クシテ内地、外地ニ互ツテ出來ルダケノ増産ヲ圖リマシテモ、而モ尙且ツ日本ノ戰時ノ狀態ヲ考ヘマスナラバ、此ノ際消費節約ヲ今カラヤル必要ガアルト思フノデアリマス、但シ消費節約ハ國民ノ元氣ヲ衰ヘサセナイヤウナ方法ニ依ツテヤラナケレバナラナイノデアリマス、吉植君モ申サレタノデアリマスケレドモ、私ハ今日消費節約ノ見地ニ立ツテ、白米ヲ禁止致シマシテ、玄米、半搗米若クハ七分搗米ニ致シマシタナラバ、ソレニ依ツテ何百萬石カラ節約スル

ト云フ方途ヲ御考ニナルコトガ必要デア
ト考ヘルノデアリマスガ、是ハ如何デア
カ、是ヨリ又別ニ案ヲ御持チニナツテ居
カドウカ、先ツ消費節約ニ付テ御伺致シ
イト思フノデアリマス

更ニ農村ハ今日軍隊及ビ産業ノ人的基礎
デアリマス、農村ヲ破壊シテハナラナイ、
然ルニ農村ニ於テハ過勞ノ爲ニ婦人ノ流産
ガ最近著シク目立ツテ殖エテ來テ居ルノデ
アリマス、ソレト共ニ勞力不足ノ爲ニ、結
婚ノ年齢ガ二十二デ結婚シテ居ツタモノガ、
二十五トナリ二十六ト引上ゲラレテ來テ居
ルノデアリマス、私ハ農村ニ對シテ是ダケ
ノ増産ヲ要求スルナラバ、一方ニ農民ノ榮
養ト保健等ノ爲ニ萬全ノ用意ヲ國家ハ致シ
テカラ要求スルコトガ適當デアラウト考ヘ
ルノデアリマス、然ルニ農村ノ醫者ハ應召
サレレバ、モウ歸ツテ來ハシナイノデアリ
マス、指導行政ガ農業ニ於テ必要デア
ルニ、零細農ニ付テハ指導衛生ガ必要デア
ル、私ハ農村ノ保健政策ニ付テ厚生省ハ一
體如何ナル方針ヲ持ツテ居ルカニ付テ承リ
タイト思フノデアリマス(拍手)厚生省ハ都
會ノ勞働者ニ對シマシテハ工場課ヲ設ケラ
レ、勞働課ヲ設ケラレマシテ、色々ヤラレ
テ居ルケレドモ、特ニ農村ノ爲ニ農村局或
ハ農村課ヲ作ツテ、農民ノ保健指導ノ爲ニ
ヤツテ居ラレト云フ事實ハナイ、厚生省
ハ一體日本ノ全體ノモノデア
ルカ、町ノモノデア
ルカト云フコトヲ農民ハ疑ツテ居ル
ノデアリマス、或ハ國民健康保險ヲヤツタ

カラ、是デ宜イト言ハレルカモ知レマセ
ガ、アレバカリノ國民健康保險デドウナル
ノデアリマスカ、效果ガ一遍ニ全面的ニ及
ブ所ノ方途ヲ考ヘナケレバナラスノデアリ
マシテ、私ハ國家ノ財政ノミニ頼ラズ、例
ヘバ醫療組合ノ病院ヲ共管スルコトニ依ツ
テ指導スルコトカ、或ハ産業組合ガヤツテ居
ル保健運動ヲ厚生省ガ農村課ニ於テ指導ス
ルトカ云フヤウナ方法ニ依リマシテ、農民
厚生兩省ハ單ニ衛生ハ俺ノ方ダ、生産ハ俺
ノ方ダナドト云フコトデナシニ、生産力増
進ノ爲ニ提携ヲサレマシテ、萬全ノ途ヲ講
ゼラレタイト考ヘルノデアリマスガ、之ニ
對シマシテ農林大臣及ビ厚生大臣ノ御所見
ヲ承リタイト思フノデゴザイマス、私ハ尙
ホ申上ゲタイコトガアリマスケレドモ、
甚ダ時間ヲ取リマシタノデ是ダケデ質問ヲ
終リタイト思ヒマス(拍手)

(國務大臣櫻内幸雄君登壇)

○國務大臣(櫻内幸雄君) 三宅君ニ御答辯
申上ゲマス、現在ノ時局ニ對シテ本案ハ不
徹底デハナイカ、増産計畫ト農民生活安定
ト云フモノニ主眼ヲ置ク必要ガアルデハナ
イカ、又萬一ノ場合ニ於テハ、價格ノ統制
ヲ別ニ決定スル必要ガアルデハナイカ、斯
ウ云フ風ナ意味ノ御問デアリマシタガ、勿
論増産ハ必要デアリマシテ、先刻來度々申
上ゲマス通り、此ノ問題ニ對シテハ全力ヲ
盡シテ居ルノデゴザイマシテ、各位ノ御協
力ヲ願ヒタイト思ヒマス、農民ノ生活安定
ノ問題ハ、是ハ固ヨリデアリマシテ、此ノ

點ニ付キマシテモ十分ニ留意ヲ致シテ居
譯デアリマス、價格ヲ萬一ノ場合ニ於テ統
制スル、斯ウ云フ問題ハ本案ニ於テモ最高
最低ノ價格ガアリマスカ、場外ニ於テ若シ
ソレニ背イタ場合ガ起ツテ、米價ノ問題ガ
茲ニ混亂スルガ如キ場合ガ起リマシタナ
バ、是ハ即チ米價ノ公定價格ヲ決定シサ
スレバソレデ宜イト思ヒマス

ソレカラ營利會社ニ一任シテ此ノ仕事ヲ
ヤラセルコトハ不都合デハナイカ、國家ガ
之ヲヤルベキデハナイカト云フ御議論デア
リマスガ、ソレハ一應尤トモ考ヘマスケレ
ドモ、今日ノ場合官民一致シテ事ヲ致スコ
トガ最モ合理的デア
ルト考ヘマシテ、左様
ニ決定致シタノデア
リマシテ、唯其ノ經營
者其ノ者ニ付キマシ
テハ、深く注意ヲ致
シテ任命致シタイト
考ヘマス

ソレカラ取引所側カラ重役ヲ出ス云々ト
云フ御意見デア
リマスケレドモ、是ハ大體
ニ於テ政府ガ半數ヲ持ツテ居
リマスカ、尙ホ取引所以外カラモ株主ガ出ルコトデア
リマスカ故ニ、公平適當ナル所ノ重役ガ選
任サレルコトト考ヘマス

銘柄取引ハ止メテ一定シタル一本槍デ制
定シタラ宜イデハナイカト云フ御話デア
リマスケレドモ、御承知ノ通り米ハ各地各樣
デアリマシテ、若シ之ヲ今日ノ如キ格付米
ノ仕組ニ依ツテ取引サレマスカ、茲ニ自
然ト投機慾ガ起ツテ困ルノデア
リマシテ、此ノ目的ヲ達成スル爲ニハ、即チ一定ノ何
縣ノ何産ノ何等米ト云フコトニ致シマシテ、

相對的ニ取引ヲ致シマスカ、茲ニ投機慾
ト云フモノハ減少シテ投機ガ抑壓出來ル
デアリマシテ、左様ニ致シタイト考ヘテ居
ルノデアリマス

ソレカラ生産者カラ消費者ニ直接ヤルト
云フ計畫ヲ立テタラドウカ、即チ生産者ト
消費者ト取引スルコトガ一番間ノ費用ガ掛
ラヌデ宜イデハナイカト云フ御話デア
リマスカ、是ハ理論トシテハサウデア
ルカモ知
レマセマスガ、實際問題ト致シマシテ、何
ノ商賣デモ何事デモ、茲ニ中間機關ガアツテ、
之ヲ援助シテ行クト云フコトニ於テ、初メ
テ圓滑ニ行クノデア
ツテ、若シ消費者ト生
産者ダケデア
リマスカナラバ、茲ニ非常ナル
摩擦ガ起ラヌトモ限ラヌノデア
リマス、故
ニ此ノ點ニ付キマシ
テハ茲ニ第三者ノ米穀
商人ガ入ルト云フコトガ、最モ適當デア
ルト考ヘルノデア
リマス

ソレカラ米價ノ二重價格ト云フ御話デア
リマスガ、是ハ現在ニ於キマシテモ非常ニ
困ラレテ居ル所ノ方々ニ對シテハ、農林省
ニ於テ所有シテ居ル所ノ米ヲ特別ニ安ク拂
下ゲテ居ルヤウナ狀態デア
リマシテ、一部
ハ行ツテ居ルノデア
リマスケレドモ、全般
的ニ二重價格ヲ設ケテ、一部ノ人ニハ高ク
賣リ、一部ノ人ニハ安ク賣ルト云フ制度ハ、
到底今日ノ場合ニ於テハ難カシイト思ヒマ
ス、小賣商人ノ手数料ノ問題ヲ決定致シテ、
サウシテ安ク一般ニ供給スルト云フ意味ノ
御話デア
リマシタガ、是ハ此ノ市場ガ出來
テ、市場ノ相場ガ決定シテ、全國ノ米ガ斯

ク斯クノ相場デアルト云フコトガ茲ニ明ニナリマシタ以上ハ、當然其ノ間ニ中間ノ人々ガ非常ナ暴利ヲ擧取スルト云フコトハ出來ヌ結果ニナルノデアリマシテ、要スルニ消費者ガ安ク米ヲ使用スルコトガ出來ルト考ヘマス、今日ノ農村ノ狀態ハ總テ減産ノ條件デアアルガ、増産ノ用意ガアリヤ否ヤト云フ御質問デアリマスガ、是ハ以前ニ答辯致シマシタカラ茲ニ省キマス

ソレカラ土地制度ノ問題、土地國家管理ノ問題ニ關シテ非常ニ御意見ガアリマシタガ、是ハ御意見トシテ傾聴致シマシテ、中ニハ賛成致スコトモアリマスケレドモ、賛成致サナイコトモアリマス、此ノ問題ニ對シマシテハ今日之ヲ取上ゲテ實行致スト云フ言明ヲ致スコトノ出來ナイノヲ遺憾ト致シマス

ソレカラ小作料値下ノ問題、或ハ其ノ他澤山ノ問題ガアリマス、或ハ農地法等ノ問題ニナリマスケレドモ、是ハ御意見トシテ拜聴致シマス、吾々ト致シマシテハ、全體ノ農民ヲシテ出來得ベクンバ自作農ニ致シタイト云フ見地カラ、即チ昨年農地調整法ト云フモノヲ設ケマシテ、二十四箇年間從來ノ小作料ヲ拂ツテ居レバ、其ノ土地ガ自分ノモノニナルト云フ見地カラ、アア云フ案ヲ立テタ譯デアリマスガ、尙ホ一層之ヲ發達セシムルト云フ方法ニ努力致シタイ考デアリマス、ソレカラ肥料對策其ノ他ニ付テ御意見ガアリマシタガ、肥料ニ對シマシテハ十分ニ投機ヲ防グ方法ヲ講ジタイト

思ヒマス、ソレカラ電力ノ問題ニ對シテ御意見ガアリマシタガ、電力ニ對スル問題ハ、是ハ全ク吾々モ同意見デアリマシテ、其ノ方針ニ依ツテ進ミタイト考ヘテ居リマス、尙ホ種々御議論ガアリマシタケレドモ、適當ナ機會ニ於テアトハ御返事申上ゲタイト思ヒマス

〔國務大臣八田嘉明君登壇〕

○國務大臣(八田嘉明君) 三宅君ノ御質問中、農業用ノ物資器材等ノ價格ガ騰貴シタガ爲ニ、其ノ生産費ガ昂騰スルニ拘ラズ、其ノ値上リト收入トノ均衡ガ取レナイト云フ問題ニ付キマシテ御話ガアリマシタガ、全ク斯ルコトハ極力避ケナケレバナラヌノデアリマス、ソレガ爲ニハ商工省ト致シマシテハ、敢テ農業物資ノミナラズ必要ナル生活必需品ニ付キマシテハ、出來ルダケ價格ノ昂騰ヲ抑制スルコトニ今日努メテ居リマスノデ、今後ニ於キマシテモ是ガ價格ノ抑制竝ニ配給ノ圓滑ト云フコトニ付キマシテハ、物資ノ需給調整ノ上カラ考ヘマシテ、最善ヲ盡シタイト存ズル次第デアリマス、其ノ他ノ問題ハ別ノ機會ニ御答申上ゲタイト思ヒマス

〔國務大臣廣瀬久忠君登壇〕

○國務大臣(廣瀬久忠君) 御答致シマス、農村ノ問題ニ付キマシテ、厚生省ト致シマシテモ從來モ種々行政上努力ヲ致シテ居リマス、勿論都會ノミノ厚生省デナイコトハ申スマデモナイコトデアリマス、御話ノヤウニ厚生省トシテハ既ニ一般的ニハ國民健

康保險ノ如キ、或ハ無醫村ニ對スル對策ノ如キ、或ハ保健所ノ對策ノ如キ、各般ノ豫防行政或ハ保健衛生行政ヲ指導致シテ居リマス、尙ホ此ノ問題ニ付テハ農林省トモ十分連絡ヲ取ツテ、將來一段ト努力スル積リデアリマス

〔大藏大臣ハドウシタ〕ト呼ヒ其ノ他發言スル者アリ

〔國務大臣鹽野季彦君登壇〕

○國務大臣(鹽野季彦君) 生産力ヲ増大セシメ、又生産費ヲ低下セシムル爲ニ、農村ニ於テ電力ヲ利用スル爲ニ、安價ナル電力ヲ供給スルト云フコトノ必要デアリマスコトハ、洵ニ御説ノ通りデアリマス、政府ニ於キマシテモ水力利用ノ開發及ビ指導ノ爲ニ、又共同作業場ニ對スル配電施設ノ助成ノ爲ニ、十四年度ノ豫算ニ於テモ相當計上ヲ致シテ居リマス、尙ホ電力ヲ安價ニ配電致シマスルニ付テハ、國策會社トシテ、政策料金トシテ、他ノモノニ比シテ特ニ低廉ニ供給スルコトニ致サセルヤウニナツテ居リマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 小田榮君

〔小田榮君登壇〕

○小田榮君 私ハ本案ニ關シマシテ極ク簡單ニ二三重要ノ點ニ付テ御質問申上ゲマス其ノ前ニ戰時下日本ノ農村ノ一狀況ヲ御報告申上ゲマス、本年初頭沖繩縣ノ國頭郡金武村ノ戰死者ヲ吊問シテ參ツタノデアリマスガ、其ノ戰死者ノ家ガ八疊程ノ茅葺デアリマス、其ノ一間ハ板ノ間デアリマシテ、

六疊程ノ葦ガ一枚敷イデアリマス、オ盆ガ置カレテ居リマス、勿論其ノオ盆ハ斯ウ云フ上等ノモノデハナイノデアリマス、ソレニ缺ケテ居ルオ茶飲茶碗ガ置カレテ居リマス、サウシテ其ノオ茶飲茶碗ニハ灰ガ僅カ入ツテ居リマス、此處ニハ五ツニナル子供ト三ツニナル子供ガ母ノ歸リヲ待つテ居リマス、是ガ聖戰目的ノ爲ニ 陛下ノ御爲ニ命ヲ捧ゲ奉ツタ所ノ戰死者ノ家族ノ姿デアリマス、母ハ畑ニ日傭トシテ嬰兒ヲ背ニシテ働キニ出テ居リマス、又同ジク國頭郡本武村ノ瀬底島ノ出征兵士ノ宅ヲ見舞ツタノデアリマスガ、三人ノ男ノ子ヲ持ツ母ハ、一人ヲ戰線ニ送り、一人ハ兵營ニ入營セシメ、又一人ハ出稼ギニ出テ居リマス、サウシテ食ベルコトガ出來ナイ爲ニ、隣リ近所ノ者ガ此ノ家ヲ護ル老婆ニ對シテ、芋ノ補給ヲ致シテ居リマス、是ガ出征軍人ノ母デアアル、所ガ私ハ其ノ母ノ子デアアル所ノ出征軍人ニ戰線ニ於テ邂逅致シタノデアリマス、兵士ハ之ヲ見ヨト云ツテ私ニ一片ノ紙ヲ見セテ呉レマシタ、ソレハ電報デアリマス、是ハ其ノ兵ガ大阪カラ出發スル時ニ、母カラ送ツタ所ノ激勵ノ電報デアリマス、文面ハ「亡キ父ガ看護ル、勇ミ立テ」、サウシテ此ノ兵士ハ、其ノ電報ヲ懷中ニシテ懸命ニ君國ノ爲ニ戰ツテ居ルノデアリマス、此ノヤウナ戰兵、此ノヤウナ農村ノ實情ヲ吾々ハ目撃シナガラ、此ノ農民ノ爲ニ、此ノ國民ノ生キ得ル爲ニ、十分ナル對策ヲ講ズルコトガナケレバ、或ハ惧レルノデアリマス此ノ度

ノ聖戰目的ヲ貫徹シ得ルカ否カラ、御承知
ノヤウニ沖繩ハ絶海ノ孤島トモ申セマス、
而モ此處ニハ六十萬ノ國民ガ住シテ居リマ
ス、其ノ六十萬ノ申ノ大部分ニ依ル所ノ一
年間ノ農産收入ハ、一戸當リ三百二十六圓
デアリマス、所ガ内地一般ハドウカト云フ
ナラバ、一千一百四十七圓二十八錢デアリ
マス、此ノヤウナ狀態ニ置カレテ居ル所ノ
沖繩農民ガ、本案ニ依ツテハ何等酬ハレル
所ガナイノデアリマス、何トナレバ、沖繩
農民ハ主ニ甘蔗作農民デアリマス、製糖農
民デアアルノデアリマス、サウシテ米ハ主ト
シテ臺灣ヨリ蓬萊米ヲ移入シテ居ルノデア
リマス、内地農民ノ爲ニ、米作農民ノ爲ニ、
此ノ議會ニ於テ種々ナル政策ガ審議セラ
レ、決定セラレテ行ツタノデアリマスガ、
中央ヨリ遠ク隔ツテ居ル爲ニ、沖繩農民ハ
只今申シマシタガ如キ有様デアリマス、而
モ其ノ上ニ交通ノ不便ガアリ、或ハ農業指
導ノ拙劣、又ハ農器具ノ不足、肥料ノ問題
ガ横ハツテ居リマセウ、諸多ノ理由ニ依ツ
テ、其ノ僅カ三百二十何圓ノ金ヲ以テ、一
家ノ者ガ生計ヲ立テ行カケレバナラス
ノデアリマス、ソレガ何ガ故ニ顧ミラレル
コトガ少イカト言ヒマス、内地一般ノ農
民ガ米作ヲ主トシテ居ルニ比ベテ、是ガ甘
蔗作ヲ主トシテ居ルカラデアリマス

共ニ、臺灣米ハ年々五百萬石以上ノモノガ、
其ノ機構ヲ通シテ内地ニ移出セラレルノデ
アリマス、コチカラ申セバ移入セラレル
ノデアリマス、サウシテ其ノ米管案ノ持ツ
所ノ本質ハ、臺灣農民ガ現在米價ニ依ツテ
取得シテ居ル所ノ收入ヲ、一石ニ付テ二圓
ヅツ抑ヘテ行カウ、サウシテ其ノ費用ヲ以
テ米作以外ノ主要ナル作物ノ開發ノ爲ニ力
ヲ致サウト云フコトガ、意圖サレテ居ルノ
デアリマス、而モ是ニ於テ吾々ガ絕對ニ
逸スルコトノ出來ナイコトハ、一石ニ付
テ二圓、五百萬石デ約一千萬圓ノ金ヲ浮
カサウガ爲ニ、臺灣農民ノ收入ヲ減少サセ
ルノデアリマス、所ガ此ノ米作農民ノ收
入ヲ抑ヘルコトニ依ツテ、多分ニ甘蔗作ガ
増大シテ行クモノデアアルト云フコトデアリ
マス、而モ其ノ甘蔗作ハ、直チニ以テ製糖
資本家ノ利得ヲ増大スル所以デアリマス、
此ノ所ニ吾々ハ只今審議セラレツツアル所
ノ本案ガ、臺灣農民ノ現狀ニ對シテ十分ナ
ル認識ト、十分ナル對策ヲ持ツナラバ、當
然此ノ米ノ結制ニ隨伴シテ、製糖業ノ結制
ヲ敢行シナケレバナラスト云フコトデアリ
マス、米作農民ガ零碎ナル收入ヲ石二圓モ
抑ヘラレル、而モ製糖資本家ハ二億圓内外
ノ投下資本ニ依ツテ、年々三割乃至四割ノ
利潤ヲ擧ゲテ居リマス、年々七千萬圓ニ及
ブノデアリマス、七千萬圓ノ利潤ヲ獲得シ
ツツアル所ノ製糖資本家ノ其ノ利潤ヲ、其
ノ儘容認シナガラ、米作農民ノ僅ナ收入カ
ラ、一年間ニ一千萬圓ノモノヲ獻納サセル、

此ノヤウナ方策ニ吾々ハ大キナ社會的ナ、
政治的ナ矛盾ノ存スルコトヲ否ミ得ナイト
思フノデアリマス
(發言スル者アリ)
○副議長(金光庸夫君) 暫クデスカラ御靜
聽ヲ願ヒマス
○小田榮者(續) 而モ今マデノ質問者ニ依
ツテ述ベラレマシタ如ク、此ノ案ガ實施セ
ラレマシテモ、現下日本農村ノ持ツ所ノ種
種難多ナル不合理ハ、未ダ根本的ニ改革ハ
セラレテ居ナイノデアリマス、ソレハ肥料
資本家ノ占メツツアル所ノ利潤デアリ、サ
ウシテ又小作農民ノ生活ヲ常ニ重壓シツツ
アル所ノ小作制度ノ問題デアリマス、或ハ
朝鮮ニ於テハ八割カラ九割ノ、吾々ノ常識ヲ
以テシテハ考ヘルコトノ出來ナイ、途方モ
ナイ小作料ヲ強制セラレテ居ル朝鮮同胞ガ
居ルノデアリマス、此ノヤウナ不合理性ヲ
徹底的ニ改廢シテ、以テ勤勞者ノ生活ヲ安
定セシメルコトガ、戰時下ニ於ケル所ノ政
府當局ノ執ルベキ、最モ重大ナル政策ナリ
ト考ヘルノデアリマス、之ニ對シテ農林大
臣ハ如何ニ御考ニナツテ居ルカ、明確ナル
御答辯ヲ戴キタイト思ヒマス
○副議長(金光庸夫君) 小田君、成ベク問
題外ニ涉ラナイヤウニ……
○小田榮者(續) 而シテ其ノ小作制度ノ問
題及ビ小作制度ニ對シテノ政府ノ意見ハ度
度出テ居リマスルガ、製糖業ニ對スル國家
的結制ニ對シテ如何ナル御意見ヲ御持チデ
アルカ、之ニ對シテ御答辯ヲ要求致シマス、

私ハ既ニ時間モ經ツテ居リマスノデ、アナ
タ方ノ望マレル如ク簡單ニ濟マセマス
端折リマシテ、只今申シマシタ所ノ小作
制度ノ根本的ナル改革、即チ日本ノ農民ニ
對シテ、其ノ生活ヲ保障スル所ノ耕地ヲ與
ヘルト云フコトガ爲サレズシテ、我ガ日本ハ
豐葦原瑞穂ノ國ト言ハルベキデハナイト思
フ、而モ吾々ハ只今日本帝國以來會テ無キ
一大戰爭ヲ戰ツテ居リマス、而シテ忠勇ナ
ル皇軍將士ノ其ノ努力ハ、畏クモ御稜威ノ
致ス所トハ申セ、海陸ニアノ赫々タル戰果
ヲ獲得致シテ居ルノデアリマス、而モ私ハ
今次聖戰ノ眞ノ目的ヲ達成スル爲ニモ、而
シテ事變處理ノ主要ナル方策ト致シマシテ
モ、日本ニ於テ日本ノ國內ノ農村ノ持ツ社
會的不合理デアアル所ノ小作制度ヲ根本的ニ
改革スルコトガ必要デアアル、ソレガ延イテ
ハ支那ノ農村ノ持ツ所ノアノ農奴制ノ改革
ニ對シテ、日本民族ガ其ノ決意ト信念ヲ持
ツモノデアアルト云フコトヲ明示スルコトガ
出來ルト信ズル者デアリマス、而シテ日本
ノ農村ハ其ノ耕地ハ狭小デアリマス、五反
百姓デアリ、或ハ三反百姓デアリマス、而
モ小作人ガ多數ヲ占メテ居ル此ノ日本ノ農
民ニ對シテ、吾々ハ生活ヲ保障スルニ足ル
所ノ土地ヲ與ヘナケレバナライ、其ノ土
地ハ大陸ニアルノデアリマス、北滿ノ方面
ニ於テハ拓務省或ハ軍部ニ於テ國防移民ガ
徹底化サレツツアリマス、勿論慶賀スベキ
コトデアリマス、而モ中支、南支ニ對シテ
ハ、未ダ政府當局ハ十分ナル日本農民ノ移

植政策ヲ御立テニナツテ居ナイト思フノデアリマス、政府ハ此ノ中支、南支、或ハ海南島ニ對シテ、日本農民ノ大移動ヲ講ズル御意思ハナイカ、單ニ軍事ニ依ル所ノ對支處理ノミデハナクシテ、商業資本ノ對支進出ノミニ止ラズ、日本農民ヲ支那大陸ニ移植スルコトニ依ツテ、支那ノ大衆ト日本ノ大衆ガ其ノ生活ヲ通ジテ、眞情ヲ通ジテ東洋ノ樂土ヲ構築スル、此ノ信念ニ副ハシムルノ意思ハナイカ、其ノコトガ日本ノ……

〔議長注意セヨ〕ト呼ヒ其ノ他發言スル者アリ

○副議長(金光庸夫君) 小田君ニ注意致シマス、問題外ニ涉ルコトガ多イヤウデアリマスカラ御注意願ヒマス

○小田榮君(續) 其ノ事ガ現在困窮ノ中ニアツテモ、尙ホ能ク國家民族ノ防衛ト發展ノ爲ニ、其ノ生命ト其ノ勤勞ヲ致シテ居ル所ノ、日本農民ニ對スル生活改善ト向上ノ途デアルト信ズルノデアリマス、而シテ私ハ此ノ諸多ノ國民生活上、社會的、政治的ナ矛盾ヲ多分ニ腹ニ持ツテ居ル所ノ日本ニ於テ、戰時内閣トサレデハ十分ナル革新意思ヲ敢然ト發揚スル所ノ決意ガナケレバナラスト思フノデアリマス、只今申シマシタ所ノ日本農民ノ大陸進出ニ對シテ、如何ナル決意ヲ御持チデアルカラ承リタイト思フノデアリマス(拍手)

〔發言スル者多シ〕

○副議長(金光庸夫君) 小田君ノ御質問ハ大部分問題外ニ涉ルト存ジマス、御注意ヲ

願ヒマス

○小田榮君(續) 最後ニ私ハ饑餓窮乏ノ中ニアツテモ、忠勇ナル日本臣民ハ其ノ男子タルト女子タルトヲ問ハズ、一意獻身報國ノ念ニ燃エテ居ルノデアリマス、而モ私ハ此ノ戰時議會ニ初メテ臨ンデ、初メテ此ノ壇上ニ於テ政府當局ニ對スル質問ヲ試ミタノデアリマス、所ガ今マデ感ズル所ニ依レバ、議場ニ於テモ騒然タルモノガアル、或ハ政府當局ニ於テモ、眞ニ戰時内閣トシテノ眞劍サガアルヤ否ヤヲ疑ハシメルモノガアルノデアリマス、數日前平沼首相ハ此ノ座ニ於テ、戰時議會ノ首相トシテ爲スベカラザルニ拘ラズ……

〔議長注意セヨ〕ト呼ヒ其ノ他發言スル者アリ

○副議長(金光庸夫君) 小田君ニ注意致シマス

○小田榮君(續) 不謹慎ナル居睡リヲシテ居タノデアリマス

〔發言スル者多シ〕

○副議長(金光庸夫君) 問題外ノ質問ヲ爲サツテハイケマセヌ

○小田榮君(續) ソレニ近衛前首相ノ如キハ革新政策ヲ呼號シナガラ、關係カラ戰線方面ニ皇軍慰問ニ出掛ケルコトヲ要求セラレタニ對シテ……

〔發言スル者多シ〕

○副議長(金光庸夫君) 小田君、發言ヲ中止致シマス、降壇ヲ命ジマス

〔答辯ハ要ラス〕ト呼ヒ其ノ他發言スル者アリ

〔國務大臣櫻内幸雄君登壇〕

○國務大臣(櫻内幸雄君) 今小田君ハ甘蔗ノ問題ヲ御話ニナツタヤウデアリマスガ、甘蔗ノ問題ニ對シマシテハ、農林省トシテハ糖業獎勵法ニ依リ獎勵ヲ致シテ、尙ホ今後モ其ノ方針ニ進ミタイト思ヒマス、滿洲移民ニ關スル問題ハ、是ハ分村計畫ヲ立テテヤツテ居ルノデアリマスカラ、御諒承ヲ願ヒマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 是ニテ質疑ハ終了致シマシタ——本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ議長指名三十六名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——此ノ際御諮リ致スコトガアリマス、麻生久君病氣ニ付三月六日より三月十五日マデ、右請暇ノ申出ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可スルニ決シマシタ

○服部崎市君 殘餘ノ日程ハ延期シ、本日は是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス
午後八時十分散會

衆議院議事速記録第二十號中正誤
四〇三頁三段一三行 池田秀雄君ノ次ニ藤生安太郎君ヲ加フ